

営工第4-6号

市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事

上越市

③ 防水改修工事	⑧ シーリング	[3.1.4][表3.1.2][3.7.4~3.7.7]	改修工法の種類 ・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 ・拡張シーリング再充填工法 ・ブリアック工法 シーリング材の種類及び施工箇所 [3.7.2][表3.7.1] ※下表以外は、改修標準表3.7.1を標準とする 施工箇所 シーリング材の種類(記号) 成形板面目地、サツ周囲、防水立上り外壁樹皮変成シリコン系(MS-2) 外壁目地、庇裏目地 ※リリアン(PS-2) 接着性試験 [3.7.8] ※簡易接着性試験・引張接着性試験(対象施工部位) ただし試験成績書を監督員に提出し、承諾を得た場合は試験を省略できる 行わない 撤去既存シーリングの処理 事前調査等 行う(下記の要領で分析する) 行わない 現場においてサンプルを採集し、専門分析機関で分析を行う。 採取箇所 ※外壁目地 建具周囲目地 図示 採取箇所数 部材が異なる毎に1箇所 図示 分析によりPCBの含有が確認された場合は、下記により施工調査等を行い、適切に処理を行う 調査範囲 ※今回改修工事範囲全て 図示 調査内容 シーリング使用部位及び長さの確認 施工範囲と工事監理区の確認 仮設計画 廃棄物等の搬出方法																																	
	⑨ とい	[3.8.2][表3.8.1]	材種 [3.8.2][表3.8.1] ○配管用鋼管 ※リ硬質塩化ビニル管 ・リ硬質塩化ビニル管発泡三層管 多雪地域の軒どい取付け間隔 [3.8.2] ・適用する(0.5m以下) ○適用しない 鋼管製といの防露 [3.8.3][表3.8.4] ※改修標準表3.8.4による たてどい受け金物の取付け 図示 ・標準13.5.3(4)(4)による [3.8.3](13.5.3)																																	
10 7&8mm製笠木	7&8mm製笠木の種類	[3.9.2][3.9.3][表3.9.1]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>種類</th> <th>幅(mm)</th> <th>板厚(mm)</th> <th>表面処理・色合い</th> <th>固定間隔</th> <th>下地補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">オープン</td> <td>・250形</td> <td></td> <td>1.6以上</td> <td>・B-A-1</td> <td rowspan="3">建築基準法 ※行う (図示) に基づく指 定する条件 により定め る</td> <td rowspan="3">※行う (図示) 行わない</td> </tr> <tr> <td>・300形</td> <td></td> <td>1.8以上</td> <td>・B-A-2</td> </tr> <tr> <td>・350形</td> <td></td> <td>2.0以上</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">シール</td> <td>・板材折 曲げ形</td> <td></td> <td>・2.0</td> <td>・ブラス系</td> <td rowspan="2">に基づく指 定する条件 により定め る</td> <td rowspan="2">行わない</td> </tr> <tr> <td>・板材折 曲げ形</td> <td></td> <td>・2.0</td> <td>・ステンパー</td> </tr> </tbody> </table> 板材折曲げ形7&8mm製笠木の取付工法 笠木の固定金具は改修標準3.9.3(2)(7)とし、それ以外の取付方法は図示による	形式	種類	幅(mm)	板厚(mm)	表面処理・色合い	固定間隔	下地補修	オープン	・250形		1.6以上	・B-A-1	建築基準法 ※行う (図示) に基づく指 定する条件 により定め る	※行う (図示) 行わない	・300形		1.8以上	・B-A-2	・350形		2.0以上	・	シール	・板材折 曲げ形		・2.0	・ブラス系	に基づく指 定する条件 により定め る	行わない	・板材折 曲げ形		・2.0	・ステンパー
	形式	種類	幅(mm)	板厚(mm)	表面処理・色合い	固定間隔	下地補修																													
オープン	・250形		1.6以上	・B-A-1	建築基準法 ※行う (図示) に基づく指 定する条件 により定め る	※行う (図示) 行わない																														
	・300形		1.8以上	・B-A-2																																
	・350形		2.0以上	・																																
シール	・板材折 曲げ形		・2.0	・ブラス系	に基づく指 定する条件 により定め る	行わない																														
	・板材折 曲げ形		・2.0	・ステンパー																																
① 施工数量調査	① 施工数量調査	[1.5.2]	下記の劣化状況調査の結果について、施工方法、施工箇所、施工数量等をまとめた施工数量調査報告書を提出し、監督員の承諾を得て施工する。 調査範囲 仕上塗材仕上げの下地となる外壁、庇等の躯体コンクリート面、既存モルタル、タイル等の面 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に図示する。 ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 浮き部分を壁面に表示する。また、モルタルの剥離・剥落など欠陥部分を調査する。 コンクリートの表面の割れ及び剥落部を壁面に表示する。 仕上塗材等の劣化部分、剥落部等を壁面に表示する。 新規仕上塗材の美観に影響を与えるおそれのある段差部等を壁面に表示する。																																	
	② 外壁改修の保証等		※外壁改修工事(劣化状況調査、劣化部補修及び下地処理、シーリング、仕上塗材仕上げ)は、新潟県外壁補修工事業協同組合(以下、「組合員」という。)の施工とする ただし、やむを得ない場合は、劣化部補修を組合員以外の施工とすることができる。その場合は、組合員の施工指示による。 ※外壁改修工事について、受注者は新潟県外壁補修工事業協同組合と連名の保証書を提出する。 ※コンクリート部分の外壁は保証対象範囲外																																	
② ひび割れ部改修工法	② ひび割れ部改修工法	[4.1.4][4.3.4]	樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.4] <table border="1"> <thead> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(ml/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧球状樹脂</td> <td>0.2以上~1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・手動式球状樹脂</td> <td>0.2以上~0.3以下</td> <td>※50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>0.3超え~0.5以下</td> <td>※100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式球状樹脂</td> <td>0.5超え~1.0以下</td> <td>※150~250</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 注入材料 [4.2.2] ※建築補修用及び建築補強用球状樹脂(JIS A6024低粘度形又は中粘度形) 検査(コア抜き) [4.3.4][4.4.5] ※行わない 行う 抜き取り部の補修方法 ※充填工法(・球状樹脂モルタル・リリアンモルタル) [4.3.7]	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧球状樹脂	0.2以上~1.0以下	※200~300	※130	樹脂注入工法	・	・	・	・手動式球状樹脂	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40	樹脂注入工法	0.3超え~0.5以下	※100~200	※70	・機械式球状樹脂	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130	樹脂注入工法	・	・	・					
	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																
※自動式低圧球状樹脂	0.2以上~1.0以下	※200~300	※130																																	
樹脂注入工法	・	・	・																																	
・手動式球状樹脂	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40																																	
樹脂注入工法	0.3超え~0.5以下	※100~200	※70																																	
・機械式球状樹脂	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130																																	
樹脂注入工法	・	・	・																																	
② ひび割れ部改修工法	② ひび割れ部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.3.7]	充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7] 充填材料 ※リリアンモルタル [4.1.4][4.2.2][4.4.9] ・モルタル塗替え工法 ・現場調査材料 (セメントは本特記仕様書8-1、8-2「セメントの種類」による) ・既着合材料() 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の措置 ※ステンレス製アンカーを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る。 ・図示 既製目地材 ・適用する(形状 ※図示) [4.2.2]																																	

① ひび割れ部改修工法	① ひび割れ部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.3.5]	ウォットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th>充填材料</th> <th>種別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・シーリング材</td> <td>※1成分形又は2成分形 ※リリアン系シーリング材</td> <td>※リリアンモルタルの充填 ※行わない 行う</td> </tr> <tr> <td>・可とう性球状樹脂</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> シール工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.6] シール材料 ・パテ状球状樹脂 ・可とう性球状樹脂 ・液性リリアン樹脂 ※改修標準4.3.6(2)(ウ)を「プライマーを塗布したのち、シール材をパテ等から等クラックに押し込み、周囲と平滑に仕上げる。」と読み替える。	充填材料	種別	備考	・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ※リリアン系シーリング材	※リリアンモルタルの充填 ※行わない 行う	・可とう性球状樹脂																																																			
	充填材料	種別	備考																																																										
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ※リリアン系シーリング材	※リリアンモルタルの充填 ※行わない 行う																																																											
・可とう性球状樹脂																																																													
② 欠損部改修工法	② 欠損部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.3.7]	充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7] 充填材料 ・球状樹脂モルタル ・リリアンモルタル ※リリアンモルタルの塗り厚が20mmを超える場合、または現状成形が不可能な場合は監督員と協議すること。																																																										
1 既存モルタル塗りの撤去	1 既存モルタル塗りの撤去		行う(※全面 図示の範囲)																																																										
	2 ひび割れ部改修工法		既存モルタル撤去工法(範囲は図示 撤去部分の補修は3.欠損部改修工法による) ・樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.4][4.2.2][4.4.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(ml/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧球状樹脂</td> <td>0.2以上~1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・手動式球状樹脂</td> <td>0.2以上~0.3以下</td> <td>※50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>0.3超え~0.5以下</td> <td>※100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式球状樹脂</td> <td>0.5超え~1.0以下</td> <td>※150~250</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 注入材料 [4.2.2] ※建築補修用及び建築補強用球状樹脂(JIS A6024低粘度形又は中粘度形) 検査(コア抜き) [4.3.4][4.4.5] ※行わない 行う 抜き取り部の補修方法 ※充填工法(・球状樹脂モルタル・リリアンモルタル) [4.3.7]	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧球状樹脂	0.2以上~1.0以下	※200~300	※130	樹脂注入工法	・	・	・	・手動式球状樹脂	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40	樹脂注入工法	0.3超え~0.5以下	※100~200	※70	・機械式球状樹脂	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130	樹脂注入工法	・	・	・																														
注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																										
※自動式低圧球状樹脂	0.2以上~1.0以下	※200~300	※130																																																										
樹脂注入工法	・	・	・																																																										
・手動式球状樹脂	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40																																																										
樹脂注入工法	0.3超え~0.5以下	※100~200	※70																																																										
・機械式球状樹脂	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130																																																										
樹脂注入工法	・	・	・																																																										
2 浮き部改修工法	2 浮き部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.3.5][4.4.6]	ウォットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.5][4.4.6] <table border="1"> <thead> <tr> <th>充填材料</th> <th>種別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・シーリング材</td> <td>※1成分形又は2成分形 ※リリアン系シーリング材</td> <td>※リリアンモルタルの充填 ※行わない 行う</td> </tr> <tr> <td>・可とう性球状樹脂</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> シール工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.6][4.4.7] シール材料 ・パテ状球状樹脂 ・可とう性球状樹脂 ・液性リリアン樹脂 改修標準4.3.6(2)(ウ)を「プライマーを塗布したのち、シール材をパテ等から等クラックに押し込み、周囲と平滑に仕上げる。」と読み替える。	充填材料	種別	備考	・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ※リリアン系シーリング材	※リリアンモルタルの充填 ※行わない 行う	・可とう性球状樹脂																																																			
	充填材料	種別	備考																																																										
・シーリング材	※1成分形又は2成分形 ※リリアン系シーリング材	※リリアンモルタルの充填 ※行わない 行う																																																											
・可とう性球状樹脂																																																													
3 欠損部改修工法	3 欠損部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.3.7][4.4.8]	充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7][4.4.8] 充填材料 ※リリアンモルタル [4.1.4][4.2.2][4.4.9] ・モルタル塗替え工法 ・現場調査材料 (セメントは本特記仕様書8-1、8-2「セメントの種類」による) ・既着合材料() 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の措置 ※ステンレス製アンカーを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る。 ・図示 既製目地材 ・適用する(形状 ※図示) [4.2.2]																																																										
4 浮き部改修工法	4 浮き部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.4.10]~[4.4.15][表4.4.3][表4.4.4]	タイルを撤去しない場合 [4.1.4][4.2.2][4.4.10]~[4.4.15][表4.4.3][表4.4.4] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="4">アンカーの本数(本) 注入口の箇所数(箇所) 注入量</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーノンクック部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> </tr> </tbody> </table> アンカー 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全切加工したもの	改修工法の種類	アンカーの本数(本) 注入口の箇所数(箇所) 注入量				一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーノンクック部分球状樹脂注入工法	※16	※25	※25	※25	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																			
	改修工法の種類	アンカーの本数(本) 注入口の箇所数(箇所) 注入量																																																											
一般部		指定部	一般部	指定部																																																									
・アンカーノンクック部分球状樹脂注入工法	※16	※25	※25	※25																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
5 タイル張り	5 タイル張り	[4.2.2][4.5.7][4.5.8]	タイルの種類 [4.2.2][4.5.7][4.5.8] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工場所・用途</th> <th rowspan="2">形状寸法(mm)</th> <th rowspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">うわぐすり</th> <th rowspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>標準</th> <th>特注</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 備考欄に記載された商品名等は、品質の程度を示すための参考商品名である。 役物：標準的な曲がり(小口、標準、二丁、屏風)の役物は一体成形とする タイルの見本焼き ※行わない 行う [4.2.2]	施工場所・用途	形状寸法(mm)	耐凍害性	うわぐすり	役物	色		備考	標準	特注			あり	なし	あり	なし					なし	あり	なし	あり					なし	なし	なし	なし					なし	なし	なし	なし					なし	なし	なし	なし					なし	なし	なし	なし		
施工場所・用途	形状寸法(mm)	耐凍害性	うわぐすり						役物	色		備考																																																	
				標準	特注																																																								
		あり	なし	あり	なし																																																								
		なし	あり	なし	あり																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								

4 既存タイル張りの撤去	4 既存タイル張りの撤去	[4.1.4][4.2.2][4.3.5]	外壁タイル張り全面 図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで																																																										
	2 ひび割れ部改修工法		改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面(・コンクリート面 ・モルタル面) ・樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.4][4.5.2][4.5.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(ml/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧球状樹脂</td> <td>0.2以上~1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・手動式球状樹脂</td> <td>0.2以上~0.3以下</td> <td>※50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>0.3超え~0.5以下</td> <td>※100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式球状樹脂</td> <td>0.5超え~1.0以下</td> <td>※150~250</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 注入材料 [4.2.2] ※建築補修用及び建築補強用球状樹脂(JIS A6024低粘度形又は中粘度形) 検査(コア抜き) [4.3.4][4.5.5] ※行わない 行う 抜き取り部の補修方法 ※充填工法(・球状樹脂モルタル・リリアンモルタル) [4.3.7]	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	※自動式低圧球状樹脂	0.2以上~1.0以下	※200~300	※130	樹脂注入工法	・	・	・	・手動式球状樹脂	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40	樹脂注入工法	0.3超え~0.5以下	※100~200	※70	・機械式球状樹脂	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130	樹脂注入工法	・	・	・																														
注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)																																																										
※自動式低圧球状樹脂	0.2以上~1.0以下	※200~300	※130																																																										
樹脂注入工法	・	・	・																																																										
・手動式球状樹脂	0.2以上~0.3以下	※50~100	※40																																																										
樹脂注入工法	0.3超え~0.5以下	※100~200	※70																																																										
・機械式球状樹脂	0.5超え~1.0以下	※150~250	※130																																																										
樹脂注入工法	・	・	・																																																										
3 欠損部改修工法	3 欠損部改修工法	[4.1.4][4.5.7]	タイル部分張替え工法 [4.1.4][4.5.7] 接着材の種類 [4.2.2] ・リリアンモルタル ・タイル張替え用球状樹脂 ・シリコン樹脂 タイル張替え工法 [4.1.4][4.5.8] 伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地 [4.5.8][表4.5.1] 位置 ※改修標準表4.5.1による 図示																																																										
	4 浮き部改修工法	4 浮き部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.4.10]~[4.4.15][表4.4.3][表4.4.4]	タイルを撤去しない場合 [4.1.4][4.2.2][4.4.10]~[4.4.15][表4.4.3][表4.4.4] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="4">アンカーの本数(本) 注入口の箇所数(箇所) 注入量</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーノンクック部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> </tr> </tbody> </table> アンカー 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全切加工したもの	改修工法の種類	アンカーの本数(本) 注入口の箇所数(箇所) 注入量				一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーノンクック部分球状樹脂注入工法	※16	※25	※25	※25	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																		
改修工法の種類	アンカーの本数(本) 注入口の箇所数(箇所) 注入量																																																												
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																									
・アンカーノンクック部分球状樹脂注入工法	※16	※25	※25	※25																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
・アンカーノンクック全面球状樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																									
5 タイル張り	5 タイル張り	[4.2.2][4.5.7][4.5.8]	タイルの種類 [4.2.2][4.5.7][4.5.8] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工場所・用途</th> <th rowspan="2">形状寸法(mm)</th> <th rowspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">うわぐすり</th> <th rowspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>標準</th> <th>特注</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 備考欄に記載された商品名等は、品質の程度を示すための参考商品名である。 役物：標準的な曲がり(小口、標準、二丁、屏風)の役物は一体成形とする タイルの見本焼き ※行わない 行う [4.2.2]	施工場所・用途	形状寸法(mm)	耐凍害性	うわぐすり	役物	色		備考	標準	特注			あり	なし	あり	なし					なし	あり	なし	あり					なし	なし	なし	なし					なし	なし	なし	なし					なし	なし	なし	なし					なし	なし	なし	なし		
	施工場所・用途	形状寸法(mm)	耐凍害性						うわぐすり	役物		色		備考																																															
標準				特注																																																									
		あり	なし	あり	なし																																																								
		なし	あり	なし	あり																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
		なし	なし	なし	なし																																																								
6 目地改修工法	6 目地改修工法	[4.1.4][4.5.16]	アンカー 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全切加工したもの																																																										
	① 既存塗膜等の除去及び下地処理		既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法 [4.6.3][表4.6.2~表4.6.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">処理範囲</th> <th colspan="2">下地ひび割れ部等の補修</th> </tr> <tr> <th>・サグ・工法</th> <th>・ひび割れ部改修工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※高圧水洗工法</td> <td>※既存外装薄塗材仕上げ面 30Mpa</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・塗膜はく離剤工法</td> <td>※既存防水型複層塗材仕上げ面 15Mpa</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・水洗い工法</td> <td>※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.5.16] 伸縮調整目地改修工法 [4.1.4][4.5.16] 伸縮調整目地の位置及び寸法 図示	工法	処理範囲	下地ひび割れ部等の補修		・サグ・工法	・ひび割れ部改修工法	※高圧水洗工法	※既存外装薄塗材仕上げ面 30Mpa	・	・	・塗膜はく離剤工法	※既存防水型複層塗材仕上げ面 15Mpa	・	・	・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	・	・																																								
工法	処理範囲	下地ひび割れ部等の補修																																																											
		・サグ・工法	・ひび割れ部改修工法																																																										
※高圧水洗工法	※既存外装薄塗材仕上げ面 30Mpa	・	・																																																										
・塗膜はく離剤工法	※既存防水型複層塗材仕上げ面 15Mpa	・	・																																																										
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	・	・																																																										

③ 仕上げ塗材	③ 仕上げ塗材	[4.1.5][4.2.2][表4.2.4][表4.2.5]	種類、仕上げの形状、工法 [4.1.5][4.2.2][表4.2.4][表4.2.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">呼び名</th> <th colspan="2">仕上げの形状</th> </tr> <tr> <th>・薄付け仕上塗材</th> <th>※砂壁状 ・着色骨材砂壁状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・複層仕上塗材</td> <td>・複層塗材CE ・複層塗材E ・複層塗材RE ※防水形複層塗材E</td> <td>・ゆず肌状 ・凸凹処理 ※凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・耐候形2種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤形 樹脂 ※アクリル系 ・ポリウレタン系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メリック 防水形の増塗材 ※行う</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修用仕上塗材</td> <td>・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE</td> <td>・ゆず肌状 ・平たん状 ○さざ波 耐候性 ※耐候形1種(艶有のみ) 上塗材 溶媒 ※水系 樹脂 ※シリコン系</td> </tr> </tbody> </table> 防火材料 ・建築基準法に基づく指定又は認定を受けた材料とする。 [4.2.2]	種類	呼び名	仕上げの形状		・薄付け仕上塗材	※砂壁状 ・着色骨材砂壁状	・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・複層塗材E ・複層塗材RE ※防水形複層塗材E	・ゆず肌状 ・凸凹処理 ※凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・耐候形2種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤形 樹脂 ※アクリル系 ・ポリウレタン系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メリック 防水形の増塗材 ※行う	・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状 ・平たん状 ○さざ波 耐候性 ※耐候形1種(艶有のみ) 上塗材 溶媒 ※水系 樹脂 ※シリコン系																																															
	種類	呼び名	仕上げの形状																																																											
・薄付け仕上塗材			※砂壁状 ・着色骨材砂壁状																																																											
・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・複層塗材E ・複層塗材RE ※防水形複層塗材E	・ゆず肌状 ・凸凹処理 ※凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・耐候形2種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤形 樹脂 ※アクリル系 ・ポリウレタン系 外観 ※つやあり ・つやなし ・メリック 防水形の増塗材 ※行う																																																												
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状 ・平たん状 ○さざ波 耐候性 ※耐候形1種(艶有のみ) 上塗材 溶媒 ※水系 樹脂 ※シリコン系																																																												
4 外壁用塗膜防水材	4 外壁用塗膜防水材	[4.1.5][4.2.2][4.8.2][表4.2.6]	外壁用塗膜防水塗料 [4.1.5][4.2.2][4.8.2][表4.2.6] 仕上げの形状 工法 外壁用仕上塗材の耐候性 ※JIS A 6909の耐候形1種相当 下地拳動緩衝材の適用 ・適用する ・適用しない 吹付け工法の模様材の種類 ・所要量 [kg/m ²] 外壁用仕上塗料の種類 ・所要量 [kg/m ²] コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、本特記仕様書4-2による モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、本特記仕様書4-3による 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、本特記仕様書4-5による																																																											
⑤ 改修工法	⑤ 改修工法	[5.1.3]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>改修工法</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・かぶせ工法</td> <td>※建具表による</td> </tr> <tr> <td>・撤去工法</td> <td>※建具表による</td> </tr> </tbody> </table>	改修工法	適用箇所	・かぶせ工法	※建具表による	・撤去工法	※建具表による																																																					
	改修工法	適用箇所																																																												
・かぶせ工法	※建具表による																																																													
・撤去工法	※建具表による																																																													
2 見本の製作等	2 見本の製作等	[5.1.5]	・見本の製作 (建具番号) [5.1.5] ・特殊な建具の仮組 (建具番号)																																																											
3 防犯建物部品	3 防犯建物部品	[5.1.7]	※適用する(適用部品及び適用位置は図示による) [5.1.7]																																																											
④ 7&8mm製建具	④ 7&8mm製建具	[5.2.2][5.2.4][表5.2.1]	外部に面する建具の性能等級 [5.2.2][5.2.4][表5.2.1] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">耐風圧性</th> <th rowspan="2">気密性</th> <th rowspan="2">水密性</th> <th rowspan="2">枠見込み(mm)</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <th>・A種</th> <th>S-4</th> <th>※A-3</th> <th>※W-4</th> <th>※70</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>S-4 <td>※A-3 <td>※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td> </td></td></td></tr> <tr> <td>・B種</td> <td>S-5</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>S-6及び7</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 表面処理 [5.2.4][表5.2.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種別</th> <th>色合い等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部建具</td> <td>※B-B-1種</td> <td>無着色</td> </tr> <tr> <td>・B-B-2種</td> <td>標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">内部建具</td> <td>※B-C-1種</td> <td>無着色</td> </tr> <tr> <td>・B-C-2種</td> <td>標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー)</td> </tr> </tbody> </table>	種類	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所	・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	・A種	S-4 <td>※A-3 <td>※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td> </td></td>	※A-3 <td>※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td> </td>	※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td>	※70	S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置	・B種	S-5	・	・	・	・C種	S-6及び7	A-4	W-5	・	施工箇所	種別	色合い等	外部建具	※B-B-1種	無着色	・B-B-2種	標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー)	内部建具	※B-C-1種	無着色	・B-C-2種	標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー)																			
種類	耐風圧性	気密性	水密性							枠見込み(mm)	施工箇所																																																			
				・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70																																																						
・A種	S-4 <td>※A-3 <td>※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td> </td></td>	※A-3 <td>※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td> </td>	※W-4 <td>※70</td> <td rowspan="3">S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置</td>	※70	S-5 1階 アクリル樹脂室 S-7 1階物置																																																									
・B種	S-5	・	・	・																																																										
・C種	S-6及び7	A-4	W-5	・																																																										
施工箇所	種別	色合い等																																																												
外部建具	※B-B-1種	無着色																																																												
	・B-B-2種	標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー)																																																												
内部建具	※B-C-1種	無着色																																																												
	・B-C-2種	標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー)																																																												
5 網戸	5 網戸	[5.2.3]	防虫網 [5.2.3] 材質 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製 線径 ※0.25mm以上 網目 ※16~18メッシュ 形式 ・外部可動式 ・固定式 図示																																																											
6 樹脂製建具	6 樹脂製建具	[5.3.2][5.3.4][表5.3.1]	外部に面する建具の性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.1] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">耐風圧性</th> <th rowspan="2">気密性</th> <th rowspan="2">水密性</th> <th rowspan="2">枠見込み(mm)</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <th>・A種</th> <th>S-4</th> <th>※W-4</th> <th>・</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>S-4</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の遮音性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="2">遮音性能</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <th>・T-A種</th> <th>・T-1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・T-A種</td> <td>・T-1</td> <td>・</td> <td rowspan="2">外部に面する建具の断熱性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">断熱性能</th> <th rowspan="2">熱貫流率(W/(m²・K))</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・H-A種</td> <td>・H-4</td> <td>2.91以下</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]</td> </tr> <tr> <td>・H-B種</td> <td>・H-5</td> <td>2.33以下</td> </tr> <tr> <td>・H-C種</td> <td>・H-6</td> <td>1.90以下</td> </tr> </thead></table></td></tr></tbody> </table> ※適用する(適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1] ・S-4 ○S-5 ・S-6 鋼板類の厚さ(1枚戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,100mmを超える場合) ※下表以外は表5.4.2による [5.4.4][表5.4.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <th>窓</th> <th>出入口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">窓</td> <td>枠類</td> <td>外部の下枠、水切り板</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>出入口</td> <td>枠類</td> <td>外部に面するスイングドアの建具</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td colspan="3">出入口</td> <td>[4.2.2][4.6.3] 中骨</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> ・図示 </td> </tr> </tbody> </table>	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所	・A種	S-4	※W-4	・	・A種	S-4	・	・	・	外部に面する建具の遮音性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="2">遮音性能</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <th>・T-A種</th> <th>・T-1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・T-A種</td> <td>・T-1</td> <td>・</td> <td rowspan="2">外部に面する建具の断熱性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">断熱性能</th> <th rowspan="2">熱貫流率(W/(m²・K))</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・H-A種</td> <td>・H-4</td> <td>2.91以下</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]</td> </tr> <tr> <td>・H-B種</td> <td>・H-5</td> <td>2.33以下</td> </tr> <tr> <td>・H-C種</td> <td>・H-6</td> <td>1.90以下</td> </tr> </thead></table></td></tr></tbody> </table> ※適用する(適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1] ・S-4 ○S-5 ・S-6 鋼板類の厚さ(1枚戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,100mmを超える場合) ※下表以外は表5.4.2による [5.4.4][表5.4.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <th>窓</th> <th>出入口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">窓</td> <td>枠類</td> <td>外部の下枠、水切り板</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>出入口</td> <td>枠類</td> <td>外部に面するスイングドアの建具</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td colspan="3">出入口</td> <td>[4.2.2][4.6.3] 中骨</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> ・図示	種別	遮音性能		施工箇所	・T-A種	・T-1	・T-A種	・T-1	・	外部に面する建具の断熱性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">断熱性能</th> <th rowspan="2">熱貫流率(W/(m²・K))</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・H-A種</td> <td>・H-4</td> <td>2.91以下</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]</td> </tr> <tr> <td>・H-B種</td> <td>・H-5</td> <td>2.33以下</td> </tr> <tr> <td>・H-C種</td> <td>・H-6</td> <td>1.90以下</td> </tr> </thead></table>	種別	断熱性能	熱貫流率(W/(m ² ・K))	施工箇所	・H-A種	・H-4	2.91以下	外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]	・H-B種	・H-5	2.33以下	・H-C種	・H-6	1.90以下	区分	使用箇所		厚さ(mm)	窓	出入口	窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3	出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3	出入口			[4.2.2][4.6.3] 中骨	2.3
種別	耐風圧性	気密性	水密性							枠見込み(mm)	施工箇所																																																			
				・A種	S-4	※W-4	・																																																							
・A種	S-4	・	・	・	外部に面する建具の遮音性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="2">遮音性能</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <th>・T-A種</th> <th>・T-1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・T-A種</td> <td>・T-1</td> <td>・</td> <td rowspan="2">外部に面する建具の断熱性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">断熱性能</th> <th rowspan="2">熱貫流率(W/(m²・K))</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・H-A種</td> <td>・H-4</td> <td>2.91以下</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]</td> </tr> <tr> <td>・H-B種</td> <td>・H-5</td> <td>2.33以下</td> </tr> <tr> <td>・H-C種</td> <td>・H-6</td> <td>1.90以下</td> </tr> </thead></table></td></tr></tbody> </table> ※適用する(適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1] ・S-4 ○S-5 ・S-6 鋼板類の厚さ(1枚戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,100mmを超える場合) ※下表以外は表5.4.2による [5.4.4][表5.4.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <th>窓</th> <th>出入口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">窓</td> <td>枠類</td> <td>外部の下枠、水切り板</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>出入口</td> <td>枠類</td> <td>外部に面するスイングドアの建具</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td colspan="3">出入口</td> <td>[4.2.2][4.6.3] 中骨</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> ・図示	種別	遮音性能		施工箇所	・T-A種	・T-1	・T-A種	・T-1	・	外部に面する建具の断熱性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">断熱性能</th> <th rowspan="2">熱貫流率(W/(m²・K))</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・H-A種</td> <td>・H-4</td> <td>2.91以下</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]</td> </tr> <tr> <td>・H-B種</td> <td>・H-5</td> <td>2.33以下</td> </tr> <tr> <td>・H-C種</td> <td>・H-6</td> <td>1.90以下</td> </tr> </thead></table>	種別	断熱性能	熱貫流率(W/(m ² ・K))	施工箇所	・H-A種	・H-4	2.91以下	外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]	・H-B種	・H-5	2.33以下	・H-C種	・H-6	1.90以下	区分	使用箇所		厚さ(mm)	窓	出入口	窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3	出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3	出入口			[4.2.2][4.6.3] 中骨	2.3														
種別	遮音性能		施工箇所																																																											
	・T-A種	・T-1																																																												
・T-A種	・T-1	・	外部に面する建具の断熱性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">断熱性能</th> <th rowspan="2">熱貫流率(W/(m²・K))</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・H-A種</td> <td>・H-4</td> <td>2.91以下</td> <td rowspan="3">外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]</td> </tr> <tr> <td>・H-B種</td> <td>・H-5</td> <td>2.33以下</td> </tr> <tr> <td>・H-C種</td> <td>・H-6</td> <td>1.90以下</td> </tr> </thead></table>	種別	断熱性能	熱貫流率(W/(m ² ・K))	施工箇所	・H-A種	・H-4	2.91以下	外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]	・H-B種	・H-5	2.33以下	・H-C種	・H-6	1.90以下																																													
種別	断熱性能	熱貫流率(W/(m ² ・K))						施工箇所																																																						
			・H-A種	・H-4	2.91以下	外部に面する建具の耐火性能等級 [5.3.3] ガラス ※複層ガラス [5.3.3] 表面色 標準色(・ブラス系 ・ブラス ・ステンパー) [5.3.4] 水切り ※図示 [5.3.5]																																																								
・H-B種	・H-5	2.33以下																																																												
・H-C種	・H-6	1.90以下																																																												
区分	使用箇所		厚さ(mm)																																																											
	窓	出入口																																																												
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3																																																											
	出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3																																																										
出入口			[4.2.2][4.6.3] 中骨	2.3																																																										
7 鋼製建具	7 鋼製建具	[5.4.2][5.4.6][表5.4.1]	簡易気密扉の簡易気密型ドア特性値 [5.4.2][5.4.6][表5.4.1] ※適用する(適用箇所は建具表による) 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1] ・S-4 ○S-5 ・S-6 鋼板類の厚さ(1枚戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,100mmを超える場合) ※下表以外は表5.4.2による [5.4.4][表5.4.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <th>窓</th> <th>出入口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">窓</td> <td>枠類</td> <td>外部の下枠、水切り板</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td>出入口</td> <td>枠類</td> <td>外部に面するスイングドアの建具</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td colspan="3">出入口</td> <td>[4.2.2][4.6.3] 中骨</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> ・図示	区分	使用箇所		厚さ(mm)	窓	出入口	窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3	出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3	出入口			[4.2.2][4.6.3] 中骨	2.3																																								
区分	使用箇所		厚さ(mm)																																																											
	窓	出入口																																																												
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3																																																											
	出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3																																																										
出入口			[4.2.2][4.6.3] 中骨	2.3																																																										

5	8 鋼製軽量建具 (標準型鋼製軽量建具を含む)	簡易気密型ドアの性能値の適用は建具表による [5.5.2][5.5.6] 鋼板の種類 [5.5.3] ・垂鉛めつき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・ホリ鋼板 ・ステン鋼板
	9 ステン製建具	簡易気密型ドアの性能値の適用は建具表による [5.4.2][5.6.2][表5.4.1] 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.6.2][表5.2.1] ・S-4 ・S-5 ・S-6
	10 木製建具	かまち戸の樹種 かまち() 鏡板() (16.7.2) ふすまの種類 ・I類 ・II類 (表16.7.3) ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 ・鳥の子 (表16.7.3) ふすまの縁の仕上げ ・塗り縁 ・生地縁 (表16.7.10)
	11 建具用金具	マスター ○製作する(1本) ※製作しない [5.7.4] 鍵札数量 ※錠前1組に2枚とする ・錠前1組に 枚とする かぎ箱 市販品 形式 ・30組用 ・60組用 ・120組用 ・ 既存合わせとする
	12 自動ドア開閉装置	自動ドアの開閉機構 [5.8.3][表5.8.4] 開閉方法 引き戸用検出装置の種類 ※スイングドア ・電子マットスイッチ ・タッチスイッチ ※光線(反射)センサー ・スイングドア ・音波センサー ・熱線センサー ・光電センサー ・押しボタンスイッチ ・多機能トレススイッチ 凍結防止措置 ※行わない ・行う() [5.8.3]
	13 自閉式上吊り引戸装置	※適用する(適用建具及び適用位置は図示による) [5.9.1]
	14 重量シャッター	外部に面するシャッターの耐風圧強度 () N/m ² [5.10.2] 開閉機能 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 [5.10.2][表5.10.1] 二重フェーン、急降下制動装置、急降下停止装置等を設けた電動シャッターの [5.10.2] 設置箇所 ・図示 ・ 障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ・図示 ・ 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構 ・ 設ける(設置箇所: ・図示 ・) 一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない [5.10.2]
	15 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部手動式(手動併用) [5.11.2][表5.11.1] 外部に面するシャッターの耐風圧強度 () N/m ² [5.11.2] スラット 厚さ(mm) ・0.5 ・0.6 ・0.8 ・1.0 [表5.11.2] 材質 ※塗装溶融亜鉛めつき鋼板又は鋼帯 [5.11.3] 形状 ※インターロック形 ・オパールリング形 [5.11.4] ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステン製 SUS304(厚さ1.5mm) [表5.11.2] シャッターケース 厚さ(mm) ・0.4 ・0.8 [表5.11.2]
	16 オパールヘッドドア	[5.12.2][5.12.3][表5.12.1] セクション材料 開閉方式 収納形式 ガイドレール ※ステールタイプ ※パラス式 ・スラット形 ・溶融亜鉛めつき鋼板 ・アルミニウムタイプ ・フェニ式 ・ローヘッド形 ※ステン鋼板(SUS304) ・ファイバークラスタイプ ・電動式 ・バリエーション形 ・パール形

5	19 ガラスロッキング	ガラスロック [5.13.5] 寸法(mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ・ ※無し ・ ※無し ・ 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ・ 横仕16.2.3のガラス製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 ・ シーリング材料 下表以外は改修標準表3.7.1による [5.13.5][3.7.2][表3.7.1] 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分
	20 ガラス用フィルム	名称 種類 張り面 性能値 ※ガラス飛散防止フィルム 第2種 ※内張り ・外張り 飛散防止率 95%以上 品質 JIS A 5759による
	6 ① 基本要項品質	[6.1.2] 特記以外の建物内部に使用する内装改修工事の既製品等の品質、又は製品を構成する材料及び接着剤の樹脂成分の放散量はF☆☆☆☆を基本とする。なお、該当する材料等がない場合において、F☆☆☆☆以外の材料等を使用する場合は監督員の承諾を受けること。
	2 改修範囲	・既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 ・天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 [6.1.3] ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 ・天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 [6.1.3] ※既存のまま ・図示の範囲
	3 施工数量調査	[1.5.2] 下記の調査結果について、施工方法、施工箇所、施工数量等をまとめた施工数量調査報告書を提出し、監督員の承諾を得て施工する。 ・内部床、壁、天井等の改修後に見え掛りとなる既存のコンクリート、モルタル、タイル、ブラスター、ボード等の面 調査内容 ひび割れの幅及び長さ等を壁面等に図示する。 タイル、タイル、ブラスターの浮き部分を壁面に表示する。また、タイルの欠陥部分(タイル目地を含む。)を調査する。 仕上げ材の欠損部、腐朽部、脆弱部を壁面に表示する。 ・加工法による床・壁・天井改修箇所の下地材 調査内容 既存下地材の不陸、脆弱部、欠損部を調査する。 天井下地組の強度、腐朽状況を調査する ・改修工事後も使用する建具(枠、額縁を含む。) 調査内容 建具の建付け状況、建具金物の不具合の有無、仕上げ材の欠損部、腐朽部を調査する。 ・設備工事及び既存部分と改修部分との取合部の整合を調査する。 ・造り付けの実験台、作業台、流し及び黒板等が監督員が指示したもについて、欠陥部分不具合の有無を調査する。
	4 既存床の撤去及び下地補修	・ビニルシート等の撤去 [6.2.2] ※仕上げ材のみ(接着剤とも) ・下地タイルとも(※図示の範囲) ・行わない(※図示の範囲) ・合成樹脂塗りの床の材の除去工法 [6.2.2] ・機械的除去工法 ※目荒工法 改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 [6.2.2]
	5 既存壁の撤去並びに下地補修	間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2][4.4.9] ※図示 ・[4.4.9]タイル塗替え工法 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ステン製ブラスターを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る。 ・図示
	6 木下地等	表面仕上げの種類 [6.5.1][表6.5.2] 表面仕上げの種類 適用箇所 機械加工 ・A種 ・B種 ・C種 手加工 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種

6	6 木下地等	「製材の日本農林規格」による製材 [6.5.2] 品名 樹種 寸法(mm) 等級 形状 含水率 保存処理 ・下地用針葉樹製材 ※2級 ・ ※A種 ・ B種 ・造作用針葉樹製材 ・ 上小節 ・小節以上 ・ ※A種 ・ B種 ・広葉樹製材 ※1等 ・ ※10%以下 ・ A種 ・ B種 「製材の日本農林規格」以外の製材 [6.5.2] 施工箇所 樹種 寸法(mm) 材面の品質 防虫処理 含水率 ・ () ・適用する ※A種 ・ B種 造作用材の場合 ・適用しない ・ (※A種 ・ B種) ・樹種のうち杉は、上越地域産材を使用する(24追加特記による) 造作用集成材等 [6.5.2] 品名 規格・品質 心材の樹種 化粧単板の樹種 見付け材面数 ・造作用集成材 ※1等 ・ 2等 ・ ・ ・化粧ばり造作用集成材 ※1等 ・ 2等 ・ ・ ・化粧ばり構造用集成材 ・ 1等 ・ 2等 ・ ・ 直交集成材 [6.5.2] 品名 強度等級 種別 接着性能(使用環境) 樹種 ・異等級構成直交集成材 ・ A種 ・ A ・ B ・ ・ B種 ・ C ・ ・同一等級構成直交集成材 ・ A種 ・ A ・ B ・ ・ B種 ・ C ・ 合板等 [6.5.2] 品名 板厚 接着の程度 樹種 防虫処理 ・普通合板 ※5.5mm ・ ※1類 ・ 2類 ・ ・適用する ・構造用合板 ※12mm ・ ・特類 ※1類 ・ ・適用する ・化粧ばり構造用合板 ・ ・特類 ・ 1類 ・ ・適用する ・天然木化粧合板 ・ ・ 1類 ・ 2類 ・ ・適用する 9 防虫・防蟻処理 防虫処理 ※行う(適用範囲 ※改修標準6.5.5(1)による ・図示) [6.5.5] 防蟻処理 ・行う(適用範囲) [6.5.5] 防蟻・防蟻剤は加湿剤等を含まない非有機リン系の表面処理用木材保存剤とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督員に提出し承諾を受ける。 防蟻・防蟻処理の方法 工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。 ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて表面処理用木材保存剤を塗布することとする。 薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理 適用部材 保存処理性能区分 ・ K2 ・ K3 ・ K4 ・ K2 ・ K3 ・ K4 10 軽量鉄骨天井下地 屋外の場合の形式及び寸法 [6.6.3][表6.6.2] ※下表以外は、改修標準6.6.3及び表6.6.2による 下地材の間隔(mm) 施工箇所 野縁受、吊りボルト、インサート 野縁 中央部 周辺部 @900 @900 @300 庇裏、14階軒裏 ただし、建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を改修標準1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める。 既存の埋込インサート ・使用する ○使用しない [6.6.4] あと施工ボルトの引抜き試験 ・行う ○行わない [6.6.4] 屋外の場合の試験 荷重 ・400N ・ 箇所数 ・当該階において3箇所程度 ・図示 ふところが3mを超える場合の補強 ※図示 [6.6.4] 屋外の天井の補強 ※図示 ・改修標準6.6.4(11)による [6.6.4] 11 ビニル床シート張り [6.8.2] 種類 JISの記号 色柄 厚さ(mm) ※発泡層のないもの ※FS ・ ※無地 ・ マーブ柄 ※2.0 ・発泡層のあるもの ※柄物 ・ 無地 工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所) [6.8.3] 12 ビニル床タイル張り [6.8.2] 種類 JISの記号 厚さ(mm) 備考 ※コンパシジョンビニル床タイル K T ※2.0 ・単層ビニル床タイル T T ・ ・複層ビニル床タイル F T ・ ・置敷きビニル床タイル F O A ・ ・薄型置敷きビニル床タイル F O B ・
---	--------	--

6	13 帯電防止タイル張り	[6.8.2] 種類 厚さ(mm) 性能 ・コンパシジョンビニル床タイル ※2.0 ・ 体積抵抗値(JIS K 6911による) ・ネジノアスビニル床タイル ※4.0又は4.5 1.0×10 ⁹ Ω以下、又は、 ・ 漏洩抵抗値(JIS A 1454による) ・ 1.0×10 ¹⁰ Ω未満
	14 誘導用、注意喚起用床材	視覚障害者用タイル [6.8.2] 適用箇所 種類 寸法(mm) 形状 屋内 ・塩化ビニル系 ※300×300 ・ プロテクター ・レジコンクリート系 ※300×300 ・ JIS T 9251 による ・磁器又はせっ器タイル ・ 屋外 ・コンクリート系 ※300×300×60 ・ 300×300×30 ・磁器又はせっ器タイル ・
	15 ビニル幅木	高さ(mm) ※60 ・ 75 ・ 100 [6.8.2]
	16 カーペット敷き	・織じゅうたん [6.9.1][6.9.2][表6.9.1] 種別 織り方 バイ形状 帯電性 色・柄等 ・A種 ・ウルトンカーペット ・カトパイル 人体帯電圧 ※単一色(無地) ・B種 ・ダブブルーカーペット ・ループパイル ※3kV以下 ・柄物(標準品) ・C種 ・アタシンスカーペット ・カト、ループ併用 ・
	17 合成樹脂塗床	・タフテッドカーペット [6.9.2][6.9.3][表6.9.2] バイ形状 バイ長(mm) 工法 帯電性 ・カトパイル ※5.0~7.0 ・ ※全面接着工法 人体帯電圧 ・マルチレベルループ ※4.0~6.0 ・ ・ グリッド工法 ※3kV以下 ・レベルループパイル ※4.0 ・カト、ループ併用 ・ ・タイルカーペット [6.9.2] 種別 バイ形状 電気抵抗値(Ω) 施工箇所 ※第一種 ※ループパイル ※適用しない ・ カトパイル ・ 10 ⁹ Ω以下
	18 フローリング張り	[6.11.2][6.11.3][6.11.4][6.11.5][6.11.6][表6.11.1~表6.11.6] 品名 樹種 等級・種別 板厚 工法 仕上塗装 ・フローリングボード1等 ・ なら ・ 1等 ※15 ・ 釘留め工法 ・ 塗装品 ・フローリングボード2等 ・ なら ・ 2等 ※15 ・ 接着工法 ・ 無塗装品 ・フローリングボード3等 ・ なら ・ 3等 ※15 ・ 砂利埋込工法 ・ ・フローリングボード4等 ・ なら ・ 4等 ※15 ・ 接着工法 ・ ・天然木化粧複合フローリング ・ ・ A種 ・ ※釘留め工法 ・ 塗装品 ・ B種 ・ 接着工法 ・ 無塗装品 ・ C種 ・ ・複合フローリング ・ かば ※18 ※のりくぎ併用 ・ 塗装品 (大型積層型) ・ ・ ・ ・ビス留め ※無塗装品 現場塗装仕上げ ・行う(塗料:) ・行わない [6.11.6]
	19 畳敷き	[6.12.2][表6.5.10][表6.12.1] 適用箇所 畳の種類 改修標準表6.5.10による床組 ・A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種(※KT-III) ・ ボリスフォーム床下地 ・ C種 ・ D種(※KT-III) ・
	20 セッコウボード [®] その他のボード張り	[6.13.2][表6.13.1] 種類 厚さ(mm)・規格等 ・硬質木毛セメント板 ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・普通木毛セメント板 ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・けい酸セメント板 タブ2(無糸綿) ・ロックメタル化粧吸音板 ※フットタイプ(※9.0 ・ 12.0 ・) ・ 凹凸タイプ(※12.0 ・ 15.0) ((個)不燃) ・セッコウボード [®] ・ 9.5(準不燃) (個)2.5(不燃) ・化粧セッコウボード [®] ・ 9.5(不燃) ・ 化粧無(下地張り用) ・ 化粧有(トランプ仕様) ・セービングセッコウボード [®] ・ 9.5(準不燃) ・ 12.5(準不燃) ・強化セッコウボード [®] ・ 12.5(不燃) ・ 15.0(不燃) ・難燃合板 ・普通合板 表板の樹種 ・ 板面の品質 ・ 厚さ ※図示 接着の程度 ・ 1種 ・ 2種 防虫処理 ・ 行う ・ 行わない ・ 軽量鉄骨下地ボード [®] 遮音壁の遮音シール材 [6.13.2] ※適用する ・適用しない ・セッコウボード [®] の継目処理 [6.13.3][表6.13.5] 目地工法の種類 セッコウボードのエッジの種類 施工箇所 ・継目処理工法 ・チーパ ・ ベベル ・突付け工法 ・ ベベル ・ スクエア ・目透かし工法 ・ ベベル ・ カブ

⑥ 21 吸音材	[表6.13.1]			
	種類	記号	厚さ(mm)	
内装改修工事	・ロケット吸音ボード1号	RW-B	※25	
	※ケラナル吸音ボード32K	GW-B	※25	
②② 壁紙張り	[6.14.2]			
	施工箇所	壁紙の種類		防火性能の級別
23 モルタル塗り	[6.15.3]			
	モルタル	・現場調査材料 (モルタルは本特記仕様書8-1、8-2「セメントの種類」による) ・既調合材料		
24 タイル	[6.16.3]			
	タイルの種類	形状寸法	耐凍害性	うわぐすり
25 グラスブロック	[6.16.3]			
	タイルの見本焼き	※行わない		
26 可動間仕切	[6.16.3]			
	施工箇所	構法	仕上り高(mm)	適用地震時
27 移動間仕切	[6.16.3]			
	構造形式	h部の総厚さ(mm)	表面材種厚さ(mm)	h部表面仕上げ
28 トイレブース	[6.16.3]			
	表面仕上げ材	・マリン樹脂系化粧板(標準色 7mm製コーナエッジ付き) ・ホリエス樹脂系化粧板(標準色 7mm製コーナエッジ付き)		
29 階段滑止め	[6.16.3]			
	材種	※ステンレス(SUS304) ・7mmニッケル黄銅		

⑥ 30 階段手すり	[表6.13.1]			
	種類	記号	厚さ(mm)	
内装改修工事	・ロケット吸音ボード1号	RW-B	※25	
	※ケラナル吸音ボード32K	GW-B	※25	
31 黒板及びホワイトボード	(20.2.8)			
	種類	区分	種類	寸法(mm)
32 室札	[6.15.5]			
	材種	寸法(mm)	突出面	面付型
33 ブラインド	[6.15.5]			
	形式	種類	スラットの材質	スラットの幅(mm)
34 ブラインドボックス及びカーテンボックス	[6.15.5]			
	使用方法	幅及び高さ	材種	品質等
35 ロールスクリーン	[6.15.5]			
	カーテン	既存再利用する(養生方法)	[2.3.1][5.1.6]	
36 カーテン及びカーテンレール	[6.15.5]			
	目地形状	適用箇所	寸法(mm)	
37 天井点検口	[6.15.5]			
	本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法(mm)
38 床点検口	[6.15.5]			
	市販品	材質	塩化ビニル製(コイル状、ステンレス製受枠) ビニル製(ステンレス製受枠) 硬質7mmニッケル製(受枠とも) ステンレス製(受枠とも)	
39 くつふきマット	[6.15.5]			
	目地形状	適用箇所	寸法(mm)	
41 人研ぎ製流し等	[6.15.5]			
	目地形状	適用箇所	寸法(mm)	

41 屋内掲示板	[表6.13.1]			
	改修工法	枠の材質	表面の材質	下地
42 しっくい塗り	[6.15.5]			
	改修工法	枠の材質	表面の材質	下地
⑦ 7 塗装業者	[6.15.5]			
	改修工法	枠の材質	表面の材質	下地
⑧ 8 耐候性塗料塗り(DP)	[6.15.5]			
	改修工法	枠の材質	表面の材質	下地
⑨ 9 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)	[6.15.5]			
	改修工法	枠の材質	表面の材質	下地
⑩ 10 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)	[6.15.5]			
	改修工法	枠の材質	表面の材質	下地

7 塗装改修工事	[7.11.2][表7.11.1]			
	下地調整	塗替えの種別	新規塗りの種別	
12 ムル樹脂ニス塗り(UC)	[7.12.2][表7.12.1]			
	塗替えの種別	・A種 ※B種		
13 オイルペイント塗り(OS)	[7.13.2][表7.13.1]			
	適用箇所	塗料		
14 木材保護塗料塗り(WP)	[7.14.2][表7.14.1]			
	塗替えの種別	・A種 ※B種		
8-1 耐震改修範囲以外の躯体改修工事	[8.1.3][表8.1.1]			
	コンクリートの種類及び強度、品質	レディーミクストコンクリートの種類		
2 鉄筋の種類	[8.2.1][表8.2.1]			
	種類の記号	呼び名(mm)		
3 あと施工アコ	[8.2.4]			
	あと施工アコ	あと施工アコ		
4 セメントの種類	[8.2.5][表8.2.3]			
	普通ポルトランドセメント	高炉セメントA種、セメントA種又は		
5 骨材の品質	[8.2.5]			
	7mm以下の反応性による区分	A		
6 混和材料の種別	[8.2.5]			
	※混和剤	混和材		
7 鉄筋の継手	[8.3.4][表8.3.3]			
	※重ね継手	・		
8 鉄筋の最小かぶり厚さ	[8.3.5][表8.3.6]			
	最小かぶり厚さは	/ 目地底から算定する。		
9 鉄骨の工作	[8.13.2]			
	高カボルト及び普通ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等	※建築工事監理指針による		

10 追加特記

① 公共事業労務費調査への協力 ※協力する

② 工事監理方式 共同監理 ・ 有り ○ 無し

③ 適用基準等 ・ 営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課施設評価室）
※工事運行マニュアル（上越市都市整備部建築住宅課営繕室作成）

4 総合図 ※作成する

⑤ 工事成績評定 ※受注者は、工事成績評定の対象となる工事施工において、自ら立案し実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了までに所定の様式により提出することができる。（様式等は、工事運行マニュアルによる。）

⑥ 工事区分表

注)原則○印を適用する。ただし、複数記載してある項目についての区分はその項目を必要とする施工者に適用する。

項 目		建	電	空	衛	昇	備	考
躯体関係								
1. RC造(梁・壁・床)の貫通孔・開口部	貫通スリブ材及び取付け	○	○	○	○	○	○	
	補強を要する型枠材及び取付け	○						
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○	○	○	○	防火区画、防煙区画
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○	○	○	防火区画、防煙区画
2. S・SRC造(はり貫通口)	貫通孔・開口部の補強	○						
	スリブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○	○	○	
	S・SRC造貫通鋼管鋼管スリブ・補強	○						
3. 設備機器の基礎	使用されたスリブの穴埋め	○	○	○	○	○	○	
	予備スリブの穴埋め	○	○	○	○	○	○	
	建築設計図に記入のあるもの	○						
	室内の基礎(建築設計図に記入のないもの)	○	○	○				
	屋上・屋上の基礎	○						
	屋上基礎で押さえコンにアカシない軽微なもの	○	○	○				
仕上げ関係								
軽鉄天井・壁下地	補強を用するボードの切り込み及び下地の補強	○						
	補強を要しないボードの切り込み	○	○	○				
	開口部の墨出し	○	○	○				
電気関係								
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線(接地線共)			○	○			二次側
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線		○					一次側
	機器付属操作スイッチの取付及び渡り配管配線		○	○				
その他(工事区分を特に間違えやすい項目)								
天井材	取外し再取付(各種配管配線作業用)	○	△	△	△	△		小規模は要協議
床はつり補修	各種配管配線作業用	○	△	△	△	△		小規模は要協議
流し台、ガス台		○						
便所手洗いカウンター		○						衛生陶器は衛生設備
洗面化粧台							○	
ガス漏れ警報器							○	
24H換気扇	機器納入						○	取付は電気設備
連動スイッチ	取付		○					機器納入は衛生設備
湯沸器	機器納入						○	取付は電気設備
連動スイッチ	取付		○					機器納入は衛生設備

⑦ 発生材の処理等 [1.3.12]

1 再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備考

2 建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備考

3 建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

受入工事名/施設名称
工事場所/施設所在地
連絡先
仮置場所の有無
備考

10 追加特記

④ 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし積算している。

搬出する廃棄物名	処理施設名称	施設所在地	連絡先	備考
産業廃棄物：廃油類、廃ﾌﾗｯｸﾞ、がﾗｽ、がれき屑、廃石膏ボード類 再生可能材：ｺﾝｸﾘｰﾄ(砕石)、鉄、金属屑	最寄りの処理施設			

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

⑤ 建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

⑥ 自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

⑦ 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員に報告し、協議すること。

8 化学物質の濃度測定 [1.6.9]

測定時期は家具設置等の別途工事が行われる前とする。ただし、内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること、及び中央式空調設備のようにより換気を行いながら空調調を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していることとする。

測定時期は工事完了時とする。なお、内部工事期間等が特記されている場合は、内部工事完了時とする。

※ 測定時期の決定は、測定結果が指針値を超えた場合に、6)の措置を講じる時間を見込むこと。

2)測定対象物質

※ホルムアルデヒド (指針値0.08ppm以下)

※トルエン (指針値0.07ppm以下)

※キシレン (指針値0.05ppm以下)

※エチルベンゼン (指針値0.08ppm以下)

※スチレン (指針値0.05ppm以下)

・パラジクロロベンゼン (指針値0.04ppm以下)

3)測定室

	室(測定箇所)	箇所
・	室(測定箇所)	箇所

4)測定方法

測定機器

※パッシブ型採取機器 ・ 監督員の承諾する機器

測定要領(パッシブ型測定法の場合)

※測定前の措置

測定を開始する前に、測定対象室のすべての窓及び扉(造りつけ家具、押入等の収納部分の扉を含む。)を開放し、30分間換気する。その後、測定対象室のすべての窓及び扉を5時間閉鎖する。ただし、造りつけ家具、押入等の収納部分の扉は開放したままとする。

※測定は次のイ～ハによる。

イ 上記測定前の措置の状態のまま測定する。

ロ 測定時間は、原則として24時間とする。ただし、工程等の都合により、24時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時～3時が測定時間帯の中央となるよう10時30分から18時30分までの時間帯で測定する。

ハ 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。

※その他

上記測定前の措置及び測定においては、換気設備又は空調設備は稼働させたままとする。ただし、局所的な換気扇等で常時稼働させないものは停止させたままとする。

※測定結果の分析

測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し濃度を測定する。

5)測定結果が指針値を超えた場合の措置

※測定結果が厚生労働省の指針値を超えていた場合は、発生源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度4)、5)により、測定を行う。

6)報告書の提出

※完了検査日までに報告書を提出する。なお、内部工事期間等が特記されている場合は、内部工事完了までに測定結果速報を監督員に提出する。

10 追加特記

⑨ アスベスト含有の建材

※アスベスト含有の建材は使用しない。ただし、やむを得ずアスベスト含有建材を使用する場合は、事前に監督員と協議を行うこと。

⑩ 建設工事における市内下請及び資材発注について

1 下請発注について

受注者は本建設工事の施工に当たり、工事の一部を下請企業に請け負わせて施工しようとする場合には、下請企業を上越市内企業の中から選定するよう努めるものとする。

2 建設資材発注について

受注者は本建設工事の施工に当たり、建設資材を発注しようとする場合には、納入企業を上越市内企業の中から選定するよう努めなければならない。また、上越市産資材がある場合には、他に優先して使用するよう努めるものとする。

建設工事請負約款第51条に基づき、受注者は工事的物及び工事材料(支給材料を含む)等を下記により火災保険、建設工事保険その他の保険(これに準ずるものを含む)に付すものとする。

1 保険の種類

保険の種類は、下記のいずれかとする。

1) 普通火災保険契約 2) 火災建築保険契約 3) 建設工事保険契約 4) 組立保険契約

2 保険の対象

工事的物及び工事材料(支給材料を含む)に火災保険を付すものとする。工事的物:工事出来高見込額相当分とする。工事材料:現場に搬入した検査済み工事材料とする。支給材料:受注者に引渡し済み支給材料。

但し、工事内容で基礎工事及び屋外工作物等については、保険に付す対象から除外することができる。また、継続工事での前回施設部分及び改築工事(修繕、改修、模様替え等を含む)での既製建築部分は保険契約の対象としない。

3 保険の時期、期間、金額 加入期間及び金額は、受注者が下表により選択できる。

保険の種類	普通火災保険	火災建築保険
	・	・
	・	・
付保の除外	・ 杭工事	・ 地中埋設物
付加の時期	中間金請求前	
保険の期間	引渡日迄	
保険対象額	工事の請負金額から付加の除外部分の額を控除した金額以上の額	

⑪ 火災保険等

⑫ 建設副産物の利用・搬出実績

請負金額が100万円以上となる工事については、建設副産物の利用・搬出実績を把握するため、再生資源利用[促進]計画書[実施書](国土交通省ホームページよりダウンロード可能)を作成し、CDにて提出する。

⑬ CADデータ

設計図CADデータは、当該工事以外での使用を禁止する条件で、無償貸し出しする。

⑭ 安全対策

①施設を使用しながらの工事であるため、適切な安全対策を行い施工すること。

②工事範囲への立ち入り禁止措置を行うこと。

・外部足場には、全面に養生シート(ネット状)を設置すること。

③騒音、振動、粉じん対策を行い施工すること。(工法の検討、作業範囲の囲い、設備の設置等)

④工事に先立ち、必要に応じて周辺住民に対して工事説明を行うものとする。

⑮ アスベスト含有建材の処理について(外壁改修工事)

外壁調査の結果、外壁塗材にアスベストが含有されているため、次のとおり処理すること。

該当作業

※脆弱塗膜部除去作業 改修建具廻り一部

※既存シーリング撤去作業(外壁塗材付着部のみ)

・

・

追加処理方法

※アスベスト除去作業に伴う法定掲示板作成、設置及び立入禁止措置

※HEPAフィルター付集塵機、防護服及び防護マスク使用

※作業範囲の床面のビニルシート養生

※作業足場の全面メッシュシート養生

※集塵材の管理型最終処分場での処理

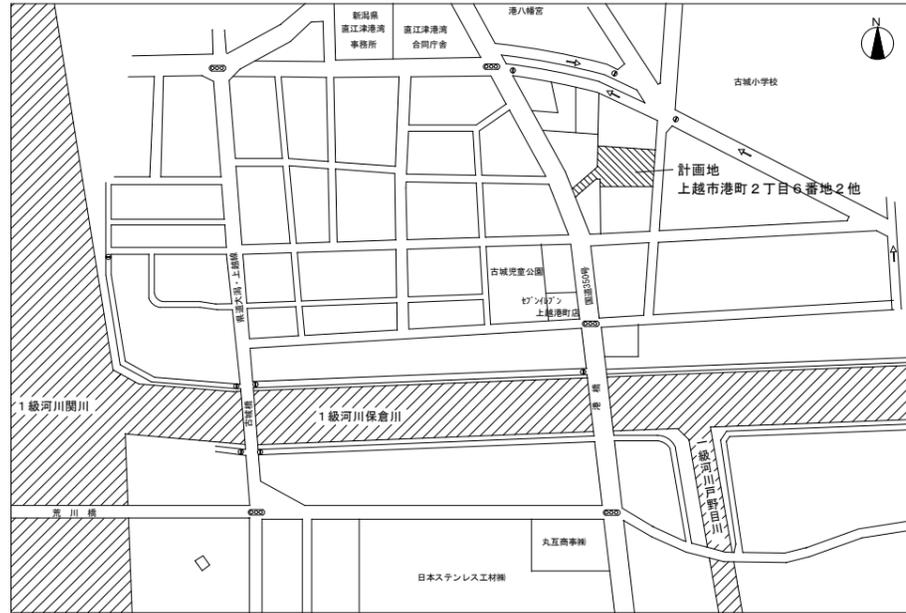
※既存シーリング撤去において、外壁塗材の付着箇所の集塵装置併用による手工具での撤去

※旋錠できる保管庫の設置及び除去したアスベスト含有物の保管庫での管理

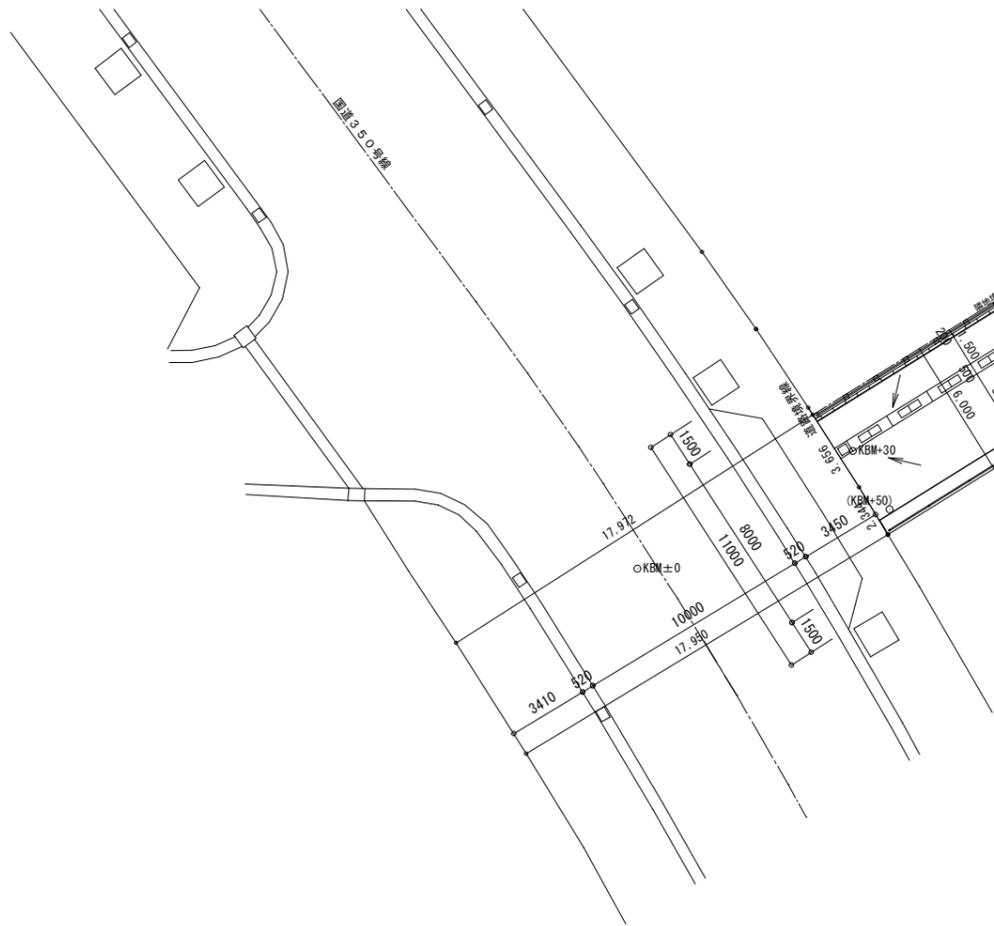
上記以外については、「改修標準」9.11による

⑯ 木材利用推進

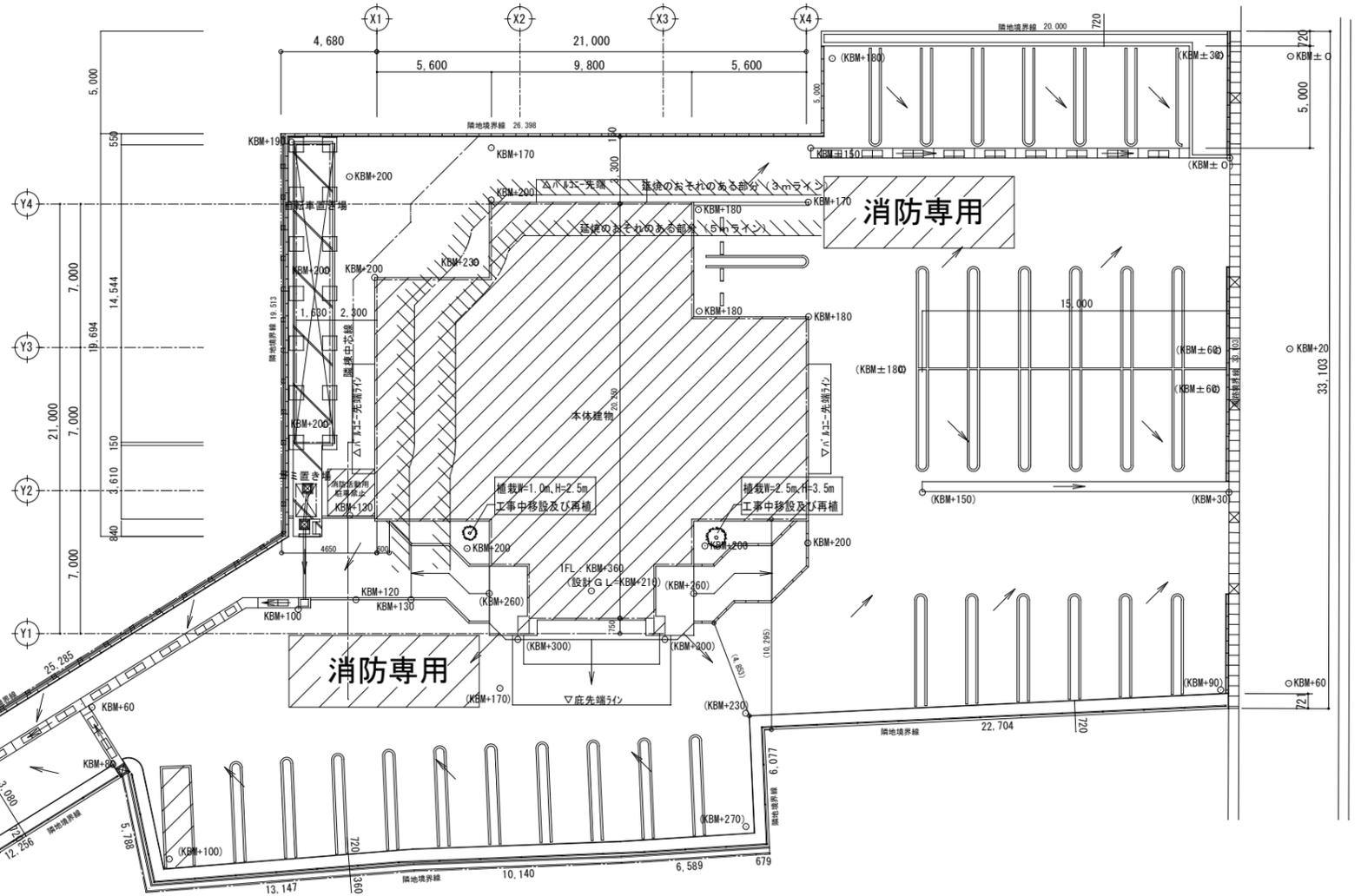
・本工事に使用する木材のうち、杉は「上越地域産材」を使用する。ただし、止むを得ない監督員が認めた場合は「新潟県産材」とすることができる。(上越地域産材とは上越市・妙高市地域における森林から生産された木材をいう)



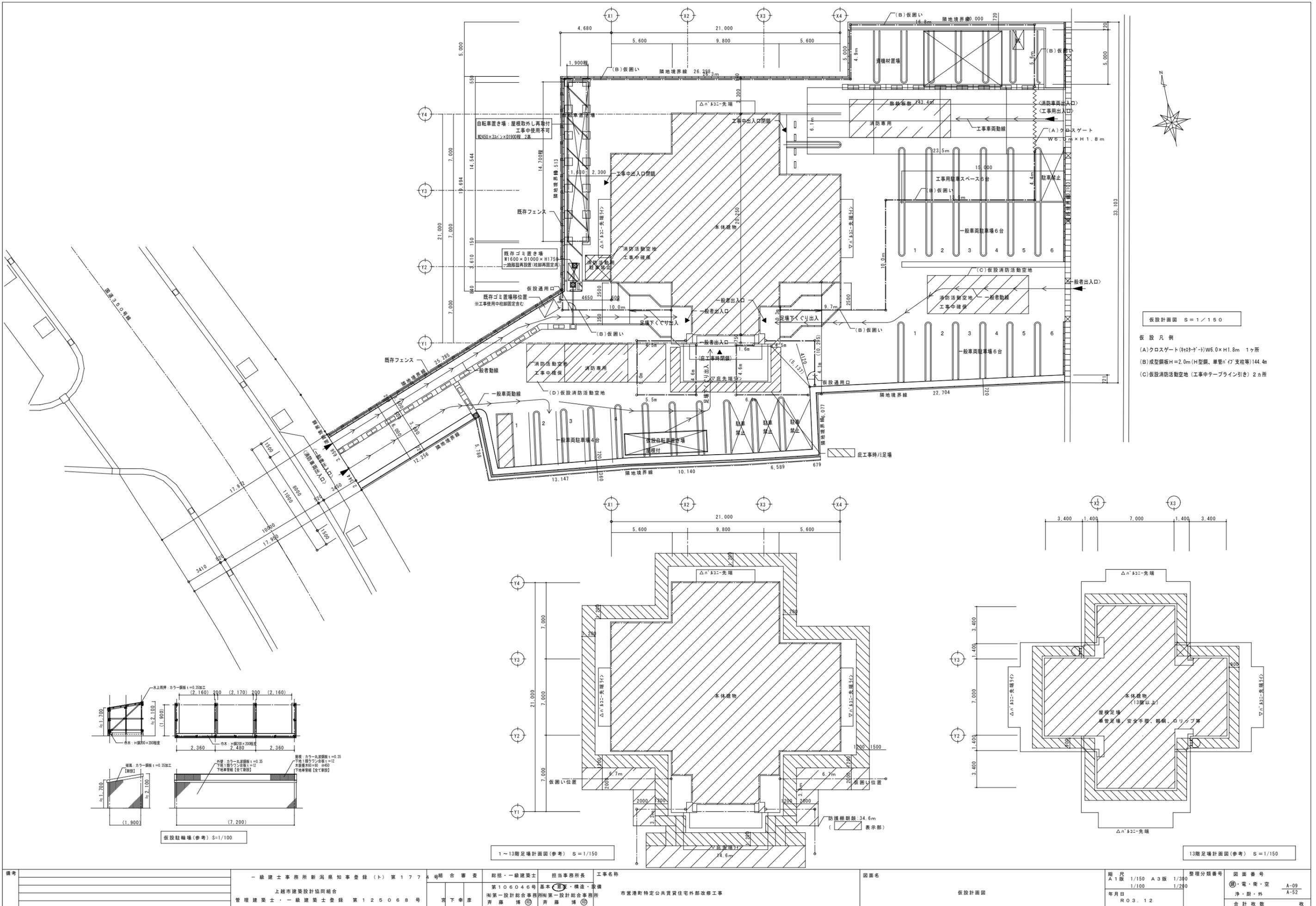
案内図



配置図 S = 1 / 150



備考	一級建築士事務所新潟県知事登録(ト)第1774号	組合審査	総括・一級建築士	担当事務所長	工事名称	図面名	縮尺	整理分類番号	図面番号
	上越市建築設計協同組合		第106046号 衛生一設計総合事務所 斉藤博	基本・構造・設備 衛生一設計総合事務所 斉藤博					
	管理建築士・一級建築士登録第125068号 宮下幸彦						年月日 R03.12	合計枚数	枚



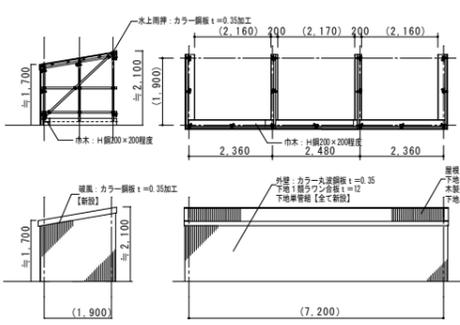
仮設計画図 S=1/150

仮設凡例

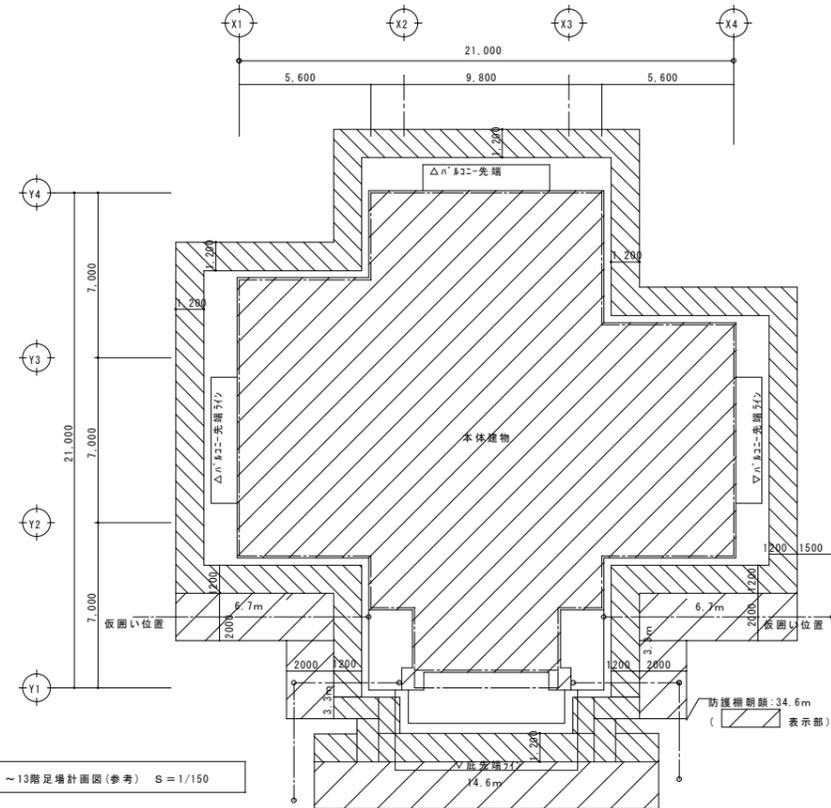
(A) クロスゲート (H×W) W6.0×H1.8m 1ヶ所

(B) 成型鋼板 H=2.0m (H型鋼、単管φ7支柱等) 144.4m

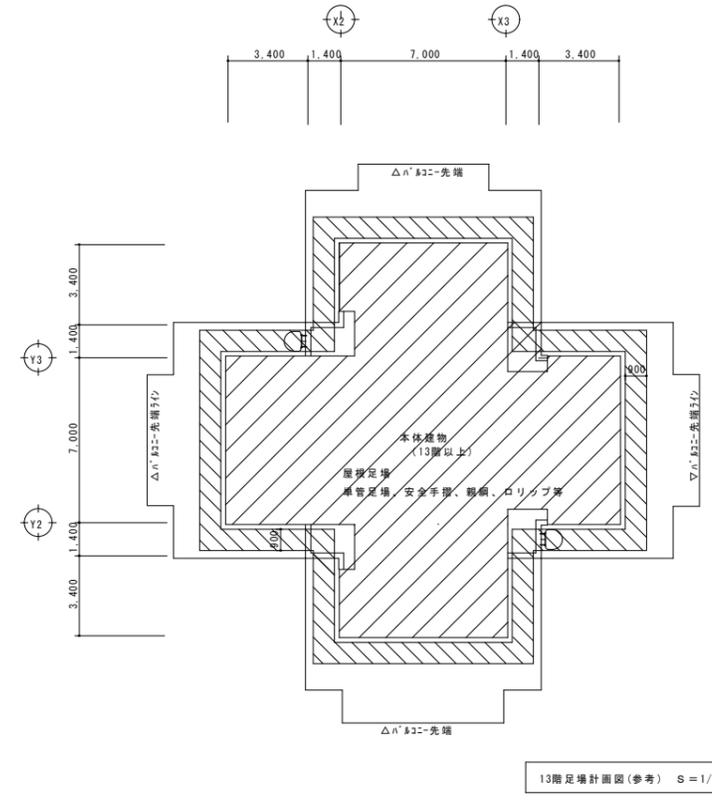
(C) 仮設消防活動空地 (工事中テープライン引き) 2ヶ所



仮設駐輪場 (参考) S=1/100



1~13階足場計画図 (参考) S=1/150



13階足場計画図 (参考) S=1/150

備考	一級建築士事務所新潟県知事登録(ト)第177号 上越市建築設計協同組合 管理建築士・一級建築士登録第125068号	号組合審査	総括・一級建築士 第106046号 青藤博	担当事務所長 基本(意)・構造・設備 所相第一設計総合事務所 青藤博	工事名称 市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事	図面名 仮設計画図	縮尺 A1版 1/150 A3版 1/300 1/100 1/200	整理分類番号 R03.12	図面番号 ⑧・電・衛・空 A-09 A-52	合計枚数 枚
----	---	-------	-----------------------------	---	----------------------------	--------------	--	------------------	---------------------------------	-----------

設計概要

一般事項	改修建築物概要				改修工事概要				外壁劣化部の改修内容	
工事名称	市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事				外部工事				外壁改修に伴う設備工事	
工事場所	市営港町2丁目 地内				・屋根葺き材、雪止め、樋、軒先、軒裏の見えかかりは塗装改修				・ひび割れ部改修	
(建築基準法関連)	構造 SRC造一部S造 (13階3層屋根部分)				・ポーチ庇屋根・軒裏・吊り受材の改修				・太陽光発電設備は1階室内機器、	
建物用途	(公営住宅)共同住宅				・雨樋(金物含む)の改修				・浮き部改修	
工事種別	外部改修工事				・外壁(バルコニー立上壁含む)の仕上げ劣化面の補修及び吹付塗材改修				・付着物清掃	
都市計画区域の別	都市計画区域(◎・外)○市街化区域・市街化調整区域・指定なし				・バルコニー、バルコニー、バルコニー床の防水改修				・ピンニング、エポキシ樹脂注入工法(SUS304 φ4.0全ネジピン使用)集塵機ドリル及び、集塵機(HAPA)取り付け掃除機	
用途地域	工業地域				・バルコニー、バルコニー軒裏の吹付塗材改修				・高圧水洗浄(水圧15Mpa)	
防火地域	・防火地域・準防火地域・指定なし○去2.2条地域				・サンルーム壁仕上げ劣化面の補修及び塗装改修				・シーリング撤去	
その他の地域地区	指定なし				・外部鋼製建具、7M3M劣化部分の改修(住戸7M3Mは改修しない)				・手工具(カッター)、集塵機(HAPA)取り付け掃除機	
	駐輪場				・外壁改修に伴う外部金物の改修				・鉄筋露出部分	
									・躯体欠損部分	
									・躯体欠損部分	
									・鉄筋露出部分0.1カ所/m2(416ヶ所)・躯体欠損部補修0.1カ所/m2(416ヶ所)	
									・浮き部補修0.2本/m2(832本)・ひび割れ部改修0.1m/m2(416m)	
									※劣化部分数量は施工数量調査により調整となるが、設計では仕上げ改修面積あたりとする。	

外部仕上表

工事部位	範囲・場所	現況	改修工法		下地	仕上	備考(外部金物等)	範囲・場所	工事部位	
			現況のまま	撤去						
ポーチ	床	磁器質タイル300角貼り	既存のまま			高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)による洗浄	点字誘導ブロック:32点プレート 300×300×10既存のまま	床	ポーチ	
		下地:コンクリート金ゴテ					タイル製玄関マット(一般歩行用)SUS304 1,200×600 タイル受枠共 既存のまま			
ポーチ庇	屋根	カラーステンレス溶接工法(SUS304)タコトt=0.4+タコリテt=4.0	下地:既存のまま			高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)	DP塗装仕上(弱溶剤系2液型屋根用フッ素樹脂塗料2回塗)	雪止めブロック:タイル製 50×50 t=4.0取外し再取付	屋根	ポーチ庇
		下地:7M3M-FINING 22kg+耐火木毛セメント板t=25				下地調整:錆汚れ、付着物の除去の上研磨処理	(軒先唐草共)	DP塗り(1級)フッ素樹脂 下地調整:RB種 錆止め塗装B種(エポキシ系)		
破風鼻隠し	タイル製t=0.40加工品 側面H300	下地:既存のまま				下塗り:弱溶剤系変成エポキシ樹脂プライマー(軒先唐草共)	壁面取合水切り:タイル製 タコトt=0.4加工品 シーリングMS-2 15×10程度撤去新設	DP塗り(1級)フッ素樹脂 下地調整:RB種 錆止め塗装B種(エポキシ系)	軒先(タコ)	
		下地:木板t=30				下地調整:RB種 錆止め塗装B種(エポキシ系)				
庇屋根吊受材	165.2φ×4.5 2液型タコ樹脂塗装					錆止め処理:常温亜鉛メッキ塗装	上塗り フッ素樹脂系塗料塗仕上	庇屋根吊受材		
						素地調整RA種(全面錆除去)	中塗り 弱溶剤系変成エポキシ塗料塗り			
軒裏	ケイ酸カルシウム板t=6.0横桎(タコ EP塗 廻り縁:塩ビ製)	ケイ酸カルシウム板撤去、廻り縁撤去			LGS下地25型@300新設(インサート共)	7M3M-FINING 貼りt=1.0新設 巾100電解着色ワイド押出成型 廻り縁:7M3M新設(タコタコ用)		軒裏		
		下地 LGS25型	下地 LGS25型(インサート共)							
軒樋	ステンレス高耐候性樹脂被覆品	取外し再取付				高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)による洗浄		軒樋		
屋根	屋根葺き材	カラーステンレスt=0.45 平滑タコ工法 (元且タコ工法(株))				高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)	DP塗装仕上(弱溶剤系2液型屋根用フッ素樹脂塗料2回塗)	雪止めブロック:タイル製 50×50 t=4.0取外し再取付	屋根葺き材	屋根
		棟包み、頂部納め、谷カバーカラーステンレスt=0.45				下地調整:錆汚れ、付着物の除去の上研磨処理	(棟包み、頂部納め、谷カバー共)	DP塗り(1級)フッ素樹脂 下地調整:RB種 錆止め塗装B種(エポキシ系)		
下地材	バックアップ材:木毛セメント板t=25	既存のまま				下塗り:弱溶剤系変成エポキシ樹脂プライマー(棟包み、頂部納め、谷カバー共)		下地材		
		野地板:木毛セメント板t=40の上 下葺き材:7M3M-FINING 940	既存のまま							
軒先(タコ)タコ	カラーステンレスt=0.45加工品					高圧水洗浄(15Mpa程度) 下地調整:錆汚れ、付着物の除去の上研磨処理	DP塗装仕上(弱溶剤系2液型屋根用フッ素樹脂塗料2回塗)	軒先(タコ)タコ		
						下塗り:弱溶剤系変成エポキシ樹脂プライマー				
軒樋・谷樋	ステンレスt=0.4コ型加工品 W250×H130 落し口8カ所					下地調整RC種	溶剤による錆おとし処理仕上	樋		
堅樋	タコタコ製φ75 受金物共	堅樋:タコタコ製φ75φ支持金物共撤去				堅樋:タコタコ硬質塩化ビニール管φ75φ 支持金物:タイル製@2000新設	13階樋受石:取外し再取付12カ所	堅樋		
地覆	コンクリート打ち放し補修					下地処理:劣化部補修(タコ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上	上塗り:高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上	地覆		
						素地調整 下地調整塗材:可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/m ² 以上				
外壁	1階~12階 コンクリート打放面	防水型外装薄塗材E 多機能型単層弾性仕上塗材	吹付面タコ目地シーリング25×15程度	7M3M-FINING 吹付面タコ目地シーリング25×15程度	7M3M-FINING 吹付面タコ目地シーリング25×15程度	上塗り:高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上	換気金物 外部タイル製100φ 丸型タコ 雨水吹込部は防雨タコ付に撤去・新設、設計では全数1/3(25ヶ所程度)	1階~12階 コンクリート打放面	外壁	
		下地:打ち放し補修の上、素地調整	吹付面打継目地シーリング25×15程度	吹付面打継目地シーリング25×15程度	下地処理:劣化部補修(タコ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上	タコ目地シーリング:PU-2、25×15程度、打継目地シーリング PU-2、25×15程度【新設】	既存のこりは溶剤による錆おとし処理仕上(下地処理RC程度)設計では全数2/3(51ヶ所程度)※工事時調査調整			
外壁	13階、14階 押出成形板面	防水型外装薄塗材E 多機能型単層弾性仕上塗材	タコ目地シーリング10×10程度	タコ目地シーリング10×10程度	下地処理:高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上	上塗り:高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上	内部樹脂製100φ 丸型レジスター 撤去・新設(68ヶ所)	13階、14階 押出成形板面	外壁	
		下地処理:素地調整	タコ目地シーリング15×10程度	タコ目地シーリング15×10程度	素地調整 下地調整塗材:可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/m ² 以上	タコ目地シーリング(凸凹横桎部):同上塗料仕上(剛毛塗り等)	安全ガード 横桎:7M3M-FINING 8 (SUS製)止め(取外し再取付)			
外壁	13階、14階 押出成形板面	※コンクリート打放面アスベスト含有仕上塗り材	耐震タコ目地シーリング25×20程度	耐震タコ目地シーリング25×20程度	素地調整 下地:可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/m ² 以上	耐震タコ目地シーリングPU-2、25×20程度【新設】	1階住居表示撤去新設、表示板(津波避難)取外し再取付	1階住居表示撤去新設、表示板(津波避難)取外し再取付	1階住居表示撤去新設、表示板(津波避難)取外し再取付	
		※押出成形板面アスベスト含有無し仕上塗り材			さざ波状(ローラー)模様塗り					
外壁	13階、14階 押出成形板面	防水型外装薄塗材E 多機能型単層弾性仕上塗材	タコ目地シーリング10×10程度	タコ目地シーリング10×10程度	下地処理:高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上	上塗り:高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上	避難7M3M-FINING 梯子:7M3M-FINING 貫通又は7M3M-FINING10(SUS製)壁面固定止め	13階、14階 押出成形板面	外壁	
		下地処理:素地調整	タコ目地シーリング15×10程度	タコ目地シーリング15×10程度	素地調整 下地調整塗材:可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/m ² 以上	タコ目地シーリング(凸凹横桎部):同上塗料仕上(剛毛塗り等)	安全ガード 横桎:7M3M-FINING 8 (SUS製)止め(取外し再取付)			
外壁	13階、14階 押出成形板面	※押出成形板面アスベスト含有無し仕上塗り材	耐震タコ目地シーリング25×20程度	耐震タコ目地シーリング25×20程度	素地調整 下地:可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/m ² 以上	耐震タコ目地シーリングPU-2、25×20程度【新設】	換気金物 外部タイル製100φ 丸型ガラリ 撤去・新設と既存残しは下階に準じ調整	換気金物 外部タイル製100φ 丸型ガラリ 撤去・新設と既存残しは下階に準じ調整	換気金物 外部タイル製100φ 丸型ガラリ 撤去・新設と既存残しは下階に準じ調整	
					さざ波状(ローラー)模様塗り					
外壁	13階、14階 押出成形板面	防水型外装薄塗材E 多機能型単層弾性仕上塗材	タコ目地シーリング10×10程度	タコ目地シーリング10×10程度	下地処理:高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上	上塗り:高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上	内部樹脂製100φ 丸型レジスター 撤去・新設(4ヶ所)	内部樹脂製100φ 丸型レジスター 撤去・新設(4ヶ所)	内部樹脂製100φ 丸型レジスター 撤去・新設(4ヶ所)	
		下地処理:素地調整	タコ目地シーリング15×10程度	タコ目地シーリング15×10程度	素地調整 下地調整塗材:可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/m ² 以上	タコ目地シーリング(凸凹横桎部):同上塗料仕上(剛毛塗り等)	安全ガード 横桎:7M3M-FINING 8 (SUS製)止め(取外し再取付)			

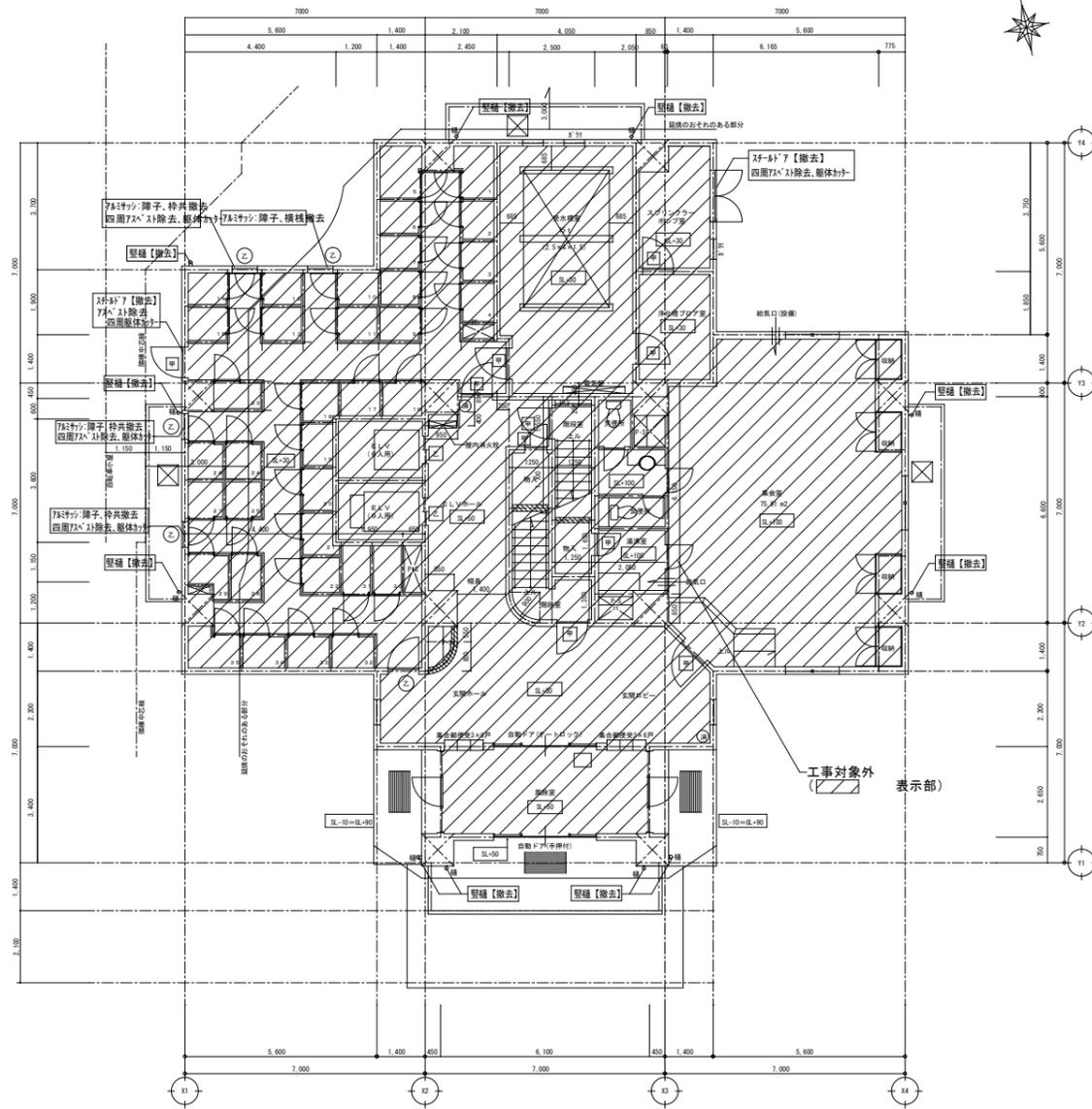
※可とう形改修塗材RE(下地調整・下塗り・中塗り)

換気金物外部防雨タコ参考品番 杉田株式会社
スーパースリムフード強制換気用
SHE(防火ダンパー無) SHED(防火ダンパー付)

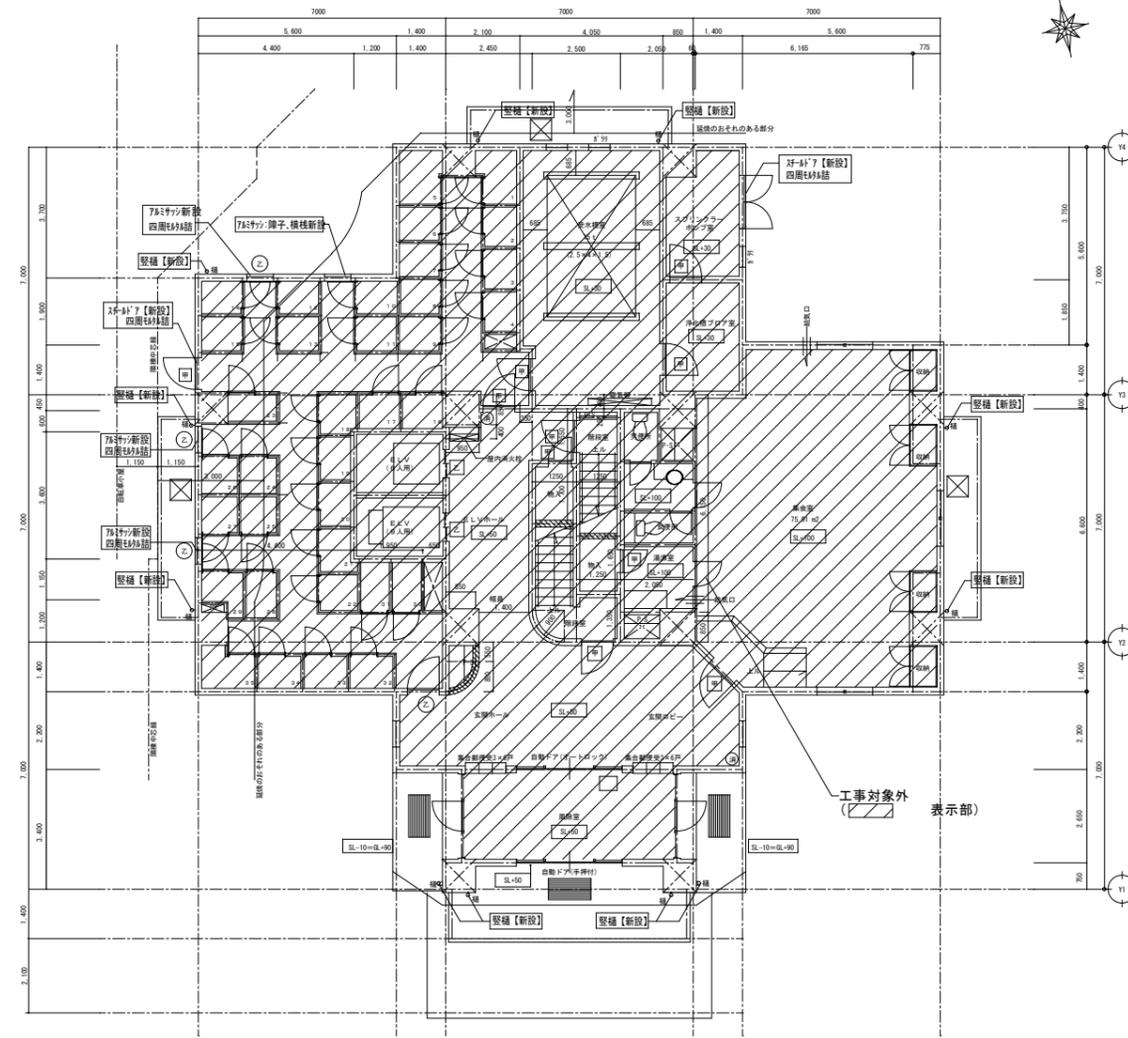
備考	一級建築士事務所新潟県知事登録(ト)第1774号	組合審査	経括・一級建築士	担当事務所長	工事名称	図面名	縮尺 A1版 — A3版 — 年月日 R03.12	整理分類番号	図面番号 ◎・電・衛・空 浄・厨・外 合計枚数
	上越市建築設計協同組合 管理建築士・一級建築士登録第125068号 宮下幸彦		第106046号 南第一設計総合事務所 斉藤博◎	基本(電)構造・設備 南第一設計総合事務所 斉藤博◎	市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事	【改修前・後】設計概要・外部仕上表(1)			A-10 A-52 枚

外部仕上表

工事部位	範囲・場所	改修工法				工事部位
		現況	撤去	下地	仕上	
ハコニ立上	立上り壁内外	防水型外装薄塗材E 多機能単層弾性仕上塗材		下地処理：劣化部補修(ｸﾞﾗｯｸ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上	上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系) ローラー塗り平滑仕上	立上り壁内外 (外壁と同じ)
	2階～12階	下地：打ち出し補修の上、素地調整 ※ｺﾝｸﾘｰﾄ打放面→アスベスト含有仕上塗材		素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(ﾎﾟﾘｼﾞｪﾙ系)0.8kg/㎡以上 さざ波状(ローラー) 模様塗り	30目ｼｰﾘﾝｸﾞ：PU-2、25×15程度、打雑目ｼｰﾘﾝｸﾞ PU-2、25×15程度【新設】 (手摺そのまま取付けｽ撤去新設)	
	南面ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ	ﾊﾞﾙｺﾆｰ受支柱：SUS[-80×40×5及び40×40×5合せ止め@810 受けSUS、PL-6溶接 支柱固定受材：SUS、2L-40×40×5 ﾎｰﾙﾌﾟﾗｰﾄﾞ2×2-M10 手摺：SUS口-100×50×2 カバー：笠木ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ加工品	手摺及びｶﾊﾞｰは既存のまま	ﾊﾞﾙｺﾆｰ受支柱、固定受材：下地調整RC種	ﾊﾞﾙｺﾆｰ受支柱、固定受材：溶剤による錆おとし処理仕上	ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ(電氣工事)ﾊﾞﾙｺﾆｰ目隠し板：ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製t=2.0 支柱ﾊﾞﾙｺﾆｰ止めM4@229 目隠し板：取外し再取付 溶剤による錆おとし処理仕上 取付ｽﾍﾞﾙは撤去新設
	2階～12階	2階7ﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ仕上(想定)、3～12階ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ(電氣設備)ﾎﾞﾙﾄ止め 両端はﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ板部 両端はﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ板t=6貼 下地SUS角材受(想定)	両端はﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ板部 既存のまま	2階7ﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ取付ｽ撤去	2階7ﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ：下地調整、下地り(エポキシ系)	2階：7ﾊﾞﾙｺﾆｰﾌﾟﾗｽﾁｯｸ：DP塗替え(1級)ﾌｯｼﾞ樹脂 取付ｽ撤去新設
ハコニ立木	14階	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ仕上(W285前後 既製品巾) 外壁側立上水切 シｰﾘﾝｸﾞ(20×10程度)	取外し再取付 立上水切取外し 同ｼｰﾘﾝｸﾞ(20×10程度)撤去			14階
	13階	ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ防水(立上り共) 保護防汚ｼｰﾄt=2.5(平場のみ) 防水端末水切取外し シｰﾘﾝｸﾞ(20×10程度)	ｼｰﾄふくれ、はがれ部切開撤去又は再接着 (※既存面との浮きを含め劣化状況は全面積の1/4(50.4㎡程度) 保護防汚ｼｰﾄt=2.5撤去	劣化調査、高圧水洗浄(水圧15Mpa程度) 切開撤去部下地処理：樹脂ﾎﾟﾘｼﾞｪﾙ補修の上下地調整塗材塗	保護防汚ｼｰﾄ敷t=2.5新設(歩行用)(平場のみ立上り除く) 下地りﾍﾞｯﾄﾙｰﾌ防水(立上り共) 新設(歩行アンカー固定工法) 防水端末水切り再取付、同ｼｰﾘﾝｸﾞMS-2(20×10程度)新設	13階
ハコニ床	14階、基準階 下屋根	ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ防水防汚仕上(立上り共) 下地：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾗ 防水端末ｼｰﾘﾝｸﾞ(20×10程度)	塗装ふくれ、はがれ部撤去、ひび割れ部Vｶｯﾄ撤去 (※既存面との浮きを含め劣化状況は全面積の1/4(177㎡程度) 防水端末ｼｰﾘﾝｸﾞ(20×10程度)撤去	劣化調査、高圧水洗浄(水圧15Mpa程度) 下地処理：樹脂ﾎﾟﾘｼﾞｪﾙ補修、ひび割れ部ｼｰﾘﾝｸﾞ処理の上下地調整塗材塗	環境対応型ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ防水防汚X-2かぶせ工法(歩行用、標準ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ仕上)(10年保証)新設(既存重塗り) 種別-工事は層間接着用ﾌﾗｲﾏｰ塗布の上ｸﾞﾗｰｽﾞﾊﾞﾙｺﾆｰ防水材塗り2回+仕上塗料塗り仕上 防水端末ｼｰﾘﾝｸﾞMS-2(20×10程度)新設	14階、基準階
	2～12階、14階 13階	鋼鉄製75φ タテ及びヨコ引き用 塗膜防水用 鋼鉄製75φ タテ引き用 シｰﾄ防水用	タテ引き用 ヨコ引き用	ヨコ引き用 ﾎﾟﾘｼﾞｪﾙ、中皿撤去、四周研り共 ﾀﾞﾂ、ﾀｯｼﾞ廻り等ｼｰﾘﾝｸﾞ15×10程度撤去	改修用ﾎﾟﾘｼﾞｪﾙ75φ(非鉛製) ヨコ引き用 新設 改修用ﾎﾟﾘｼﾞｪﾙ75φ(非鉛製) タテ引きｼｰﾄ防水用 新設	ハコニ床
壁・呼樋	2～13階 ハコニ	ｶﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製φ75 受金物ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ製@1200内外	壁樋：ｶﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製75φ 支持金物共撤去	壁樋：ｶﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製75φ 支持金物共撤去	壁樋：ｶﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製φ75 支持金物：ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ製@1200新設	2～13階 ハコニ
	開口部	玄関出入口 ﾄﾗﾝｸﾞﾙｰﾑ等廻り 外部開口部	住戸、集會室、受水槽室、 玄関廻りは既存のまま	1階ﾄﾗﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰﾎﾞﾝｸﾞ 室枠ごと撤去 13階物置き枠ごと撤去 1階ﾄﾗﾝｸﾞﾙｰﾑは障子、横棧を撤去(1ヶ所は枠とも) ﾄﾞﾌﾞ、ﾀｯｼﾞ廻り等ｼｰﾘﾝｸﾞ15×10程度撤去	1階ﾄﾗﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰﾎﾞﾝｸﾞ 室枠ごと新設 13階物置き枠ごと新設 ｶﾊﾞｰ工法にてﾌﾟﾗｽﾁｯｸ新設(3ヶ所は枠ごと建具表による) ﾄﾞﾌﾞ、ﾀｯｼﾞ廻り等ｼｰﾘﾝｸﾞMS-2 15×10程度新設 既存建具ｸﾘｰﾈﾝｸﾞ(建具案内図による)	玄関出入口 機械室 外部等 外部開口部
軒裏	屋根幕板	ｶﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸt=0.45加工品 軒裏裏面W350 側面H320 ﾋﾞｽ止め@450全4カ所 下地：硬質木毛ｷﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸt=12 軒裏・谷樋取合笠木押え：ｶﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸt=0.45加工品 ﾋﾞｽ止め@450-2カ所	取付ｽ撤去	下地調整RC種	溶剤による錆おとし処理仕上 笠木、幕板取付ｽ@450新設	屋根幕板
	2階～13階 ハコニ裏	防水型外装薄塗材E 下地：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修 ※ｺﾝｸﾘｰﾄ打放面→アスベスト含有仕上塗材		下地処理：劣化部補修(ｸﾞﾗｯｸ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(エポキシ系)0.8kg/㎡以上 さざ波状(ローラー) 模様塗り	上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系) ローラー塗り平滑仕上 避難ﾊｯﾁ 梯子：アルミ合金製 枠：ステンレス製 下地調整RC種 溶剤による錆おとし処理仕上 床面廻り取合ｼｰﾘﾝｸﾞMS-2 15×10程度撤去新設	2階～13階 ハコニ裏
	14階屋根裏 (ハコニ天井) 2階～12階 居室裏	防水型外装薄塗材E 下地：ｸﾞﾗﾝﾄﾞｸﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸt=6+LGS下地25型 廻り縁：塩ビ製 防水型外装薄塗材E 下地：断熱複合板t=31 (ｽﾀｲﾎﾟｰﾙt=25+ｸﾞﾗﾝﾄﾞｸﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸt=6)	ｸﾞﾗﾝﾄﾞｸﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸ板撤去、廻り縁撤去 LGS下地25型撤去(インサート共)	下地調整：1液形エポキシ樹脂溶剤系シーラー塗 LGS下地25型@300新設(インサート共) 下地調整：1液形エポキシ樹脂溶剤系シーラー塗	防水型外装薄塗材E塗(ローラー塗) ｸﾞﾗﾝﾄﾞｸﾞﾗｽﾌﾟﾗｽﾁｯｸ板t=6.0新設 廻り縁：塩ビ製新設 防水型外装薄塗材E塗替え(ローラー塗)	14階屋根裏 (ハコニ天井) 2階～12階 居室裏



【改修前】1階平面図 S=1/100

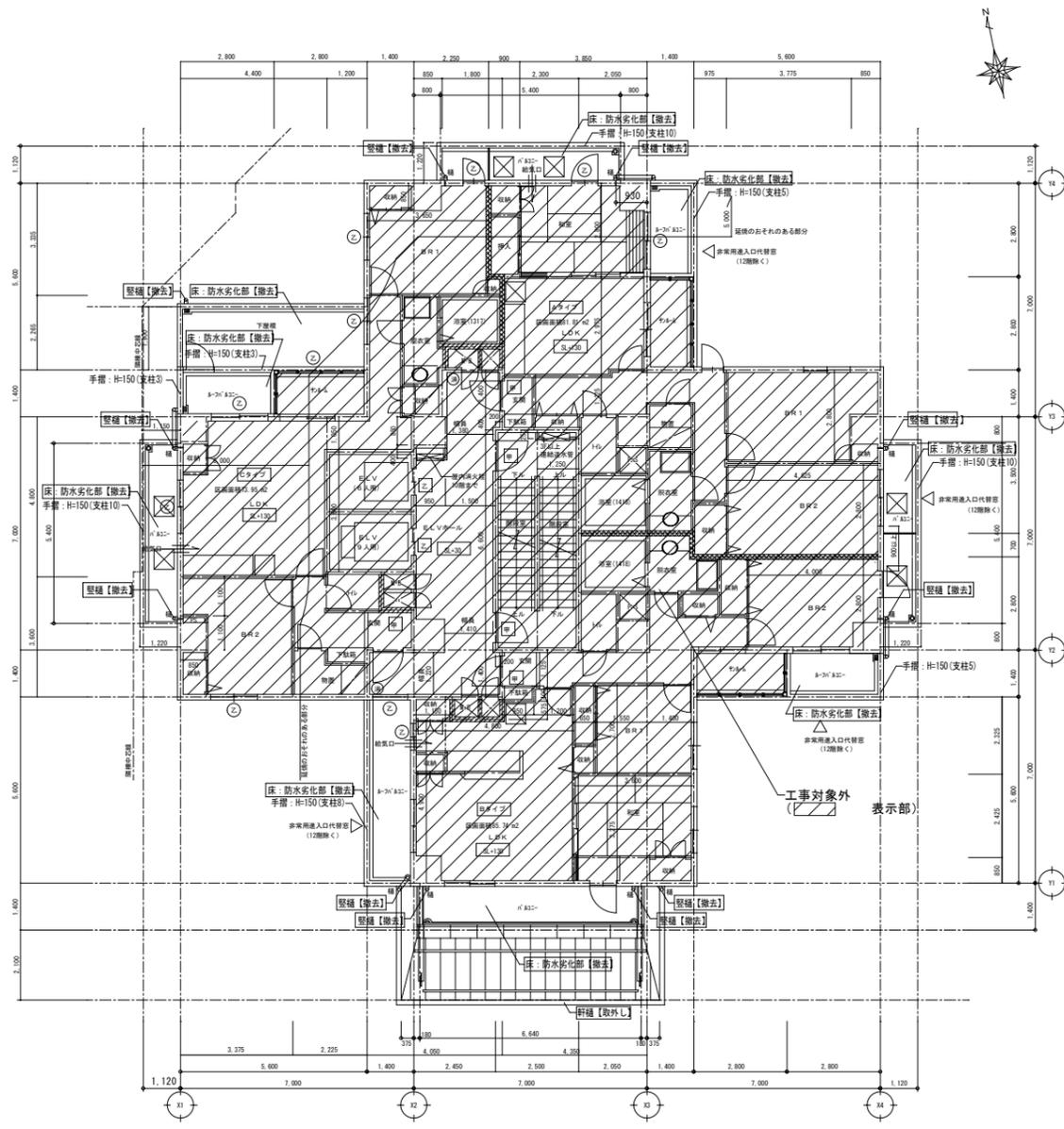


【改修後】1階平面図 S=1/100

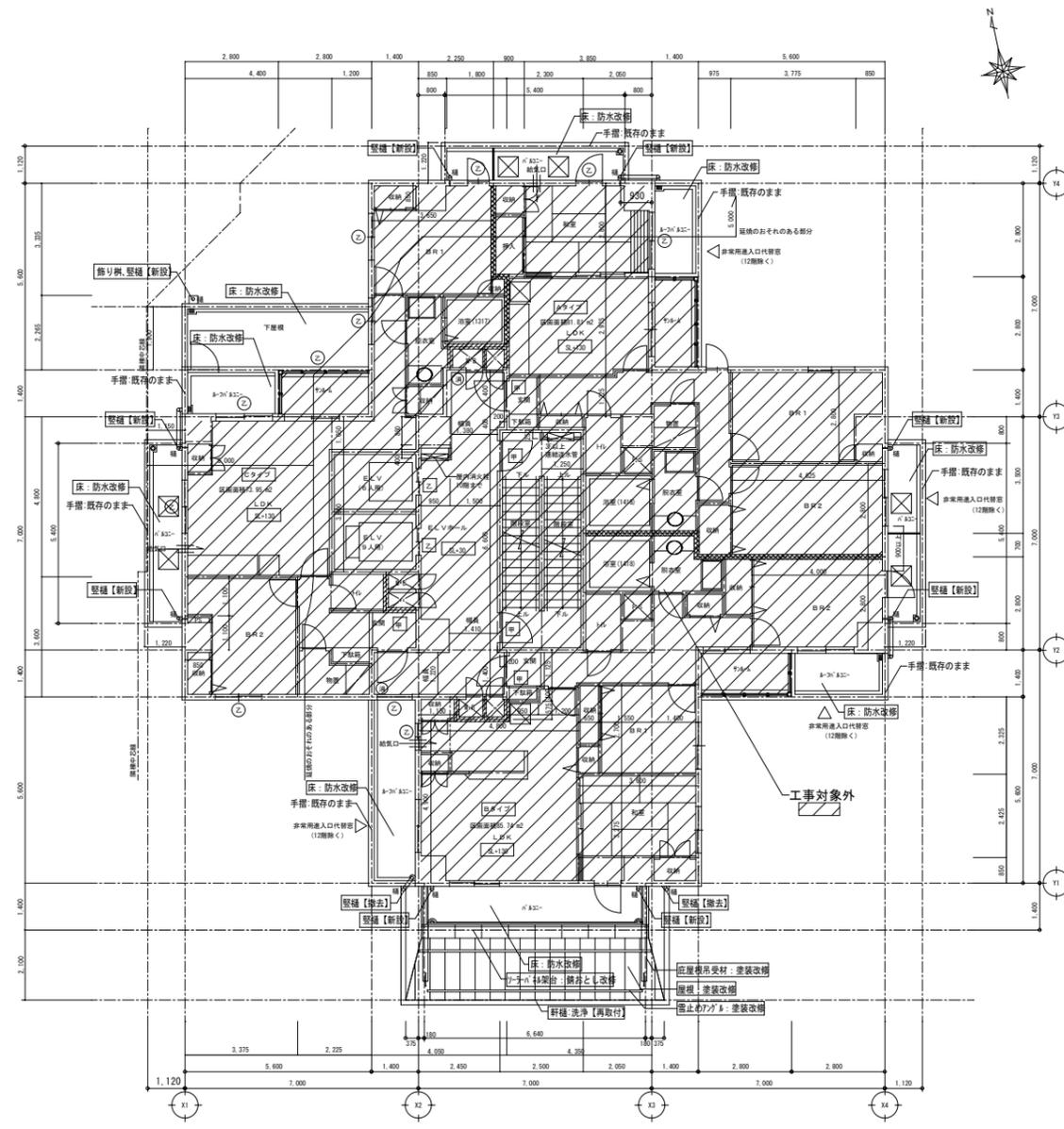
既存凡例

	鉄筋コンクリート壁 t=150 2時間耐火
	コンクリートブロック造壁 t=120 (モルタル充填) 2時間耐火
	外壁面 押出成形板壁 非耐力壁 1時間耐火Wn1029
	界壁 乾式耐火間仕切壁 2時間耐火W-2332 (最上階4層まで1時間耐火W-1214)
	RC壁、コンクリートブロック壁、界壁で防火区画とする。
	LGS65地下PB t=12.5両面貼W=90壁
	常時閉鎖式防火戸 (特定防火設備)
	常時閉鎖式網入りガラス t=6.8入防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	網入りガラス t=6.8入防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	避難ハッチは錆おとし処理、避難階段は既存のまま
	給気口150φ (送風ラインは防火ダンパー付き) 内・外部共撤去新設 (機械設備)
	消火器 既存のまま

改修内容を示す



【改修前】2階平面図 S=1/100

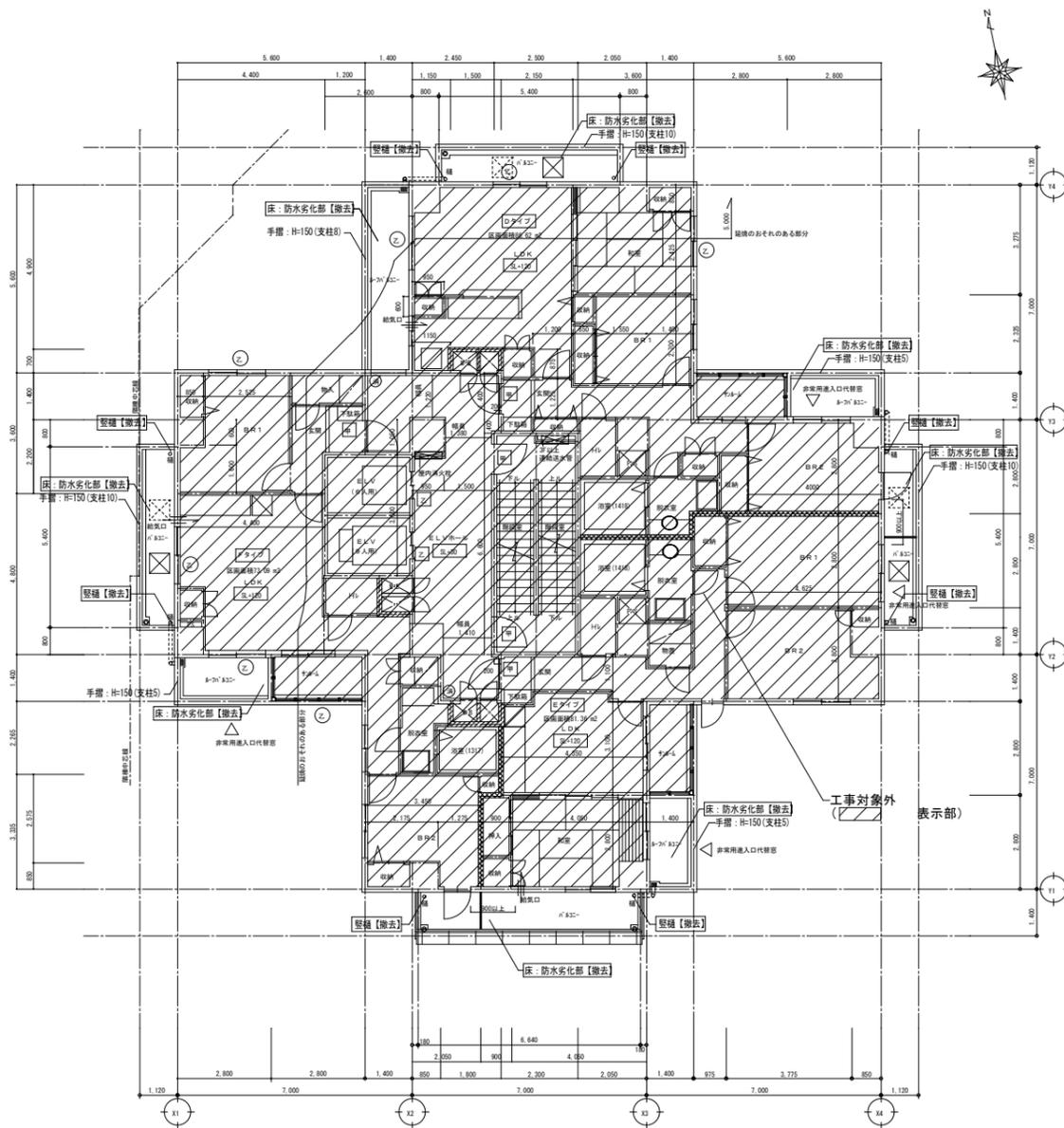


【改修後】2階平面図 S=1/100

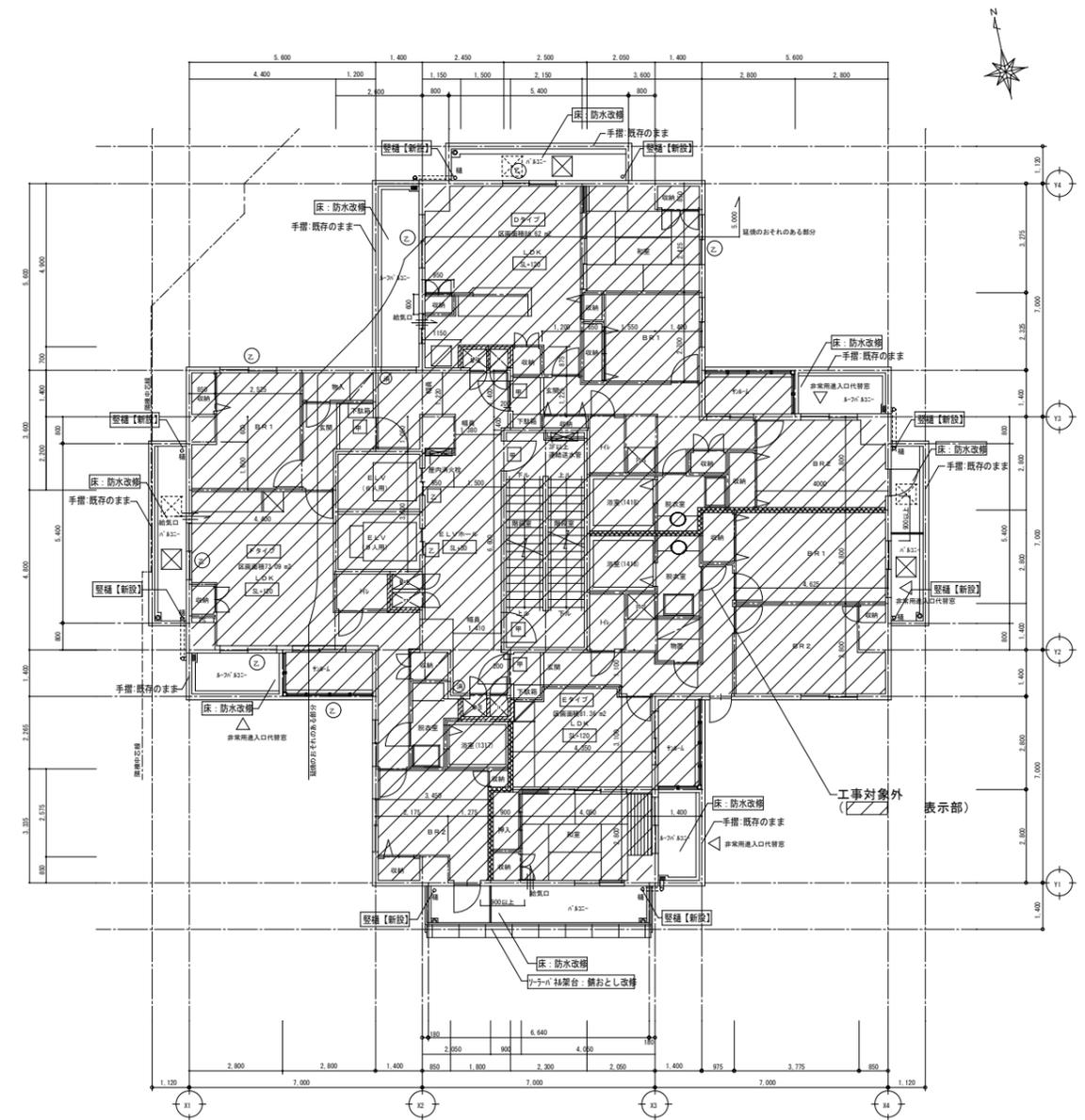
既存凡例

	鉄筋コンクリート壁 t=150 2時間耐火
	コンクリートブロック造壁 t=120 (モルタル充填) 2時間耐火
	外壁面 押出成形板壁 非耐力壁 1時間耐火Wn1029
	界壁 乾式耐火間仕切壁 2時間耐火W-2332 (最上層4層まで1時間耐火W-1214) RC壁、コンクリートブロック壁、界壁で防火区画とする。
	LG S65下地PB t=12.5両面結W=90壁
	常時閉鎖式防火戸 (特定防火設備)
	常時閉鎖式網入りガラス t=6.0 防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	網入りガラス t=6.8 防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	避難ハッチは錆おとし処理、避難3ヶ所は既存のまま
	給気口150φ (延焼ラインは防火ダンパー付き) 内・外部共換気新設(機械設備)
	消火器 既存のまま

改修内容を示す



【改修前】3・5・7・9・11階平面図 S=1/100

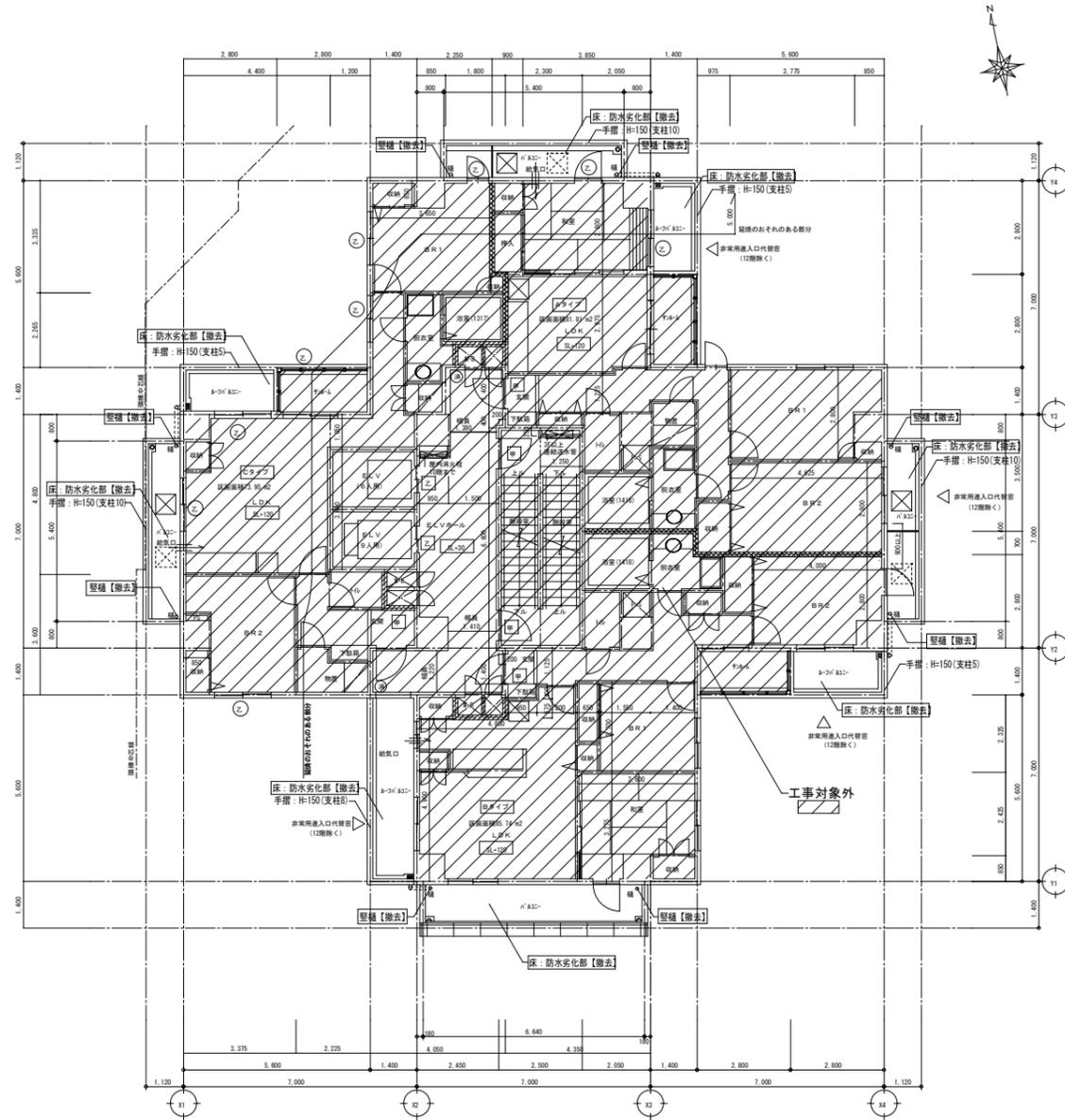


【改修後】3・5・7・9・11階平面図 S=1/100

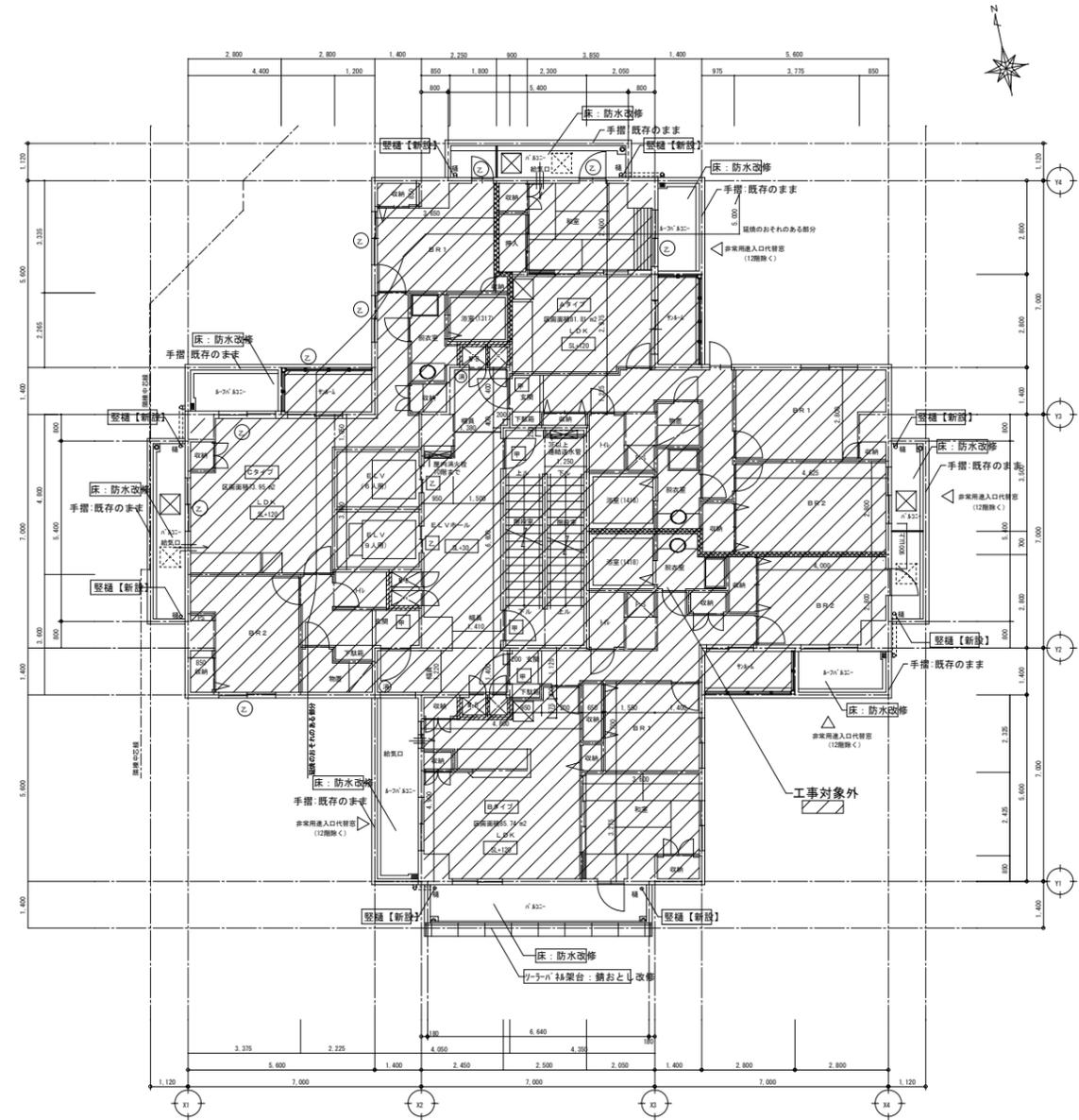
既存凡例

	鉄筋コンクリート壁 t=150 2時間耐火
	コンクリートブロック造壁 t=120 (モルタル充填) 2時間耐火
	外壁面 押出成形板壁 非耐力壁 1時間耐火Wn1029
	界壁 乾式耐火間仕切壁 2時間耐火W-2332 (最上階4層まで1時間耐火W-1214)
	RC壁、コンクリートブロック壁、界壁で防火区画とする。
	LGS65下地P B t=12.5両面貼W=90壁
	常時閉鎖式防火戸 (特定防火設備)
	常時閉鎖式網入りガラス t=6.8入防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	網入りガラス t=6.8入防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	避難ハッチは錆おとし処理、避難リフトは既存のまま
	給気口150φ (基礎ラインは防火ダンパー付き) 内・外部共撤去新設(機械設備)
	消火器 既存のまま

改修内容を示す



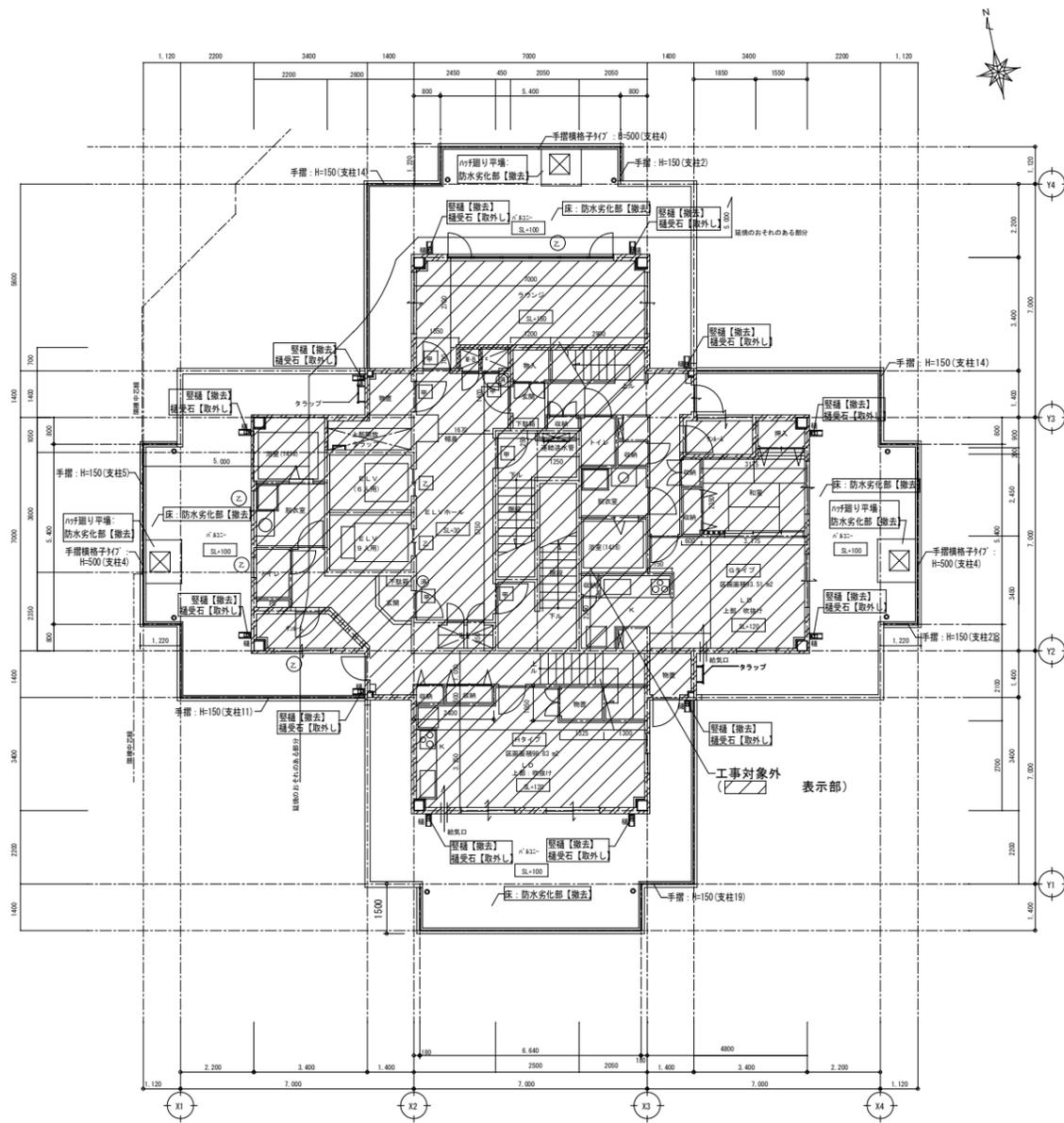
【改修前】4・6・8・10・12階平面図 S=1/100



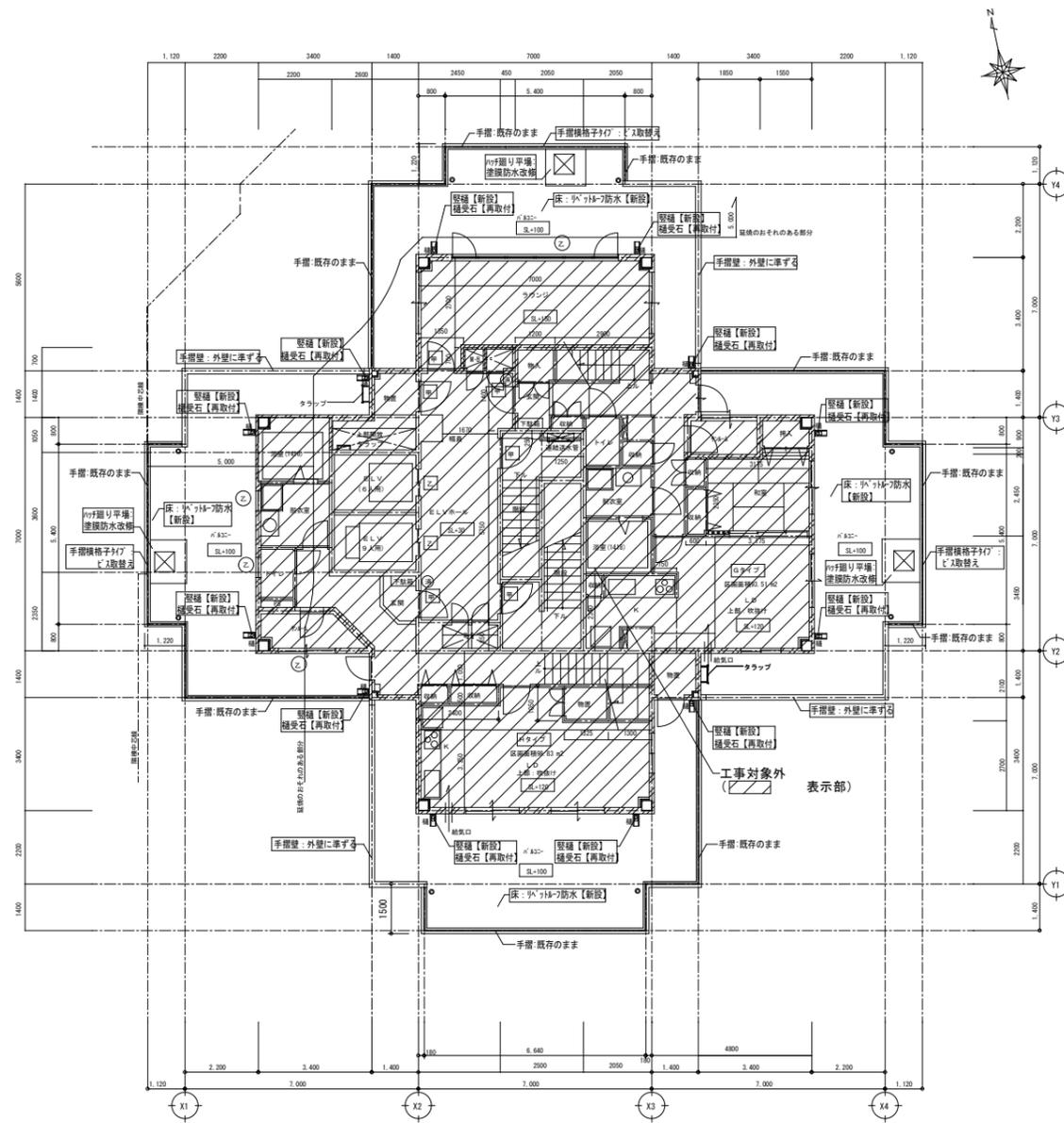
【改修後】4・6・8・10・12階平面図 S=1/100

既存凡例	
	鉄筋コンクリート壁 t=150 2時間耐火
	コンクリートブロック造壁 t=120 (モルタル充填) 2時間耐火
	外壁面 押出成形板壁 非耐力壁 1時間耐火Wn1029
	界壁 乾式耐火間仕切壁 2時間耐火W-2332 (最上階4層まで1時間耐火W-1214) RC壁、コンクリートブロック壁、界壁で防火区画とする。 LGS65地下PB t=12.5両面貼W=90壁
	常時閉鎖式防火戸 (特定防火設備)
	常時閉鎖式網入りガラス t=6.8防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	網入りガラス t=6.8防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	避難ハッチは錆おとし処理、避難ドアは既存のまま
	給気口150φ (延焼ラインは防火ダンパー付き) 内・外部共撤去新設(機械設備)
	消火器 既存のまま

改修内容を示す



【改修前】13階平面図 S=1/100

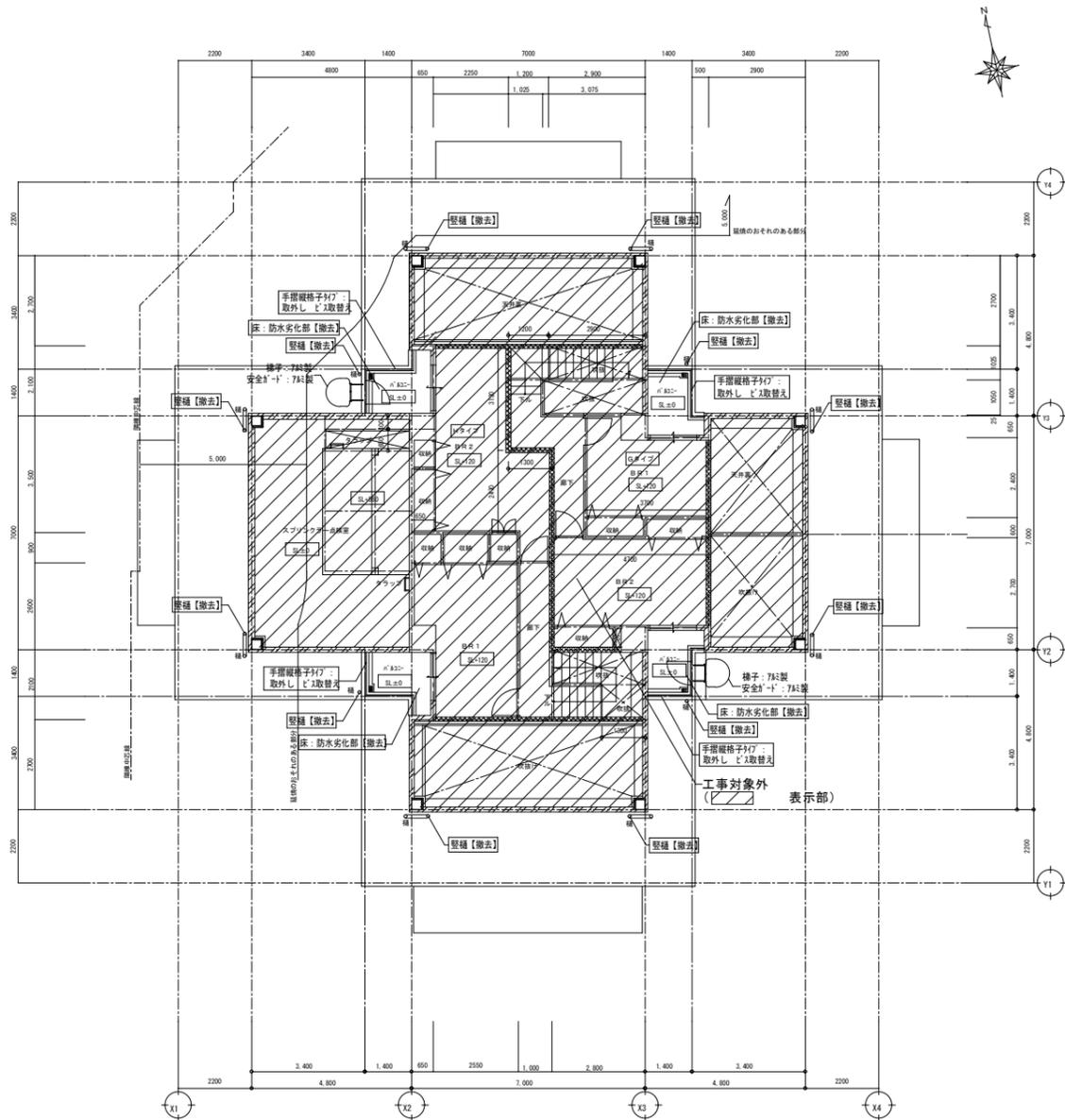


【改修後】13階平面図 S=1/100

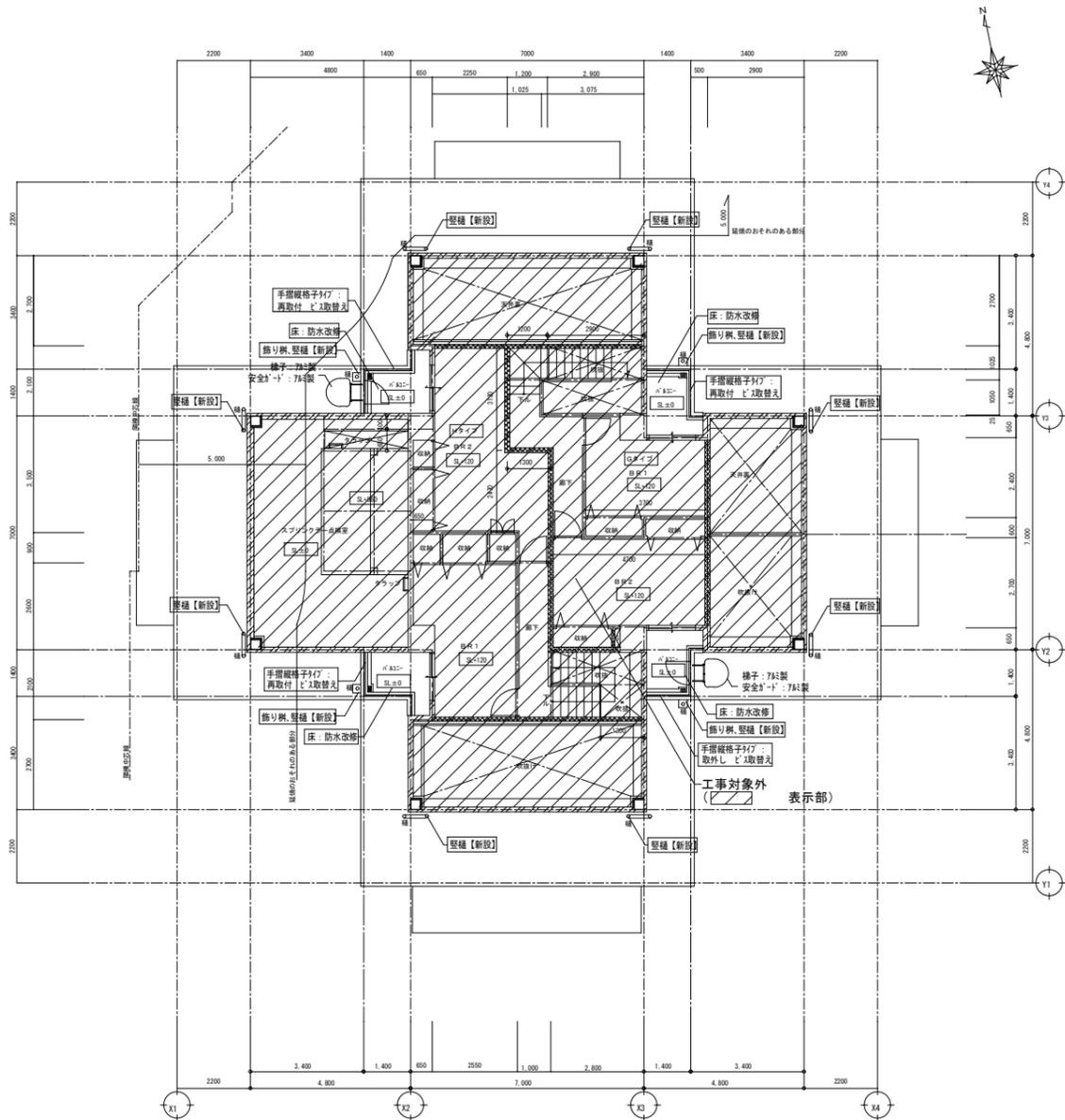
既存凡例

	鉄筋コンクリート壁 t=150 2時間耐火
	コンクリートブロック造壁 t=120 (モルタル充填) 2時間耐火
	外壁面 押出成形板壁 非耐力壁 1時間耐火Wn1029
	界壁 乾式耐火間仕切壁 2時間耐火W-2332 (最上階4層まで1時間耐火W-1214) RC壁、コンクリートブロック壁、界壁で防火区画とする。
	LG S65下地PB t=12.5両面鉛W=90壁
	常時閉鎖式防火戸 (特定防火設備)
	常時閉鎖式網入りガラス t=6.8防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	網入りガラス t=6.8防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	避難ハッチは鎖おとし処理、避難経路は既存のまま
	給気口150φ (延焼ラインは防火ダンパー付き) 内・外部共撤去新設 (機械設備)
	消火器 既存のまま

改修内容を示す



【改修前】14階平面図 S=1/100

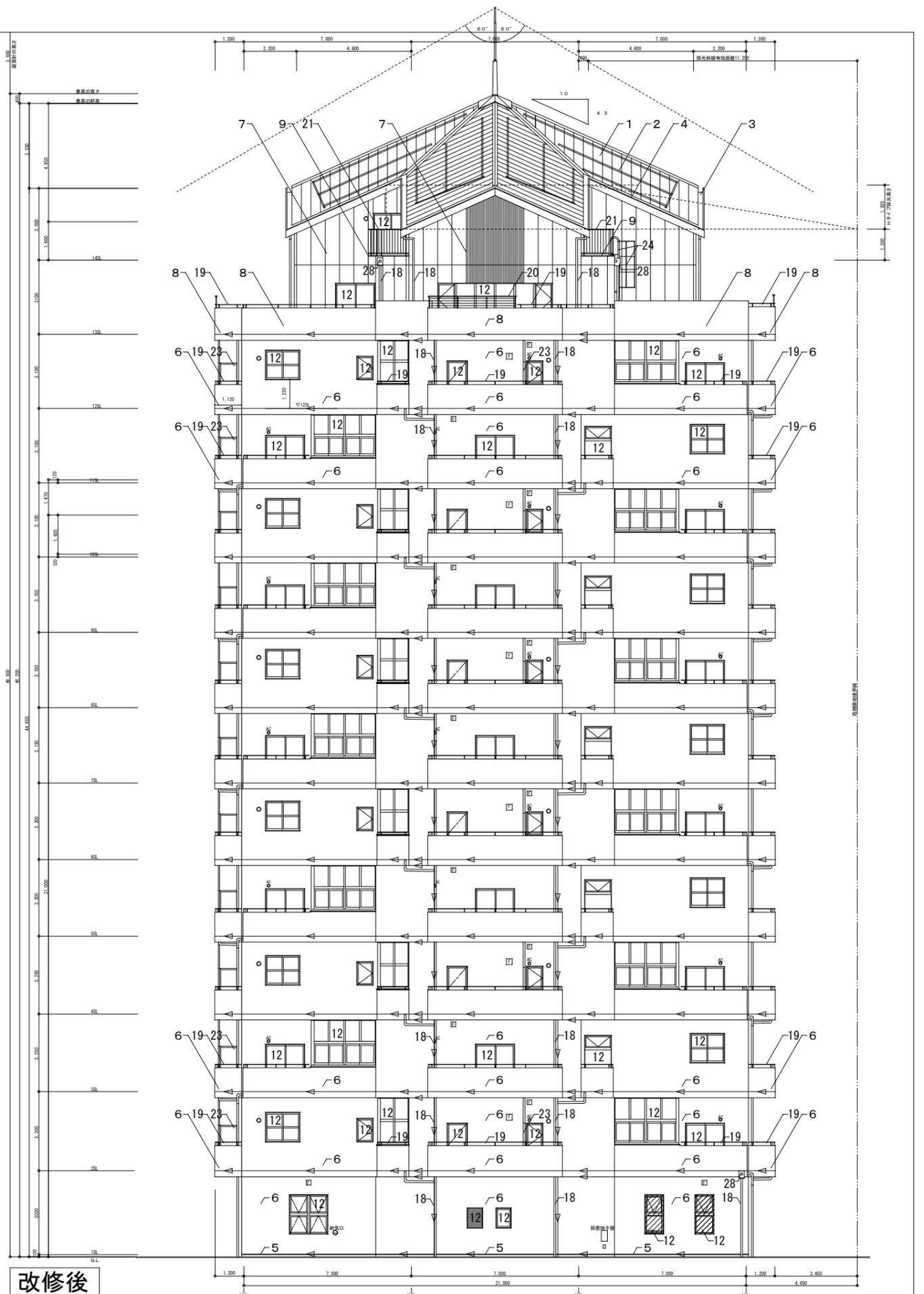
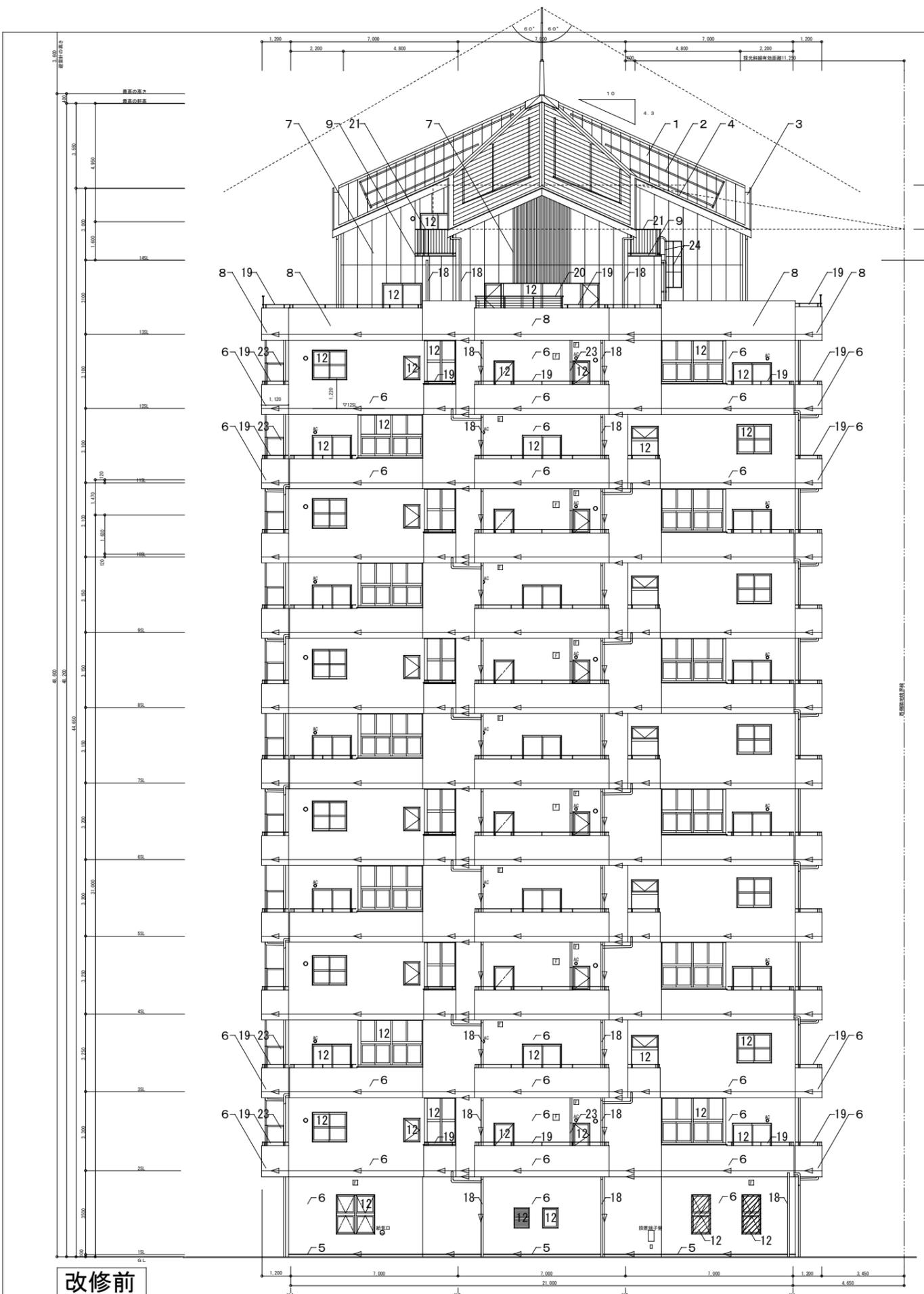


【改修後】14階平面図 S=1/100

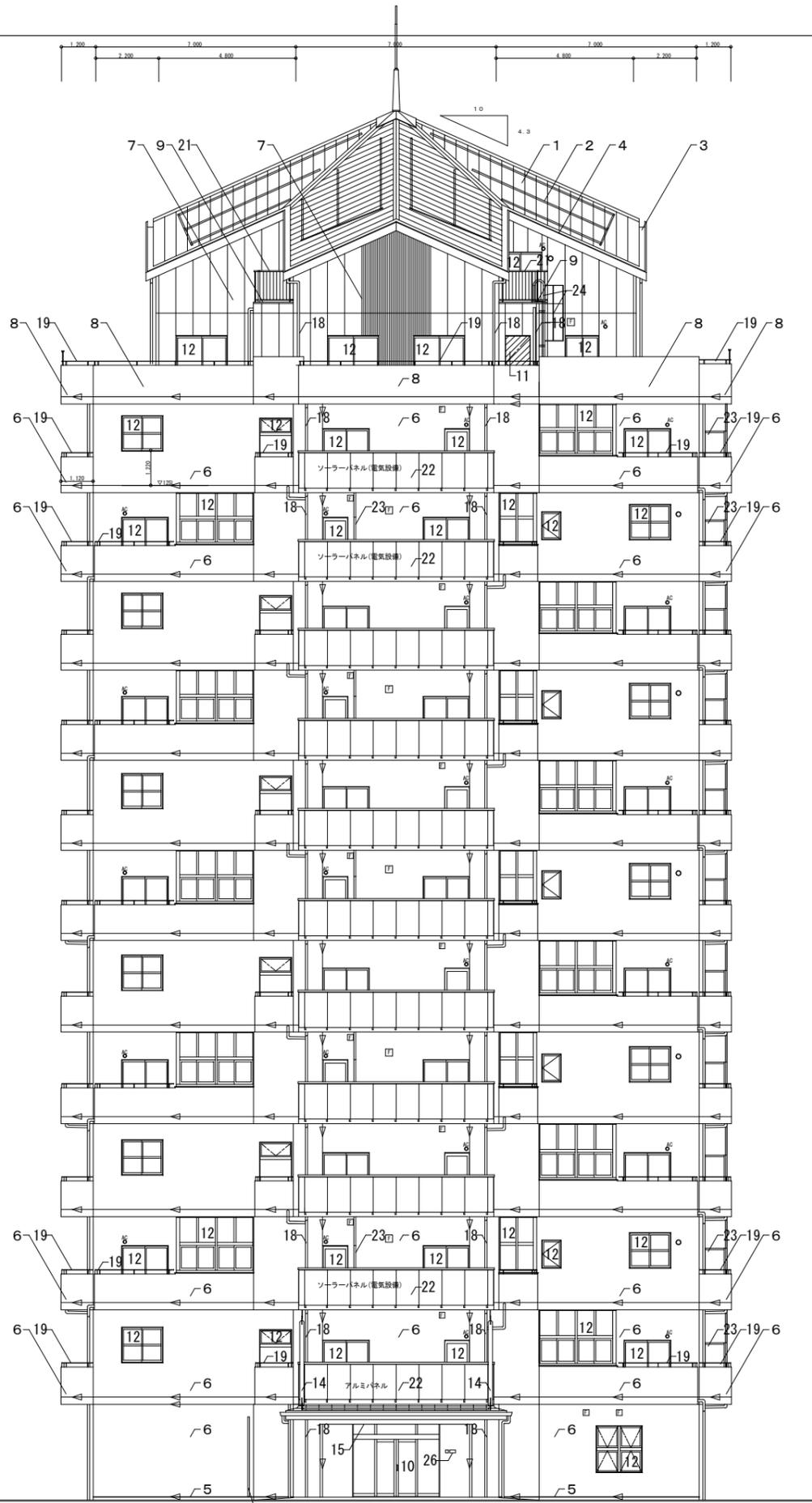
既存凡例

	鉄筋コンクリート壁 t=150 2時間耐火
	コンクリートブロック造壁 t=120 (モルタル充填) 2時間耐火
	外壁面 押出成形板壁 非耐力壁 1時間耐火Wn1029
	界壁 乾式耐火間仕切壁 2時間耐火W-2332 (最上層4層まで1時間耐火W-1214)
	RC壁、コンクリートブロック壁、界壁で防火区画とする。
	LG S65下地PB t=12.5両面貼W=90壁
	常時閉鎖式防火戸 (特定防火設備)
	常時閉鎖式網入りガラス t=6.8入防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	網入りガラス t=6.8入防火戸 (建令109条2項による防火設備)
	避難ハッチは網おとし処理、避難ハッチは既存のまま
	結気口150φ (結気ラインは防火ダンパー付き) 内・外野共撤去新設(機械設備)
	消火器 既存のまま

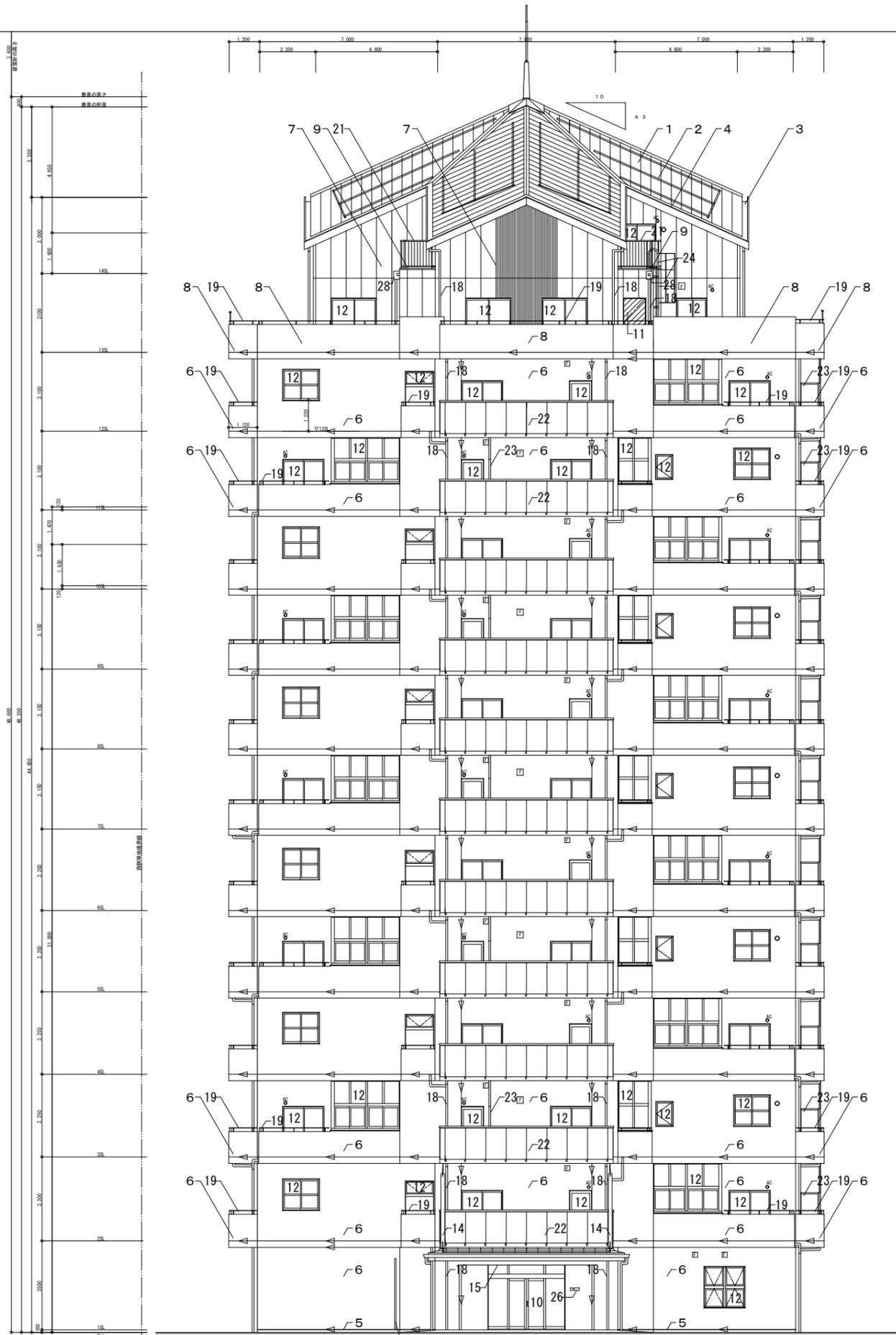
改修内容を示す



備考	一級建築士事務所新潟県知事登録(ト)第1774号	組合審査	総括・一級建築士	担当事務所長	工事名称	縮尺 A1版 1/100 A3版 1/200 年月日 R03.12	整理分類番号	図面番号 ●電・衛・空 ○浄・厨・外 A-20 A-52	合計枚数 枚
	上越市建築設計協同組合 管理建築士・一級建築士登録第125068号 宮下幸彦		第106046号 基本(電・衛・空) 衛生(浄・厨・外) 齊藤博◎	高本◎ 齊藤博◎	市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事				

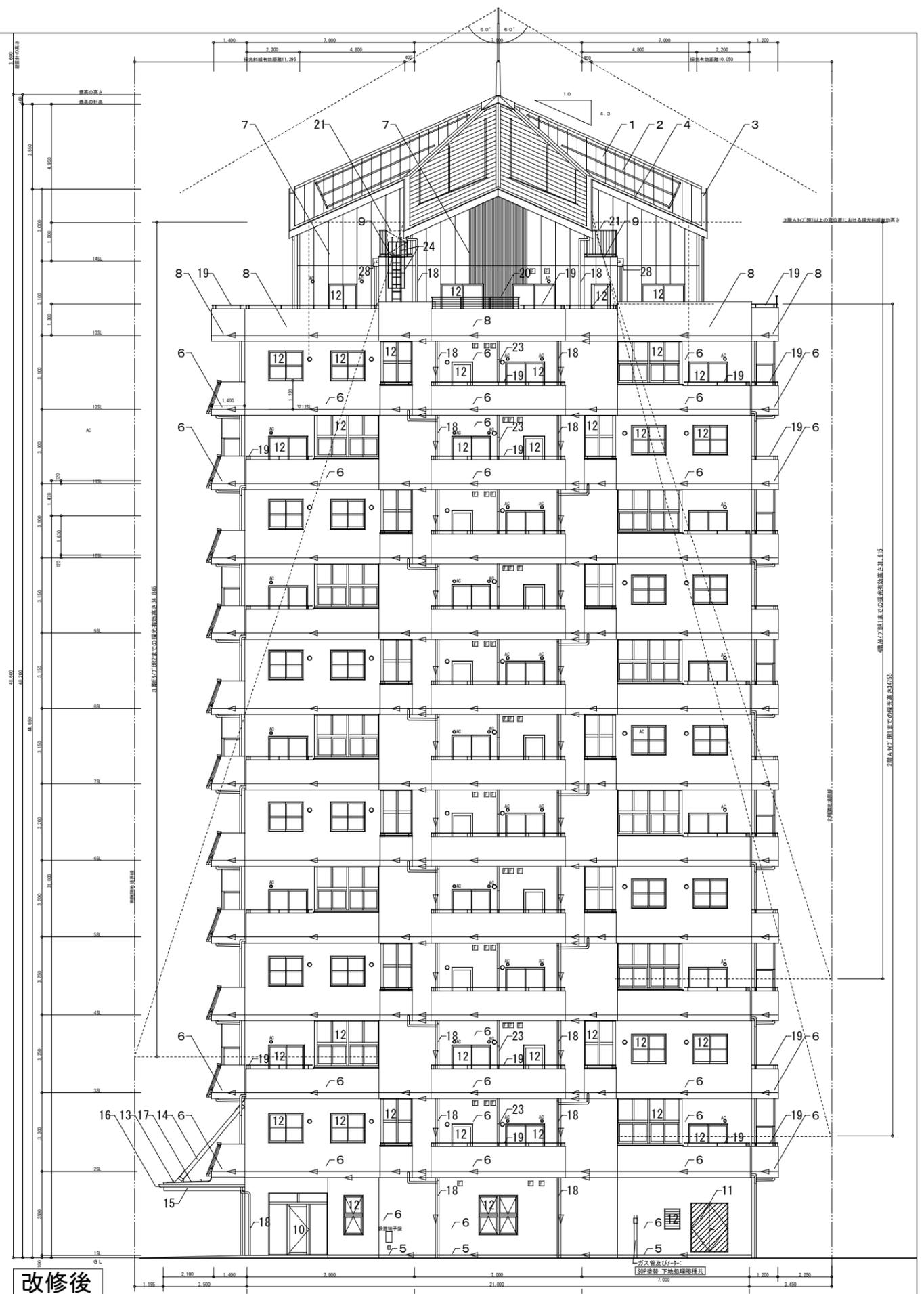
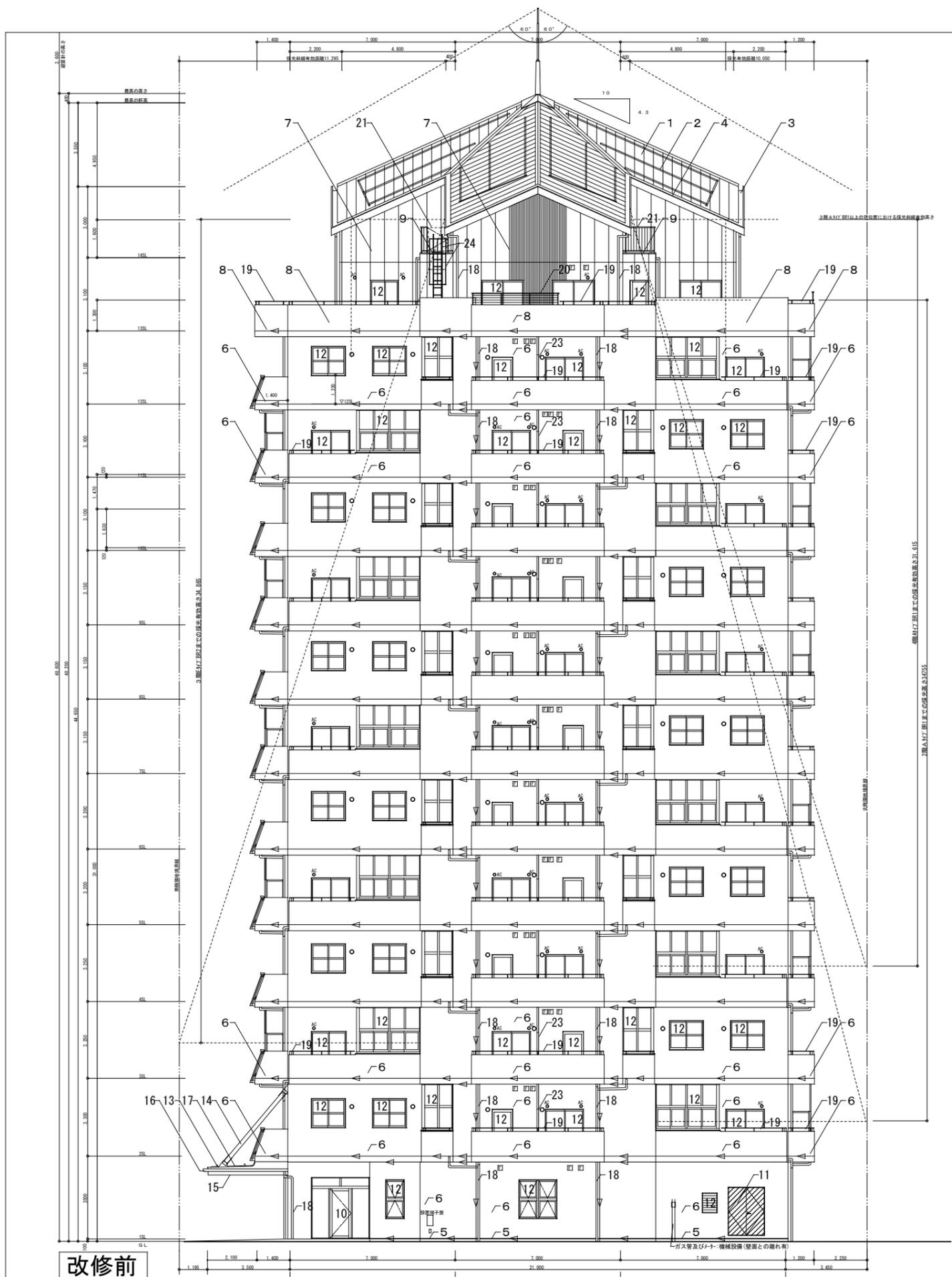


改修前

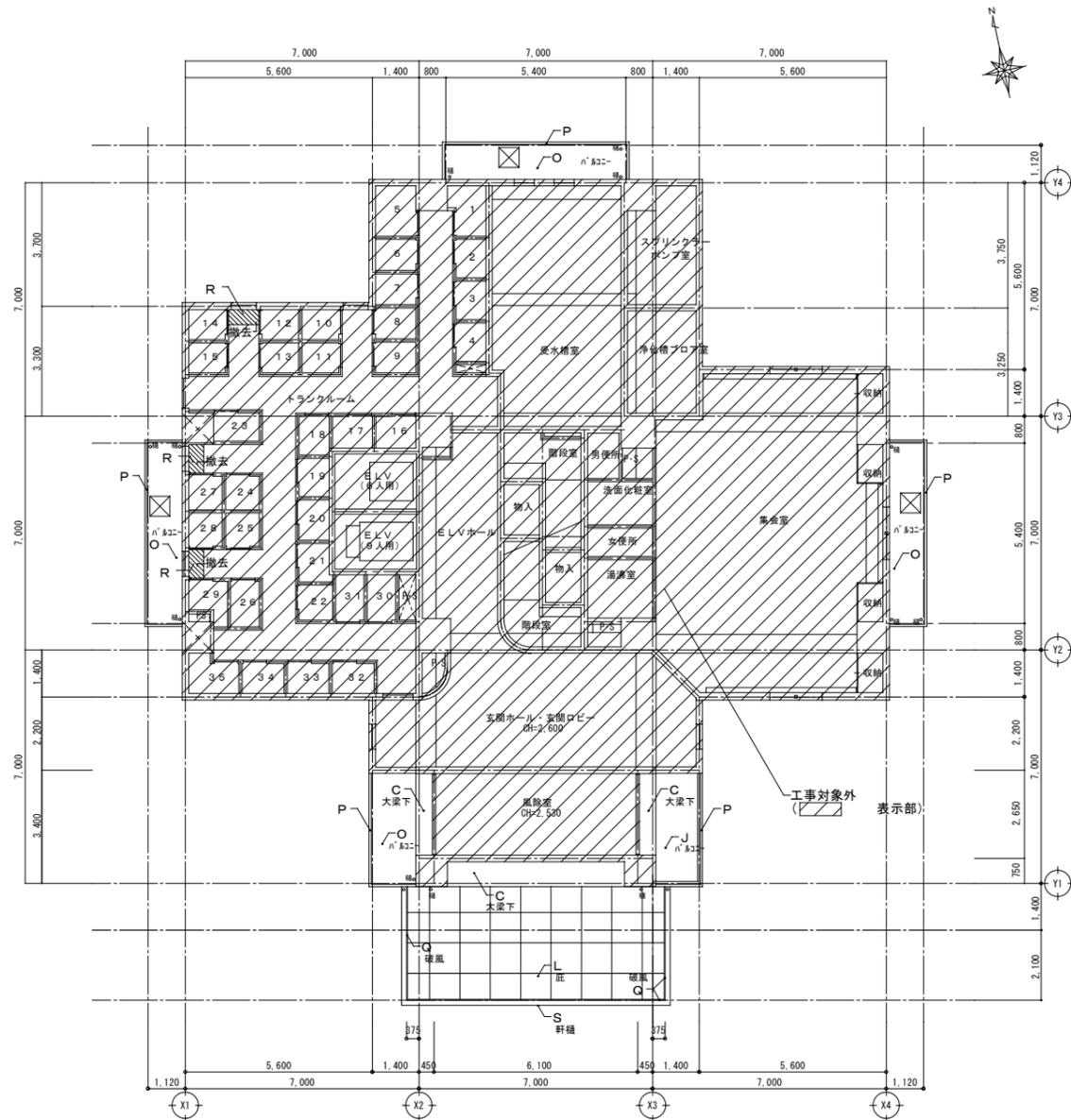


改修後

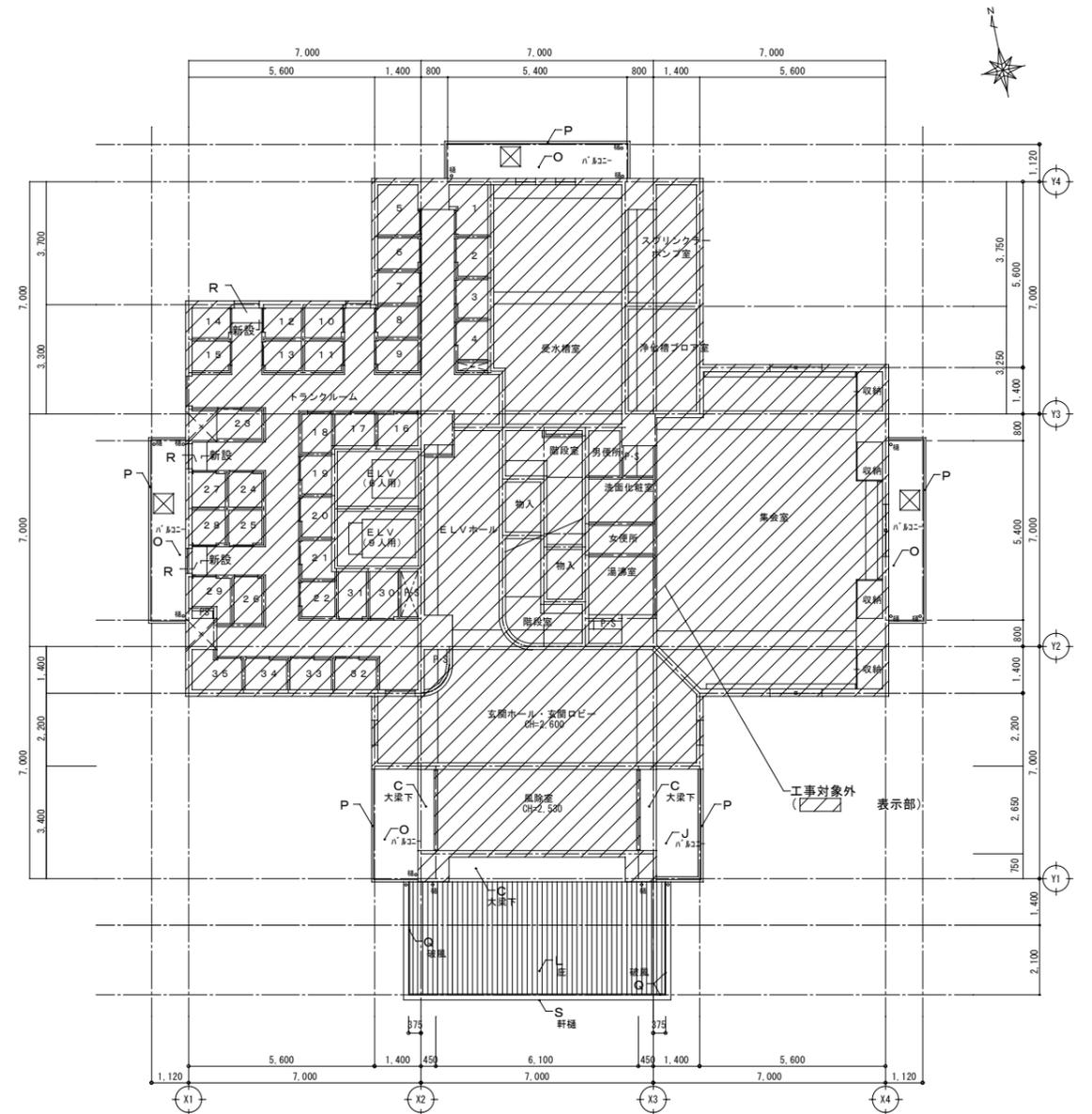
備考	一級建築士事務所新潟県知事登録(ト)第1774号	組合 審査	総括・一級建築士	担当事務所長	工事名称	図面名	縮尺 A1版 1/100 A3版 1/200 年月日 R03.12	整理分類番号	図面番号 ①・電・衛・空 ②・厨・外 合計枚数
	上越市建築設計協同組合	第106046号 新潟一級設計総合事務所 齊藤 博	基本 ①・電・衛・空 ②・厨・外 齊藤 博	市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事	【改修前・後】 南立面図				



備考	一級建築士事務所新潟県知事登録(ト)第1774号	組合審査	総括・一級建築士	担当事務所長	工事名称	図面名	縮尺 A1版 1/100 A3版 1/200	整理分類番号	図面番号 ◎・電・衛・空 A-23 年月日 R03.12
	上越市建築設計協同組合 管理建築士・一級建築士登録第125068号 宮下幸彦	第106046号 尚第一設計総合事務所 斉藤博◎	基本・電・衛・設備 尚第一設計総合事務所 斉藤博◎	市営港町特定公共賃貸住宅外部改修工事					



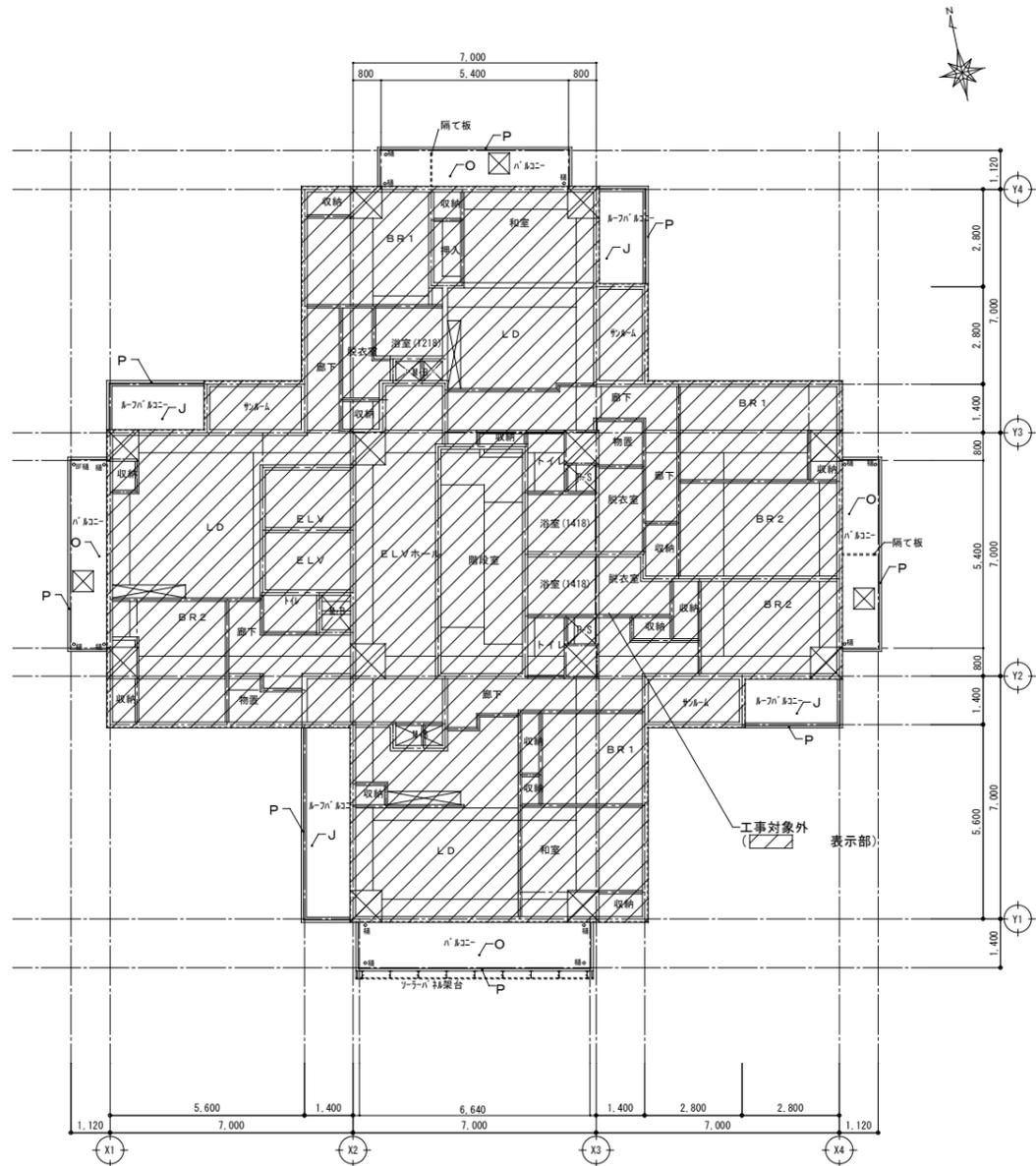
【改修前】1階天井伏せ図 S=1/100



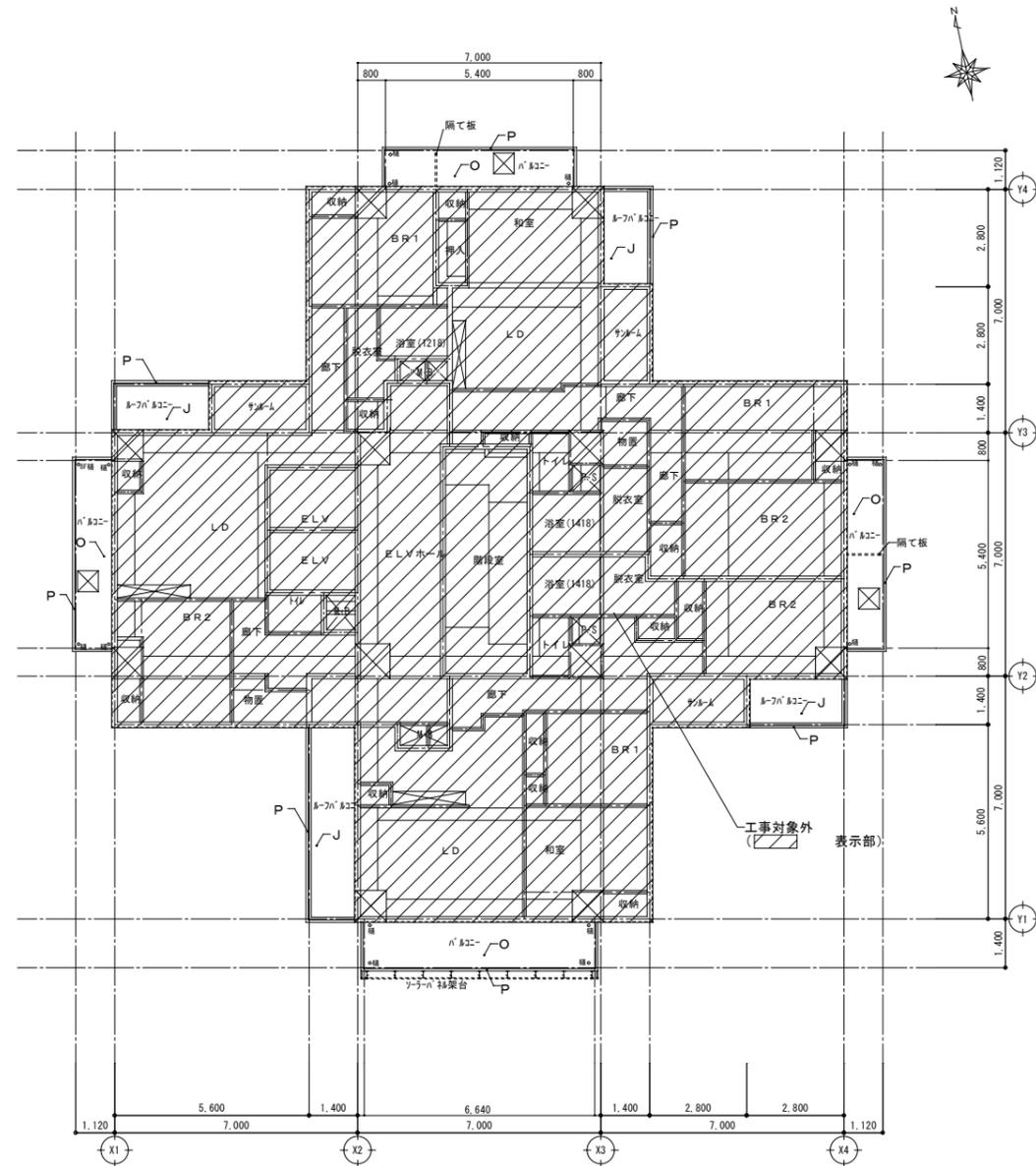
【改修後】1階天井伏せ図 S=1/100

既存天井凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	床裏：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材) 下地 コンクリート打放し増打 t=15補修仕上	Q	破風鼻隠し：SPt&t=0.40加工品
G	防水型外装薄塗材E 下地：ケイ酸カルシウム板t=6.0+LGS25(ワット共)撤去 廻り縁(塩ビ製)撤去	R	化粧石膏板・D(ダクト) t=9.5 撤去 LGS19型(ワット共) 廻り縁(塩ビ製)撤去※強部のみ
I	屋根裏板：SPt&t=0.45加工品 W350×H300 ビス止め@450計6カ所 取付ビス止め撤去	S	軒巻：SPt&t=0.45加工品 W350×H300 ビス止め@450計6カ所 取付ビス止め撤去
J	居室裏：防水型外装薄塗材E 断熱複合板打込みt=31	☒	避難ハッチ 枠：SPt&t製
L	応裏：ケイ酸カルシウム板t=6.0(エンボス模様) EP 撤去 下地 LGS25(ワット共) 撤去 廻り縁：塩ビ製撤去	隔て板：7&t製支柱補強45°
O	防水型外装薄塗材E 下地 コンクリート打放し補修仕上		
P	軒先角：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材)化粧目地20×15 下地 コンクリート打放し補修仕上		

改修後凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	床裏上塗り：高耐水性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑状仕上げ 下地処理：劣化部補修(ワット等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(2&t)0.8kg/m ² 以上	Q	破風鼻隠し：DP塗(1&t) フッ素樹脂 下地調整：RB種 錆止め塗装B種(2&t)
G	防水型外装薄塗材E(ローラー塗) 下地調整：1液形2&t 樹脂溶剤系シーラ塗 下地：ケイ酸カルシウム板t=6.0+LGS25(ワット共)@300 新設 廻り縁(塩ビ製)新設	R	化粧石膏板・D t=9.5 新設 LGS19@225(ワット共) 新設 廻り縁(塩ビ製) 新設※強部のみ
I	屋根裏板：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RC種 笠木、鼻板取付ビス@450 新設	S	軒巻：高圧水洗浄(水圧15Mpa程度) 再取付
J	居室裏：防水型外装薄塗材E(ローラー塗) 下地調整：1液形エポキシ樹脂溶剤系シーラ塗	☒	避難ハッチ：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RC種
L	応裏：アルミハンドレドレ貼t=1.0 新設 下地 LGS25(ワット共)@300 新設 廻り縁：アルミ製新設	隔て板：軒巻支柱取付&t&t及び&t部：溶剤による錆落とし処理 下地調整RC種
O	上塗り：高耐水性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑状仕上げ 下地処理：劣化部補修(ワット等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(2&t)0.8kg/m ² 以上		
P	軒先角上塗り：高耐水性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑状仕上げ 下地処理：劣化部補修(ワット等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(2&t)0.8kg/m ² 以上 化粧目地：20×15 既存のまま		



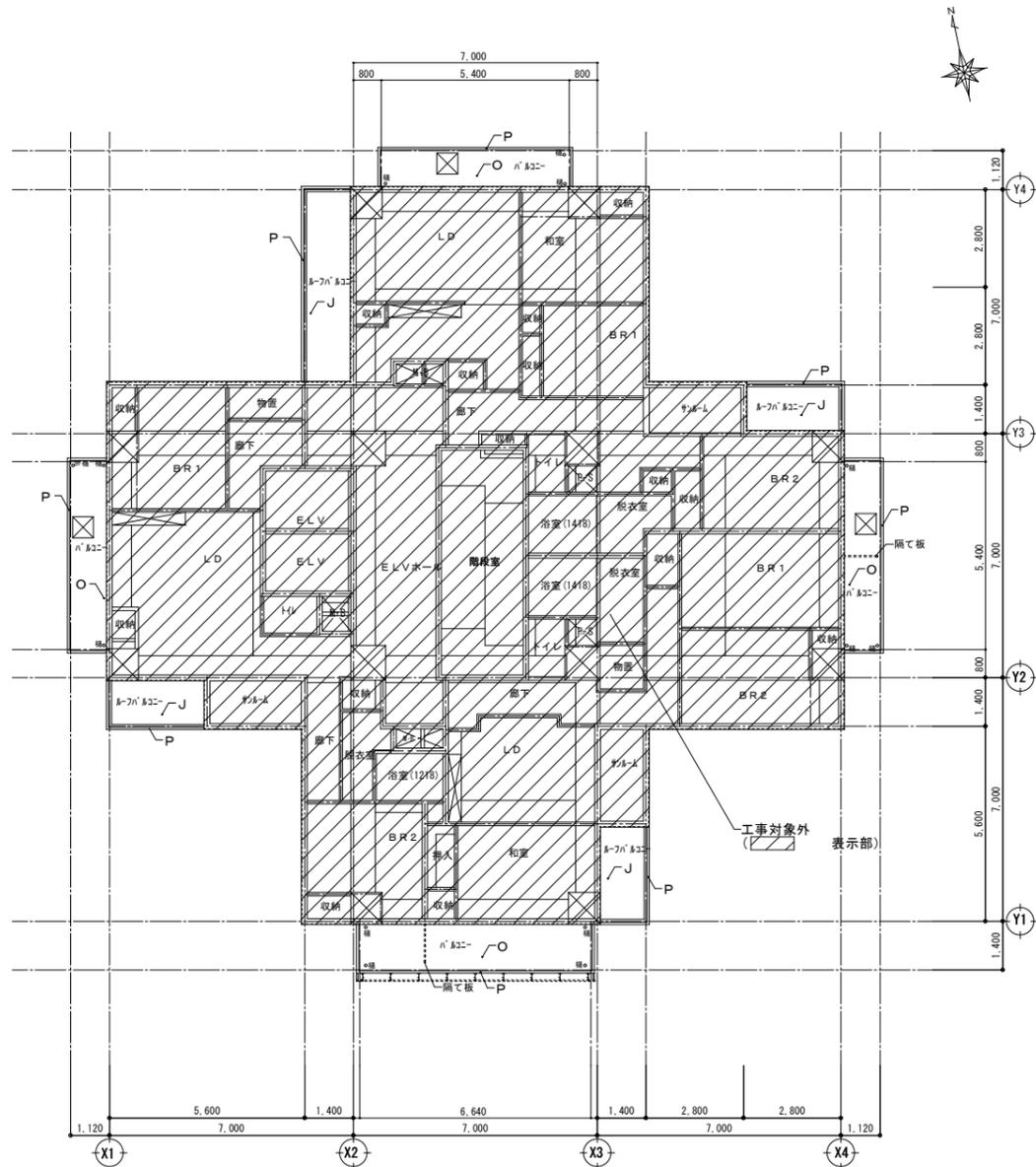
【改修前】2・4・6・8階天井伏せ図 S=1/100



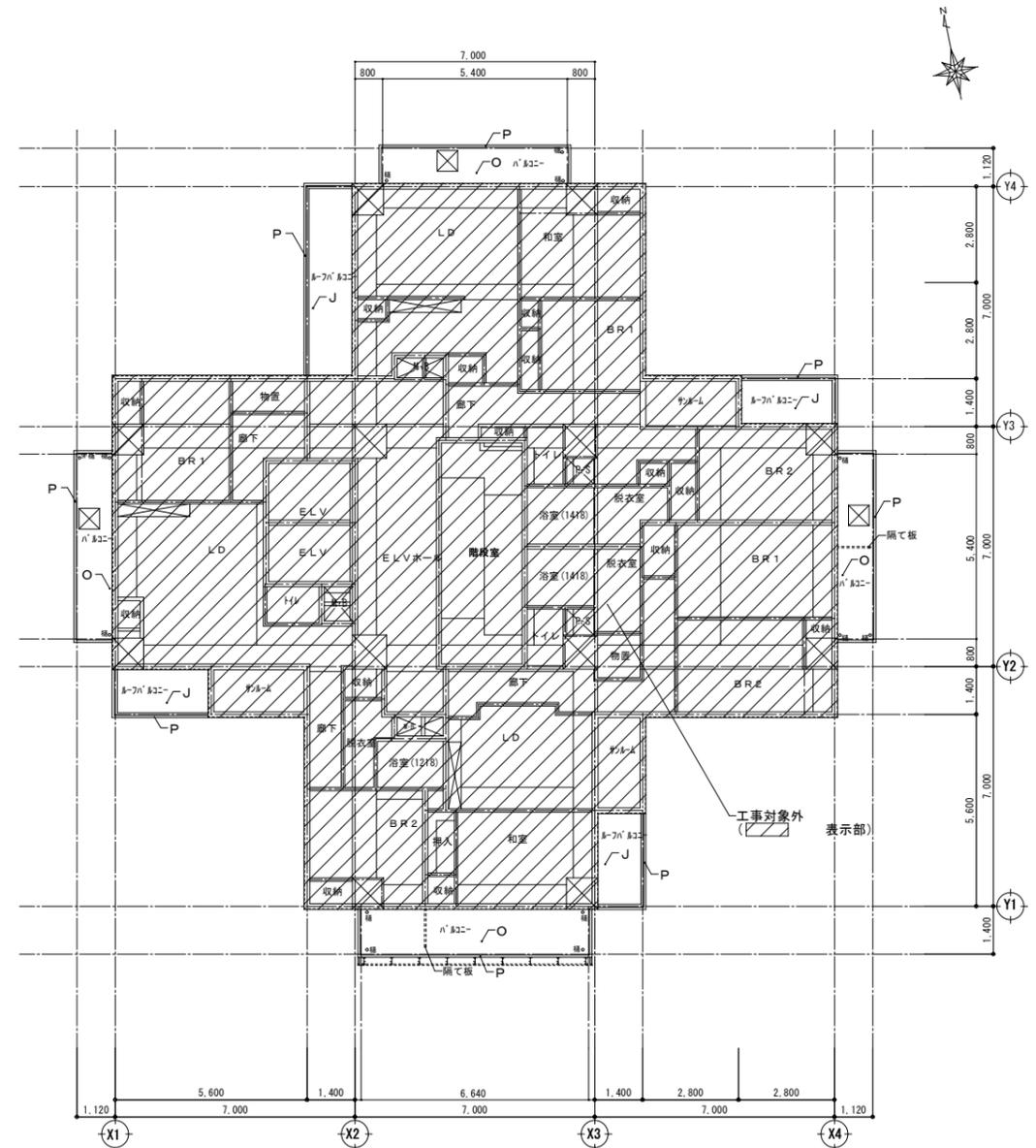
【改修後】2・4・6・8階天井伏せ図 S=1/100

既存天井凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	床裏：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材) 下地 コンクリート打放し増打 t=15補修仕上	Q	破風鼻隠し：ｽﾌﾟﾗｽﾄ=0.40加工品
G	防水型外装薄塗材E 下地：ケイ酸カルシウム板t=6.0+LGS25(ｲﾝｯﾄ共)撤去 廻り縁(塩ビ製)撤去	R	化粧石膏板-1'(ｼﾞﾌﾞｯﾄ)ｵ=9.5 撤去 LGS19型(ｲﾝｯﾄ共) 廻り縁(塩ビ製)撤去※張替部のみ
I	屋根裏板：ｽﾌﾟﾗｽﾄ=0.45加工品 W350×H300 ビス止め@450計6カ所 取付ビス止め撤去	S	軒種：ｽﾌﾟﾗｽﾄ芯入高性樹脂被覆品 取外し
J	居室裏：防水型外装薄塗材E 断熱複合板打込みt=31	☒	避難ハッチ 種：重ﾌﾗｯｽ製
L	庇裏：ケイ酸カルシウム板t=6.0(ｴﾝｯﾄス模様) EP 撤去 下地 LGS25(ｲﾝｯﾄ共) 撤去 廻り縁：塩ビ製撤去	隔て板：7&3製支柱補強45角
O	防水型外装薄塗材E 下地 コンクリート打放し補修仕上		
P	軒先角：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材)化粧目地20×15 下地 コンクリート打放し補修仕上		

改修後凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	床裏上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上げ 下地処理：劣化部補修(ｸﾗｯｸ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(ﾈｯﾌﾟ系)0.8kg/㎡以上	Q	破風鼻隠し：DP塗 (1級)ﾌﾝｯｼﾞ樹脂 下地調整：RB種 錆止め塗装B種(ﾈｯﾌﾟ系)
G	防水型外装薄塗材E(ローラー塗) 下地調整：1液形ﾈｯﾌﾟ樹脂溶剤系ｼｰﾗｰ塗 下地：ケイ酸カルシウム板t=6.0+LGS25(ｲﾝｯﾄ共)@300 新設 廻り縁(塩ビ製)新設	R	化粧石膏板-1'(ｼﾞﾌﾞｯﾄ)ｵ=9.5 新設 LGS19@225(ｲﾝｯﾄ共) 新設 廻り縁(塩ビ製)新設※張替部のみ
I	屋根裏板：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RC種 立木、幕板取付ビス@450 新設	S	軒種：高圧水洗浄(水圧15Mpa程度) 再取付
J	居室裏：防水型外装薄塗材E塗(ローラー塗) 下地調整：1液形エポキシ樹脂溶剤系ｼｰﾗｰ塗	☒	避難ハッチ：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RC種
L	庇裏：アルミスﾊﾞﾝﾄﾞﾚｯﾄﾙt=1.0 新設 下地 LGS25(ｲﾝｯﾄ共)@300 新設 廻り縁：アルミ製新設	隔て板：軒裏支柱取付ｽﾌﾟﾗｽﾄ及びﾌﾗｯﾄ部：溶剤による錆落とし処理 下地調整RC種
O	上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上げ 下地処理：劣化部補修(ｸﾗｯｸ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(ﾈｯﾌﾟ系)0.8kg/㎡以上		
P	軒先角上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑仕上げ 下地処理：劣化部補修(ｸﾗｯｸ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(ﾈｯﾌﾟ系)0.8kg/㎡以上 化粧目地：20×15 既存のまま		



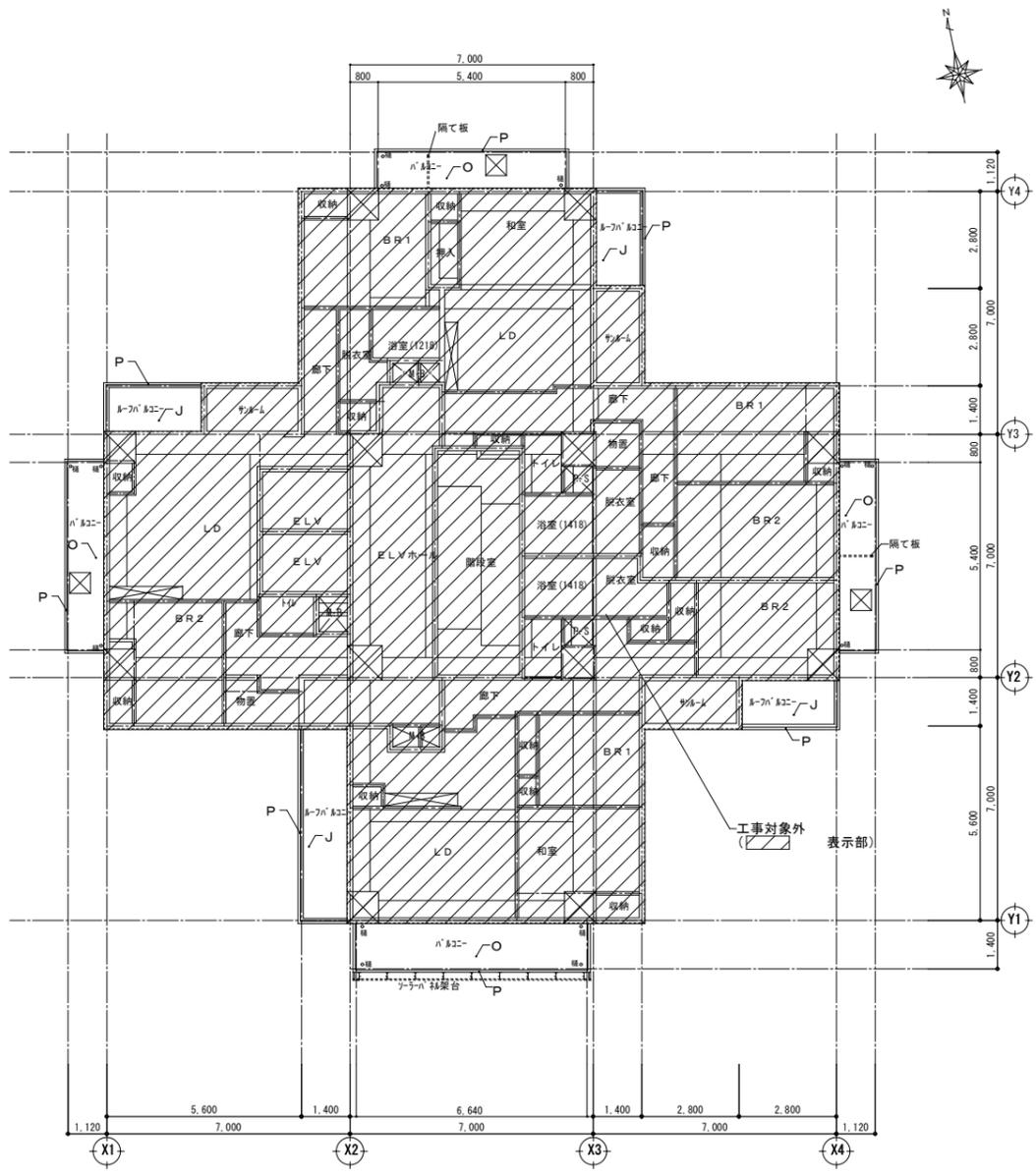
【改修前】3・5・7・9階天井伏せ図 S=1/100



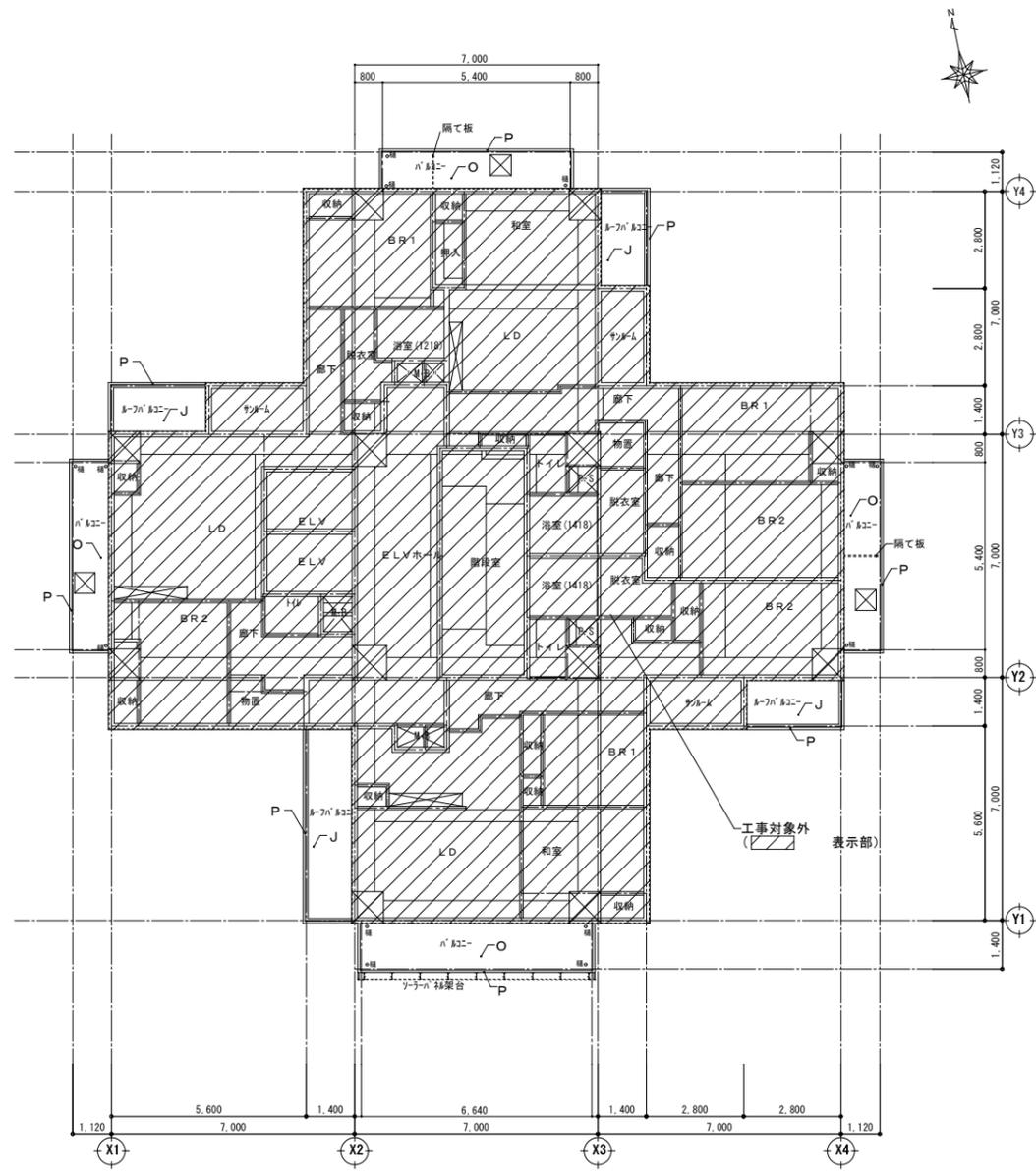
【改修後】3・5・7・9階天井伏せ図 S=1/100

既存天井凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	床裏：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材) 下地 コンクリート打放し増打t=15補修仕上	Q	破風鼻隠し：スチール=0.40加工品
G	防水型外装薄塗材E 下地：ケイ酸カルシウム板t=6.0-LGS25(イオト共)撤去 廻り縁(塩ビ製)撤去	R	化粧石膏ボード(シフト)t=9.5 撤去 LGS19型(イオト共) 廻り縁(塩ビ製)撤去※強部のみ
I	屋根高板：3F-2Fバルコニーt=0.45加工品 W350×H300 ビス止め@450計6カ所 取付ビス止め撤去	S	軒種：2F-3F高圧樹脂被覆品 取外し
J	居室裏：防水型外装薄塗材E 断熱複合板打込みt=31	☒	避難ハッチ 枠、蓋：スチール製
L	庇裏：ケイ酸カルシウム板t=6.0(エンボス模様) EP 撤去 下地 LGS25(イオト共) 撤去 廻り縁(塩ビ製)撤去	隔て板：7#製支柱補強45角
O	防水型外装薄塗材E 下地 コンクリート打放し補修仕上		
P	軒先角：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材)化粧目地20×15 下地 コンクリート打放し補修仕上		

改修後凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	床裏上塗り：高耐水性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑状仕上げ 下地処理：劣化部補修(3ヶ所等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(※ 杉系)0.8kg/m ² 以上	Q	破風鼻隠し：DP塗(1級)フッ素樹脂 下地調整：RB種 錆止め塗装RB種(※ 杉系)
G	防水型外装薄塗材E(ローラー塗) 下地調整：1液形2# 杉樹脂溶剤系シーラー塗 下地：ケイ酸カルシウム板t=6.0+LGS25(イオト共)@300 新設 廻り縁(塩ビ製)新設	R	化粧石膏ボードt=9.5 新設 LGS19@225(イオト共) 新設 廻り縁(塩ビ製)新設※強部のみ
I	屋根高板：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RB種 笠木、高板取付ビス@450 新設	S	軒種：高圧水洗浄(水圧15Mpa程度) 再取付
J	居室裏：防水型外装薄塗材E塗(ローラー塗) 下地調整：1液形エポキシ樹脂溶剤系シーラー塗	☒	避難ハッチ：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RB種
L	庇裏：アルミバンドレル貼t=1.0 新設 下地 LGS25(イオト共)@300 新設 廻り縁：アルミ製新設	隔て板：軒裏支柱取付ビス及びプレート部：溶剤による錆落とし処理 下地調整RB種
O	上塗り：高耐水性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑状仕上げ 下地処理：劣化部補修(3ヶ所等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(※ 杉系)0.8kg/m ² 以上		
P	軒先角上塗り：高耐水性樹脂塗料(シリコン系)ローラー塗り平滑状仕上げ 下地処理：劣化部補修(3ヶ所等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(※ 杉系)0.8kg/m ² 以上 化粧目地：20×15 既存のまま		



【改修前】10階天井伏せ図 S=1/100



【改修後】10階天井伏せ図 S=1/100

既存天井凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	梁裏：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材) 下地：コンクリート打放し増打 t=15補修仕上	Q	破風鼻隠し：XF1/t=0.40加工品
G	防水型外装薄塗材E 下地：ケイ酸カルシウム板 t=6.0+LGS25(ノット共)撤去 廻り縁(塩ビ製)撤去	R	化粧石膏板'-'(G'アト) t=9.5 撤去 LGS19型(ノット共) 廻り縁(塩ビ製) 撤去※強替部のみ
I	屋根幕板：3F-XF1/t=0.45加工品 W350×H300 ビス止め@450計6カ所 取付ビス止め撤去	S	軒縁：XF-3芯入り樹脂被覆品 取外し
J	居室裏：防水型外装薄塗材E 断熱複合板打込み t=31	☒	避難ハッチ 枠、蓋：XF1/t製
L	応裏：ケイ酸カルシウム板 t=6.0 (エンボス模様) EP 撤去 下地：LGS25(ノット共) 撤去 廻り縁：塩ビ製撤去	隔て板：7&3製支柱補強45角
O	防水型外装薄塗材E 下地：コンクリート打放し補修仕上		
P	軒先角：防水型外装薄塗材E(多機能型単層弾性仕上塗材) 化粧目地20×15 下地：コンクリート打放し補修仕上		

改修後凡例			
記号	仕上材	記号	仕上材
C	梁裏上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系) ローラー塗り平滑仕上 下地処理：劣化部補修(9ヶ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(2&3系)0.8kg/m以上	Q	破風鼻隠し：DP塗(1級) フッ素樹脂 下地調整：RB種 錆止め塗装B種(2&3系)
G	防水型外装薄塗材E(ローラー塗) 下地調整：1液形1&4樹脂溶剤系シーラー塗 下地：ケイ酸カルシウム板 t=6.0+LGS25(ノット共)@300 新設 廻り縁(塩ビ製) 新設	R	化粧石膏板'-' t=9.5 新設 LGS19@225(ノット共) 新設 廻り縁(塩ビ製) 新設※強替部のみ
I	屋根幕板：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RC種 笠木、幕板取付ビス@450 新設	S	軒縁：高圧水洗浄(水圧15Mpa程度) 再取付
J	居室裏：防水型外装薄塗材E塗(ローラー塗) 下地調整：1液形エポキシ樹脂溶剤系シーラー塗	☒	避難ハッチ：溶剤による錆落とし処理仕上 下地調整RC種
L	応裏：アルミスバンドレル貼 t=1.0 新設 下地：LGS25(ノット共)@300 新設 廻り縁：アルミ製新設	隔て板：軒裏支柱取付枠&及びプレート部：溶剤による錆落とし処理 下地調整RC種
O	上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系) ローラー塗り平滑仕上 下地処理：劣化部補修(9ヶ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(2&3系)0.8kg/m以上		
P	軒先角上塗り：高耐候性樹脂塗料(シリコン系) ローラー塗り平滑仕上 下地処理：劣化部補修(9ヶ等) 高圧水洗浄(水圧15Mpa程度)の上 素地調整 下地調整塗材：可とう形改修塗材RE(2&3系)0.8kg/m以上 化粧目地：20×15 既存のまま		